

上の原遺跡群5次

市道金川小学校3号線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2022

田川市教育委員会

田川市文化財調査報告書第19集

上の原遺跡群 5 次

市道金川小学校3号線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2022

田川市教育委員会

序

本書は、市道金川小学校3号線新設に伴う上の原遺跡群5次発掘調査についてまとめたものです。主に弥生時代から古代の集落跡が見つかり、周辺の調査と合わせて考えると、当時の生活の様子が明らかになってきています。

これらの成果は、本市の歴史的景観を復元するにあたり、欠くことのできない貴重な資料です。市民の皆様の地域理解の一助として、また学術的な研究資料として広く活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが発掘調査および本書の作成にあたり、ご指導とご助言、ご協力をいただきました多くの関係者の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月
田川市教育委員会
教育長 吉 柳 啓 二

例 言

1. 本書は、市道金川小学校3号線新設に伴って埋蔵文化財発掘調査を実施した、田川市大字橋に所在する上の原遺跡群5次の記録である。
2. 発掘調査、整理作業・報告書作成作業は、福岡県土整備局道路維持課・田川市建設経済部土木課の協力のもと、社会資本整備総合交付金を用いて、田川市教育委員会文化生涯学習課が実施した。
3. 遺構全体図に用いた国土座標は、世界測地系（測地成果 2000）で表示した。また、遺構平面図に付す方位針は磁北である。
4. 発掘調査、整理作業・報告書作成作業に携わった作業員雇用等は、株式会社ツシマに委託した。
5. 本書に掲載した遺構図は調査担当者の指導のもと、委託業者作業員が作成した。また、令和元・2年度に九州航空株式会社へ空中写真測量を委託し、空中写真の撮影と測量（1/20）を作成した。
6. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2003年度版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
7. 出土遺物の整理作業は整理担当者の指導のもと、古賀彩音と委託業者作業員が実施した。
8. 本書に掲載した遺物実測図の作成は整理担当者のほか、委託業者作業員が作成した。
9. 遺構写真および遺物写真は、調査・整理担当者が撮影した。
10. 鉄製品の保存処理は、小林 啓氏（九州歴史資料館）に依頼した。
11. 第Ⅲ章第5節 ST155について、九州文化財計測支援集団の協力をいただき、3D 写真計測図を作成した。なお、取得した3D データは、田川市ホームページにて公開をしているので活用されたい。
<http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/kiji0037920/index.html>
12. 本書の執筆は、第Ⅳ章第1節を志賀智史氏（九州国立博物館）、第Ⅳ章第2節を株式会社古環境研究所、その他の執筆と編集を江上正高がおこなった。
13. 出土遺物、図面、写真等の記録類は、田川市教育委員会で保管している。

凡 例

1. 本書に掲載される遺構の性格を表記する記号は、以下のとおりである。
SB：掘立柱建物跡、SI：堅穴建物跡、SD：溝跡、SK：土坑跡、ST：墓跡、SP：柱穴跡、SX：性格不明遺構跡等
2. 本書で用いる時期は、以下の文献に記載されている。
弥生土器 武末純一他 2006「二 弥生土器の編年と地域間交流」『行橋市史 資料編 原始・古代』行橋市
古式土師器 久住猛雄 1991「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究Ⅸ』
庄内式土器研究会
松浦宇哲他 2017「筑豊の古式土師器」『九州島における古式土師器』
第19回九州前方後円墳研究会
土師器 佐藤浩司 1991「旧豊前国における古代末から中世前期の土器様相」『中近世土器の基礎研究Ⅶ』
日本中世土器研究会
輸入陶磁器 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ』太宰府市の文化財第49集
3. 次の挿図の出典は、以下のとおりである。
第1図：国立研究開発法人産業技術総合研究所20分の1日本シームレス地質図
第2図：田川市建設経済部都市計画課（国土地理院『承認番号 平成22 九公 第28号』）
第5図：国土地理院『米軍撮影空中写真』 USA-M105-72 1947年3月7日撮影
4. 遺物実測図のスケールは弥生土器・石製品は4分の1、土師器・須恵器・陶器・瓦は3分の1、鉄製品は2分の1としたが、大形・小形遺物はこの限りではない。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 地理的・歴史的環境	2
第Ⅱ章 調査の概要	6
第1節 調査の方針と経過	6
第2節 調査の概要	6
第3節 層位など	10
第Ⅲ章 遺構・遺物	11
第1節 掘立柱建物跡	11
第2節 竪穴建物跡	16
第3節 溝跡	33
第4節 土坑跡	38
第5節 墓跡	72
第6節 柱穴跡	78
第7節 性格不明遺構・包含層	78
第Ⅳ章 自然科学分析	80
第1節 上の原遺跡群第5次調査で出土した赤色顔料について	80
第2節 上の原遺跡群5次自然科学分析業務報告	83
第Ⅴ章 まとめ	89
第1節 遺構と時期について	89
第2節 上の原遺跡群における遺構の時期別変遷	91

挿図目次

第1図 遺跡周辺地質図	第19図 SI70・80・95・100実測図
第2図 市内遺跡等分布図	第20図 SI115実測図
第3図 計画図	第21図 SI140・150・160実測図
第4図 遺構配置図	第22図 SI70・80・115・140・150 出土遺物実測図
第5図 米軍による航空写真(1947年撮影)	第23図 SI170・SK200実測図
第6図 SB1～3・7実測図	第24図 SD13実測図・出土遺物実測図
第7図 SB4～6実測図	第25図 SD85～87実測図
第8図 SB8・9実測図	第26図 SD90・134実測図
第9図 SB10・11実測図	第27図 SD90出土遺物実測図
第10図 SB1・2・6・10出土遺物実測図	第28図 SD13・90出土遺物実測図
第11図 SI10・15実測図	第29図 SD92・99・110実測図
第12図 SI20・25実測図	第30図 SD110出土遺物実測図
第13図 SI10・15・20・25出土遺物実測図	第31図 SK1・5～7実測図
第14図 SI35・40実測図	第32図 SK1・5出土遺物実測図
第15図 SI45・50実測図	第33図 SK6出土遺物実測図
第16図 SI65実測図	第34図 SK7出土遺物実測図①
第17図 SI35・40・45・50・65出土遺物実測図	第35図 SK7出土遺物実測図②
第18図 SI10・15・20・35・40・50出土遺物実測図	

第36図	SK11・27～29実測図・ SK11出土遺物実測図	第51図	SK125出土遺物実測図①
第37図	SK21・22・30・31実測図	第52図	SK125出土遺物実測図②
第38図	SK32・33実測図	第53図	SK130・135・144・145出土遺物実測図
第39図	SK21出土遺物実測図	第54図	SK1・5～7・21・22・28出土遺物実測図
第40図	SK34・38・39・41～44実測図	第55図	SK32・34・41・43・64・135・144 出土遺物実測図
第41図	SK22・28①出土遺物実測図	第56図	ST36・37・75実測図
第42図	SK28②・30～34出土遺物実測図	第57図	ST37・75実測図
第43図	SK38・39・41出土遺物実測図	第58図	ST36・37出土遺物実測図
第44図	SK42出土遺物実測図	第59図	ST155実測図
第45図	SK43出土遺物実測図①	第60図	ST175・180・190実測図
第46図	SK43出土遺物実測図②	第61図	ST185実測図
第47図	SK44出土遺物実測図	第62図	ST75・180・185出土遺物実測図
第48図	SK47・51・52・60・61・67実測図	第63図	SP実測図・出土遺物実測図
第49図	SK105・120・125・130・135・144・145 実測図	第64図	SX78・124実測図
第50図	SK47・52・60・61・67・120 出土遺物実測図	第65図	SX・包含層出土遺物実測図
		第66図	上の原遺跡群調査分布図

分 析 挿 図 目 次

第1図 赤色顔料の調査結果

付 図 目 次

付図1 令和元年度調査区遺構配置図

付図2 令和2年度調査区遺構配置図

表 目 次

表1 SK42出土焼土一覧表

表4 柱穴跡一覧表

表2 上の原遺跡群遺構時期別表

表5 遺物観察表

表3 遺構一覧表

分 析 表 目 次

分析表1 上の原遺跡群5次調査出土の赤色顔料分析結果一覧

分析表2 樹種同定

分析表3 種実同定結果

分 析 図 版 目 次

分析図版1 炭化材、種子図版

図 版 目 次

図版 1

①令和元年度調査区全景

②令和2年度調査区全景

図版 2

①SB1～3・7完掘状況（空中写真）

⑤SB8完掘状況（東から）

②SB4完掘状況（空中写真）

⑥SB9完掘状況（北から）

③SB5完掘状況（空中写真）

⑦SB10完掘状況（南から）

④SB6、SI10・45・50・65・70完掘状況（空中写真）

⑧SB10P1堆積状況（東から）

図版 3

①SB10P2堆積状況（東から）

⑤SI10地割状況（西から）

②SB11完掘状況（東から）

⑥SI15完掘状況（南から）

③SI10完掘状況（南から）

⑦SI20完掘状況（北から）

④SI10出土遺物

⑧SI20出土遺物

図版 4

①SI25完掘状況（東から）

⑤SI45遺物・炭化物出土状況（東から）

②SI25出土遺物

⑥SI50完掘状況（西から）

③SI35完掘状況（西から）

⑦SI65完掘状況（南西から）

④SI45完掘状況（東から）

⑧SI65土坑跡完掘状況（北から）

図版 5

①SI70完掘状況（北から）

⑤SI100完掘状況（東から）

②SI70出土状況（北から）

⑥SI115完掘状況（南から）

③SI70出土遺物

⑦SI115出土遺物

④SI80・95完掘状況（東から）

⑧SI140完掘状況（東から）

図版 6

①SI150完掘状況（西から）

⑤SI170・SK200完掘状況（西から）

②SI150出土状況（北東から）

⑥SD13完掘状況（空中写真）

③SI150出土遺物

⑦SD13完掘状況（南東から）

④SI160完掘状況（東から）

⑧SD13堆積状況（東から）

図版 7

①SD13堆積状況（南から）

⑤SD87堆積状況（北から）

②SD13堆積状況（東から）

⑥SD87・89・91・92・99・110完掘状況（空中写真）

③SD13出土遺物

⑦SD90完掘状況（空中写真・合成）

④SD87完掘状況（北から）

⑧SD90（東西）完掘状況（東から）

図版 8

①SD90（東西）堆積状況（東から）

⑤SD90出土遺物

②SD90（東西）堆積状況（西から）

⑥SD92・99・110完掘状況（北から）

③SD90（南北）完掘状況（南から）

⑦SD99・110完掘状況（東から）

④SD90（南北）堆積状況（北から）

⑧SD110堆積状況（東から）

図版 9

①SK1完掘状況（北から）

⑤SK6出土遺物②

②SK5完掘状況（西から）

⑥SK7完掘状況（東から）

③SK6完掘状況（北から）

⑦SK7出土遺物①

④SK6出土遺物①

⑧SK7出土遺物②

図版10

- | | |
|----------------|----------------|
| ①SK7出土遺物③ | ⑤SK22出土遺物 |
| ②SK11完掘状況(西から) | ⑥SK28完掘状況(南から) |
| ③SK21完掘状況(西から) | ⑦SK29完掘状況(北から) |
| ④SK22完掘状況(西から) | ⑧SK30完掘状況(北から) |

図版11

- | | |
|----------------|------------------|
| ①SK31完掘状況(南から) | ⑤SK38完掘状況(南から) |
| ②SK32完掘状況(南から) | ⑥SK39遺物出土状況(南から) |
| ③SK33完掘状況(東から) | ⑦SK39出土遺物 |
| ④SK34完掘状況(南から) | ⑧SK41遺物出土状況(東から) |

図版12

- | | |
|----------------|----------------|
| ①SK41出土遺物 | ⑤SK43出土遺物① |
| ②SK42完掘状況(西から) | ⑥SK43出土遺物② |
| ③SK42出土遺物 | ⑦SK44完掘状況(西から) |
| ④SK43完掘状況(西から) | ⑧SK47完掘状況(東から) |

図版13

- | | |
|----------------|-------------------|
| ①SK51完掘状況(西から) | ⑤SK64完掘状況(南から) |
| ②SK52完掘状況(西から) | ⑥SK64堆積状況(南から) |
| ③SK60完掘状況(西から) | ⑦SK120遺物出土状況(西から) |
| ④SK61完掘状況(西から) | ⑧SK125堆積状況(北から) |

図版14

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ①SK125出土遺物 | ⑤SK144完掘状況(西から) |
| ②SK130完掘状況(北から) | ⑥SK145完掘状況(北から) |
| ③SK130出土遺物 | ⑦SK145完掘状況接写(北から) |
| ④SK135完掘状況(北から) | ⑧ST36堆積状況(東から) |

図版15

- | | |
|----------------|-------------------|
| ①ST36完掘状況(東から) | ⑤ST37完掘状況(南から) |
| ②ST36出土遺物 | ⑥ST37主体部完掘状況(南から) |
| ③ST37堆積状況(南から) | ⑦ST75検出状況(南から) |
| ④ST37堆積状況(東から) | ⑧ST75出土状況(南から) |

図版16

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| ①ST75出土遺物 上壺 | ⑤ST155完掘状況(西から) |
| ②ST75出土遺物 下壺 | ⑥ST155完掘状況接写(西から) |
| ③ST155堆積状況(北から) | ⑦ST175・180・185・190検出状況(東から) |
| ④ST155主体部堆積状況(東から) | ⑧ST175検出状況(東から) |

図版17

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ①ST175堆積状況(東から) | ⑤ST180石蓋検出状況(西から) |
| ②ST175赤色顔料検出状況(西から) | ⑥ST180石蓋除去状況(西から) |
| ③ST175完掘状況(東から) | ⑦ST180出土遺物 |
| ④ST180堆積状況(北から) | ⑧ST185出土状況(南から) |

図版18

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ①ST185出土遺物 | ⑤SP650出土遺物 |
| ②SP550堆積状況(北から) | ⑥SX124完掘状況(東から) |
| ③SP550完掘状況(北から) | ⑦令和元年度調査風景 |
| ④SP650出土状況(東から) | ⑧令和2年度調査風景 |

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

平成29年10月に田川市土木課（以下「土木課」とする。）から市教育委員会文化生涯学習課（以下「市文化生涯学習課」とする。）へ、周知の埋蔵文化財包蔵地である上の原遺跡群内において、市道金川小学校3号線新設の計画が挙がった。市文化生涯学習課は現地保存を要望したものの計画変更は困難であったため、記録保存による発掘調査が必要であると回答する。また、土木課は平成30年度からの発掘調査を想定していたが、市文化生涯学習課は平成30年度まで県受託事業に対応していたため、平成31年度より対応が可能であると回答を行った。再度、平成30年7月に土木課と協議を行った結果、対象地を平成31・32年度の2ヶ年度に分けて記録保存による発掘調査を実施することとなった。これを受けて、10月5日付け田土第49号で文化財保護法第94条通知を市文化生涯学習課へ提出、県文化財保護課へ進達を行った。併せて、同日付け田土第50号で発掘調査の依頼が市文化生涯学習課に提出された。10月19日付け30教文第1号の907にて、県より発掘調査の指示があった。

なお、土木課の依頼を受けて、確認調査を平成31年2月21日に実施した。確認調査の詳細は、下記に記しているため割愛させていただく。

田川市教育委員会 2021『田川市内遺跡試掘・確認・発掘調査報告（2）』田川市文化財調査報告第18集

第2節 調査組織

発掘調査および報告書作成の整理作業は、福岡県土整備局道路維持課市町村道路係、土木課の協力のもと、令和元・2年度に発掘調査、令和3年度に整理作業・報告書作成を実施した。発掘調査、整理作業・報告書作成に関わる関係者は下記のとおりである。

田川市教育委員会

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教 育 長	吉柳 啓二	吉柳 啓二	吉柳 啓二
教 育 部 長	矢野 俊昭	賤津 嘉久	賤津 嘉久
文化生涯学習課			
課 長	立田 昌子	立田 昌子	立田 昌子
課 長 補 佐		進村 順次（令和3年1月22日まで）	進村 順次
課長補佐兼文化係長	野島 豊治	進村 順次（令和3年1月22日から）	
文化係長		奥 慎一（令和3年1月22日まで）	中田 浩史
事務主査	原 俊英	原 俊英	廣井 康司
	奥 慎一	福本 寛	福本 寛
主 任	福本 寛	森本 弘行（再任用）	森本 弘行（再任用）
	森本 弘行（再任用）		
学 芸 員	朝鳥 和美	朝鳥 和美	朝鳥 和美
	中村 麻里	中村 麻里	中村 麻里
	江上 正高（調査担当）	江上 正高（調査担当）	江上 正高（整理担当）
嘱託職員	古賀 彩音		
会計年度任用職員		古賀 彩音	古賀 彩音

発掘調査、整理作業・報告書作成の期間中、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策を講じたうえ、作業を進めた。地元をはじめ多くの作業員の参加を得て各作業を行ったが、大過なく期間内に終了できたこと、心より感謝申し上げます。また、発掘調査、整理・報告書作成については、多くの方々からご指導ご協力をいただきました。ここに謝意を表します。

城門 義廣 杉原 敏之 宮地 聡一郎（福岡県教育庁教育総務部文化財保護課） 筑豊文化財行政連絡協議会
 中野 直毅 長谷川 清之（田川市文化財専門委員会） 野村 憲一（香春町役場） 末吉 隆弥（川崎町役場） 田村 悟
 無津呂 健太郎（直方市教育委員会） 八木 健一郎 嶋田 光一（飯塚市教育委員会） 松浦 宇哲（嘉麻市教育委員会）
 田中 曉（鞍手町教育委員会） 是石 嵩伸（香春町教育委員会） 永末 夏菜（川崎町教育委員会） 井上 勇也 小池 史哲
 （福智町教育委員会） 牛嶋 英使（直方郷土研究会会長） 宇野 慎敏（行橋市歴史資料館館長）

第3節 地理的・歴史的環境（第1・2図）

（1）地理的環境

福岡県の北東部に位置する田川市は、南北最長約14km、東西最長約9 km、総面積約55km²、標高約20～約60mに及ぶ。地形は東側から北側を貫山地や福智山地、西側を金国山地、南側を英彦山地の三方を山地に囲まれた盆地を呈する。河川は盆地の東側を福智山系に沿って彦山川、西側を金国山地に沿って中元寺川が北流する。この両河川は福智町で合流するが、彦山川には金辺川や御飯川、中元寺川には猪尾金川や 泌川の支流が合流する。この両河川は谷底平野を形成するが、中央は田川中央丘陵（大峯丘陵）と呼ばれ、添田町中元寺より川崎町大峯を経て本市を東西に二分し、両河川の合流点まで続く。

本市の地質は、北側の福智山地に石灰岩が分布し、カルスト地形が発達している。市北東部の岩屋地区には鍾乳洞が点在し、そのうち第一が岩屋鍾乳洞として県指定天然記念物に指定されている。市中央部の田川中央丘陵は、古第三紀層を基盤としており、層中に豊富な石炭を埋藏し、筑豊炭田の一部を形成する。古第三紀層の上層には更新世末期の阿蘇山の噴火によりもたらされた火山灰が堆積し、灰石台地が形成される。市西部は古生代の堆積岩や変成岩から構成され、関の山から船尾山は石灰岩から成る。市南西部の摺鉢山（帝王山）は、市内で唯一の火山岩から成る山体である。周辺地域とは古来より北東側を仲哀峠、西側を烏尾峠、南西側を猪尾峠と、両河川の水系を経た交通が営まれた。

調査対象地は本市の東部、英彦山から続く丘陵の先端に位置し、標高約36～39mの台地に立地する。台地東側を金辺川、西側を彦山川が流れ、両河川合流付近まで台地が続く。台地の面積は約8万3千㎡を測る。地質は後期更新世～完新世の火山岩類に分類される。本遺跡群と北側に位置する寺の上遺



第1図 遺跡周辺地質図

跡の間は、1887（明治20）年に月輪隧道として開削され、1938（昭和13）年に切通しとなったが、今から約9万年前のaso-4火砕流堆積層が確認されている。

【参考文献】田川市自然環境調査研究会 2008『田川市の自然環境』田川市福祉部環境対策課

（2）歴史的環境（第2図）

本市では、旧石器時代から縄文時代の明確な遺構は確認されていない。出土事例に限られるが寺の上遺跡でナイフ形石器、本遺跡群南に位置する猫追1号墳墳丘土からAT降下以降の翼状剥片や縄文土器片、本遺跡群より縄文時代の剥片石器が確認されている。

弥生時代になると、前期後半頃から田川中央丘陵の低丘陵地に上の原遺跡群、倉ヶ原遺跡、長谷池遺跡、鎮西公園内遺跡で集落跡が確認できる。墓制は中期後半頃から、箱式石棺・石蓋土墳墓・土墳墓が構築される。香春隠神社遺跡の石蓋土墳墓は、蓋石に赤色顔料の塗布が確認される。上の原遺跡群は昭和時代初期頃より存在が知られており、石棺墓の出土や丹塗筒形器台が採集されている。寺の上遺跡は箱式石棺内出土の中細銅剣が副葬品として確認されている。この他に、同遺跡から銅剣2本の出土が伝わる。夫婦塚遺跡は一辺約30mの区画を設け、三辺を自然石の列石をめぐらす。列石の内側に5基と外側に2基の箱式石棺墓を隔てる行為が確認でき、弥生時代終末頃から古墳時代の特定個人墓へ変遷が捉えられる。一方、中元寺川流域では、上本町遺跡では甕棺墓が確認できる。

古墳時代前期は、中元寺川流域で田川市郡唯一の前方後円墳とされる位笠古墳が築かれる。現存長約52m、後円部径は約28mを測る。彦山川流域では長谷池遺跡群、経塚遺跡、桐ヶ丘遺跡で箱式石棺墓が築かれる。集落は上の原遺跡群や猫追1号墳の周溝側で堅穴建物跡が確認されている。中期は猫追1号墳、セストノ古墳が挙げられる。猫追1号墳は墳丘径約27m、墳形が造り出しと周溝をもつ帆立貝式古墳と推定され、埋葬施設は堅穴系横口式石室を備える。出土遺物は市指定有形文化財であるが、甲冑片や日本最古級に位置付けられる馬具装着馬形埴輪と三角板葺短甲装武人埴輪等が出土し、5世紀前半に位置づけられる。セストノ古墳（県指定史跡）は直径約35m、高さ約6mの大型円墳で、埋葬施設は堅穴系横口式石室を備える。出土遺物は馬具、横板板葺短甲、陶質土器小壺、垂飾付耳飾等が出土し、未盗掘の古墳と捉えられ、5世紀後半頃に位置づけられる。後・終末期の石室墳は、夏吉地区の丘陵に40数基で構成される夏吉古墳群が挙げられ、6世紀前半頃の9号墳から築造が開始され、7世紀代まで脈々と続く。このうち1号墳と21号墳は、市指定史跡である。田川地域の群集墳は限られ、単基もしくは2～3基で築かれる。その1つ上の原古墳は本遺跡群の南側に位置し、墳形は直径約20mの円墳で、南側に開口した横穴式石室を備える。石室墳と葬送施設の相違が見られる横穴墓は、古第三紀層を穿って築造されているが、中元寺川流域より彦山川流域に多く分布する。本遺跡群南に位置する経塚横穴群は代表的な横穴群である。近隣では、小塚横穴群や円筒埴輪が出土した蜷ヶ丘横穴群が築かれるが、開発行為によって消滅する。

古代から中世の遺跡数は限られる。本市は田河郡に属し、天台寺（上伊田廃寺）跡（市指定史跡）が築かれる。創建時は金堂と講堂が中軸線を合わす伽藍配置、その後、塔・金堂・講堂が揃う伽藍配置へ変化する。出土した瓦は新羅系・百濟系・高句麗系であり、創建時が7世紀後半、廃絶期が9世紀後半代と考えられる。天台寺瓦窯跡は、天台寺跡より南へ約330m離れた南向き丘陵斜面に2基築かれる。戦前・戦後に発掘調査が行われる。構造は階段式竪穴で、天台寺跡創建時の瓦である鉦瓦や軒平瓦を生産する。倉ヶ原遺跡は、大宰府・豊前路の田河道の南側に推定される。調査では、桁行12間×梁行2間の主軸方位が南北を向く掘立柱建物跡や、この建物跡南北両端に東西を向く掘立柱建物跡も推定され、8世紀前半頃に報告されている。

中世は大穴遺跡の古代祭祀遺構や夏吉21号墳の再葬墓、本遺跡群周辺で輸入陶磁器や土師器が確認される。下伊田安養寺跡石塔群は石塔が集石されているが、五重塔や板石塔婆の雙面性海塔、南に位置する成道寺には、石造七重塔が確認できる。造立時期は、14世紀頃と考えられている。

近世の遺跡数にも限られる。田河郡は小倉藩領となるが、各地域の支配単位として六手永に分けられ、本遺跡群周辺は榑手永に属する。榑手永は、田川市の夏吉・榑地区と現在の香春町が含ま

1:70,000



魚沼町

種智町

香春町

大佐町

藤原市

嘉城市

川崎町

1 上の遺跡遺跡、2 穴遺跡、3 夏古遺跡、4 夏古1号墳(古史跡)、5 夏古2号墳(古史跡)、6 夏古6号墳遺跡・横穴、7 夏古・古墳遺跡、8 夏古・古墳遺跡、9 夏古・古墳遺跡、10 夏古・古墳遺跡、11 夏古2号墳、12 夏古2号墳、13 夏古遺跡、14 九州商業高校校庭遺跡、15 大塚遺跡、16 香春神社古墳、17 夏古・古墳遺跡・横穴、18 種智横穴、19 上吉田古墳遺跡・横穴、20 水島古墳、21 夏古・古墳遺跡、22 種智・古墳遺跡、23 山伏塚、24 上の古墳、25 小塚横穴、26 上の上遺跡、27 上の古墳遺跡、28 天守遺跡、29 天守山古墳、30 多田遺跡、31 谷ノ木遺跡、32 古墳遺跡、33 門山遺跡、34 下ノ古墳、35 夏古・古墳遺跡、36 古墳遺跡、37 新田古墳遺跡、38 谷ノ木遺跡、39 香春遺跡、40 弓削1号墳、41 見立大塚古墳、42 見立古墳、43 夏古・古墳遺跡、44 角田古墳遺跡、45 角田遺跡、46 弓削田原人遺跡、47 弓削田原遺跡、48 弓削田原C遺跡、49 弓削田原D遺跡、50 見立遺跡、51 香春神社古墳、52 池光寺遺跡・横穴、53 川崎1号墳、54 大塚古墳・横穴、55 長瀬横穴、56 成道寺古墳遺跡・横穴、57 成道寺古墳遺跡・横穴、58 藤原山上塚、59 成道寺古墳遺跡、60 種智遺跡、61 天守山遺跡(上・古史跡)、62 藤原山上塚、63 天守山遺跡、64 伊田坂遺跡、65 上伊田坂遺跡、66 藤原遺跡、67 藤原古墳・横穴、68 小尾藤原山上塚、69 伊田坂1号墳・大塚遺跡、70 伊田坂2号墳、71 伊田坂3号墳、72 城山遺跡、73 城山遺跡2号墳、74 伊田坂4号墳・池田人横穴遺跡、75 伊田坂5号・6号、76 田中横穴、77 大塚遺跡、78 伊田坂6号、79 伊田坂7号、80 伊田坂山遺跡・横穴、81 伊田坂山遺跡、82 古塚古墳遺跡、83 下位遺跡、84 古塚古墳、85 古塚横穴、86 水田遺跡、87 上水田遺跡、88 大塚町遺跡、89 種智谷2号墳、90 金田遺跡、91 城山遺跡、92 弓削田原遺跡、93 伊田坂遺跡、94 上伊田坂遺跡、95 伊田坂山遺跡、96 三井田山遺跡所伊田坂(國史跡)、97 伊田坂山遺跡所伊田坂、98 成道寺石造七重塔(市有文化財(種智町))、99 三井田山遺跡所伊田坂(市有山)

1:70,000

第2図 市内遺跡等分布図

れ、小倉藩から筑前秋月藩まで結ぶ秋月街道が整備された。田河郡には、香春宿（香春町）と猪膝宿（田川市猪国）が設けられた。猪膝宿には、宿出入口である構口の一部が現存する。

近代は、豊津縣—小倉縣を経て福岡県に編入する。近世後期より始まった石炭産業は、大手中央資本の三井の進出により、隆盛と衰退の関係が深くなる。櫛手永のうち櫛村と夏吉村は、金川村を経て田川郡伊田町に入る。本市の石炭産業の遺構として、国登録有形文化財の旧三井田川鉱業所伊田堅坑櫓・同第一・第二煙突が聳えたつ石炭記念公園一帯は、三井田川鉱業所伊田坑（斜坑・堅坑）として隆盛を極めた。1964（昭和39）年の閉山以降、多くの関連施設が取り壊されていたが、地下部分の残存状況を把握する調査を2009（平成21）年度から行った結果、炭坑関連の遺構として良好に残存していることが明らかとなった。その後、2018（平成30）年10月15日に飯塚市・直方市とともに、筑豊炭田遺跡群三井田川鉱業所伊田坑跡として国指定史跡となる。本市の近代を支えた石炭産業は、関連する構造物や風習が現在も残る。一方、櫛地区には櫛炭坑が創業し、夏吉地区は三井田川鉱業所第六坑が1945（昭和20）年から開鑿し、1948年から石炭を産出したが、伊田坑と同様に閉山を迎えた。現在、田川市郡で唯一ボタ山が現存する。当時の繁栄の象徴であるとともに、現在は草木に覆われて自然と一体になっている。本市の戦争関連遺跡は限られている。本遺跡群台地下のaso-4火砕流堆積層に太平洋戦争中の防空壕が築かれる。現在は、鉱害復旧の嵩上と擁壁によって確認できない。

【参考文献】

- （1） 鏡山 猛 1943「石蓋土壌に関する覚書」『史淵』第56輯 九州史学会
 - （2） 森 貞次郎 1942「古期弥生式文化に於ける立岩文化期の意義」『古代文化』第13巻第7号
 - （3） 長谷川清之 1989「彦山川流域の遺跡・遺物の紹介1」『郷土田川』31号 田川郷土研究会
 - （4） 田川市誌編纂委員会 1974『田川市史』上巻 田川市
 - （5） 花村利彦 1966「田川地域における新発見の古墳について」『田川郷土』第25号 田川郷土研究会
 - （6） 上野智裕 1988「桐ヶ丘遺跡緊急調査報告」『郷土田川』31号 田川郷土研究会
 - （7） 長谷川清之 1982「IV 蛭ヶ丘横穴墓群採集の埴輪」『田川歴史資料集（1）』田川歴史懇話会
 - （8） 西垣彰博 2019「豊前路の官衙関連遺跡について」『郷土史誌かわら』第88集 香春町教育委員会
 - （9） 小方泰宏 1990「田川地区中世資料集成（1）」『郷土田川』33号
 - （10） 野村 隆 2002「西国の石造美術三態」『史迹と美術』第724号 史迹美術同巧会
- 前川清一 2004「肥後円台寺跡周辺から出土した「雙圓性海塔」の復元について」『熊本博物館館報』

第Ⅱ章 調査の概要

第1節 調査の方針と経過（第3図）

今回報告する発掘調査の面積は約2,960㎡である。市土木課から路線杭の設定および座標値の提供を得て、市道上の原線を境に調査区を南北に分け、令和元年度に北側、令和2年度に南側を実施した。令和元年度は約1,600㎡を、令和元年11月18日から令和2年3月31日の期間に実施した。令和2年度は約1,360㎡を、令和2年11月5日から令和3年2月26日の期間に実施した。

令和元年度は、調査区北側の雑木林の伐開作業から実施した。また、2ヶ年度共に重機による表土を掘削後、グリット設定を行った。これ以降の調査手法は、下記に記しているので、参照されたい。

田川市教育委員会 2019 「上本町遺跡」『田川市文化財調査報告書』第17集

なお、掘立柱建物跡（SB）は柱穴跡（SP）の遺構番号を与え、確認したうえで遺構番号を与えている。記録の作成は、1/10および1/20で個別遺構の作図を行い、デジタルカメラ（RAW・JPEG形式）で堆積状況や完掘状況などの記録化を行った。

発掘調査日誌から抜粋で、発掘調査の経過を記す。

令和元年度		令和2年度	
11月18日	委託業者と伐開範囲協議	11月5日	除草作業
19日	伐開作業開始		調査範囲設定
12月6日	人力掘削等開始	10日	重機表土掘削開始
16日	伐開処理搬出終了	13日	人力掘削作業開始
19日	重機表土掘削開始	24日	県文化財保護課調査視察
28日	年末養生	12月12日	航空写真測量
令和2年		18日	重機反転作業
1月5日	安全点検実施	令和3年	
6日	年始作業開始	1月4日	安全点検実施
7日	グリット設定	5日	年始作業開始
10日	重機表土掘削終了	7日	大雪（～11日まで）
24日	県文化財保護課調査視察	2月13日	航空写真測量
2月21日	金川小学校5年生見学（57名）	23日	撤収作業
3月14日	航空写真測量	24日	重機埋戻し作業開始
23日	重機搬入	25日	撤収作業
24日	県文化財保護課調査視察		重機埋戻し作業終了
	重機埋戻し作業開始		
31日	撤収作業終了		
	重機埋戻し作業終了		

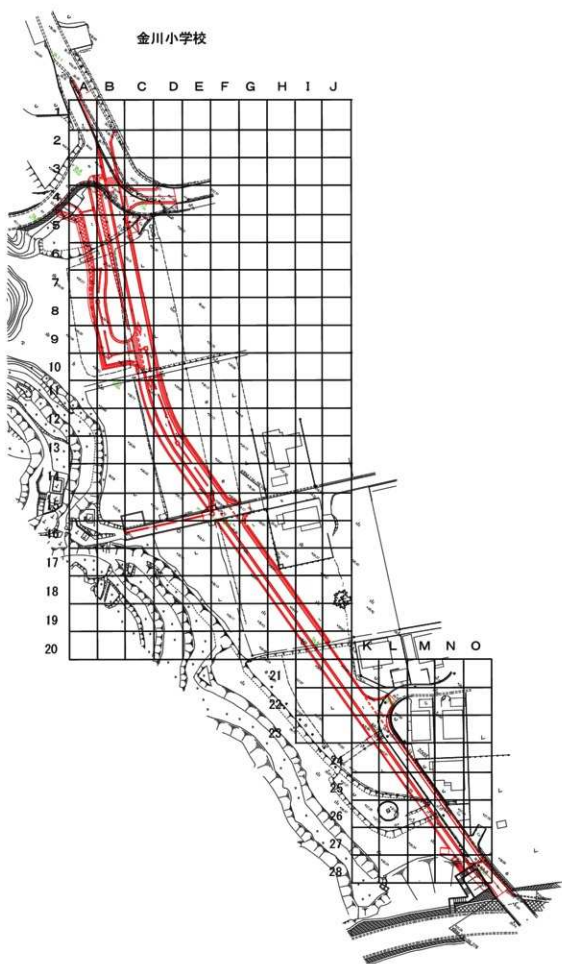
発掘調査期間中、金川小・中学校に遺跡見学会を計画したものの新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて、令和元年度に金川小学校5年生のみ見学会を実施した。また、地元住民や田川郷土研究会員が見学に来られた。

令和2年度の整理作業期間中に、下記の者がプレ・インターンシップで作業に従事した。

福岡県立大学 2 年生 今尾 佳乃子

第2節 調査の概要

今回の調査は本遺跡群西側に位置し、南北に縦断する。対象地は畑として使われており、耕作土や床土を取り除くと、調査範囲の全てより、遺構・遺物の展開が認められた。

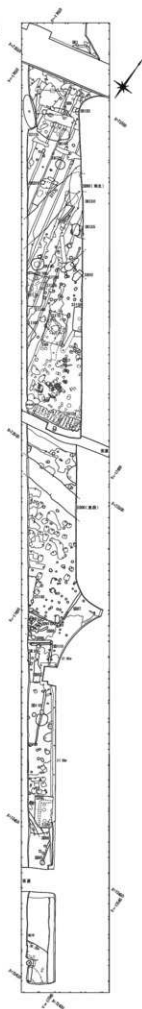


第3図 計画図

令和元年度調査区



令和2年度調査区



第4図 遺構配置図



黒枠：上の原遺跡群

第5図 米軍による航空写真（1947年撮影）

時 代	遺 構	遺 物
近世・近代	溝跡	3 条 近世陶磁器
	牛馬歩行跡	1 基
中世		土師器・輸入陶磁器
古代	溝跡	1 条 土師器・須恵器・黒色土器・石製品・瓦
	土坑跡	1 基
古墳時代	掘立柱建物跡	2 基 古式土師器・石製品・鉄製品
	竪穴建物跡	11 基
	溝跡	9 条
弥生時代	竪穴建物跡	7 基 弥生土器・甕棺（小形棺）・石製品・鉄製品
	掘立柱建物跡	9 基
	土坑跡	40 基
	墓跡	8 基
	柱穴跡	673 基
	性格不明遺構等	1 基

発掘調査は、次の影響のもと進めた。C5付近は電力柱や畑出入口のため、影響が及ばない限り発掘調査を進めた。C・D10とI・J20、M26の市道から山伏塚への道は、住民の生活道路であったため、発掘調査は実施していない。

第3節 層位など（第5図）

基本層序は大きく3層に分層が可能である。Ⅰ層が表土で耕作土にあたる。Ⅱ層が床土で畑作区画整理によるもので、特に令和2年度調査区で確認した。この影響は近代に受けたと考えられる。Ⅲ層が地山で、橙色・褐色・赤褐色粘質土が確認できる。今次の調査区では、北側で耕作土から遺構検出まで厚く造成した土が堆積していることを確認した。同様な影響は、本遺跡群4次調査でも追認できる。一方、南側は削平の影響を受けていることを確認した。また、市道上の原線付近の調査対象地の標高が高く、台地の南北端へ向かうと標高が緩やかに低くなる地形が復元される。

なお、今次の調査で十数ヶ所にわたり、地割れが認められた。地割れの方位は、北－南や北西－南東になる。当初は溝跡と捉えて調査を進めたが、埋土等が遺構堆積状況と異なっていたことと、人為的な痕跡が認められなかったため、遺構ではないと判断した。地割れの原因は不明であるが、石炭産業の採炭による影響が推測される。なお、本遺跡群3次SC5東西方向に横切る溝跡も同様の痕跡と捉えられる。



金川小学校 5年生見学風景



整理作業風景

第Ⅲ章 遺構・遺物

第1節 掘立柱建物跡

SB1 (第6・10図 表5 図版2)

調査区C9で検出、N-48°-Wを測る。建物の規模は2間×1間で、桁行4.95m、梁行3.02m、面積約14.95㎡を測る。深度は0.26~0.58mを測る。P5はSK6より後出、P6は調査当初、S8として調査を進めたが、SP54へ変更、掘立柱建物跡構成柱穴として扱う。なお、SK30の削平の影響を受ける。P4はP2-P6間より南に位置し、SP42より古い。SB2P2とSB1が重なるが、新旧関係は不明である。出土した遺物は弥生土器片が出土した。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1は口縁部から体部が残存する甕で、口縁部は如意形である。2から4は壺底部で、外底は2が平底、3・4は上げ底である。調整はハケ後ミガキを施す。

SB2 (第6・10図 表5 図版2)

調査区C9で検出、N-37°-Wを測る。建物の規模は1間×1間で、桁行4.43m、梁行2.88m、面積約12.76㎡を測る。深度は0.48~0.70mを測り、P4はSP63より新しい。出土遺物は弥生土器片と石製品であるが、弥生土器片は図示可能ではなかった。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

石製品 6はP1から出土した細粒砂岩製の砥石で、砥面は3面である。

SB3 (第6図 図版2)

調査区B9で検出、N-63°-Eを測る。建物の規模は2間×1間で、桁行4.17m、梁行2.76m、面積約11.51㎡を測る。深度は0.14~0.58mを測り、P1・4は他と比べ深い。また、P4はSI20より新しい。SB7と重なるが、新旧関係は不明である。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。時期はSI20との新旧関係より、古墳時代前期後半以降と考えられる。

SB4 (第7図 図版2)

調査区B8で検出、N-16°-Wを測る。建物の規模は3間×2間で、桁行6.22m、梁行3.62m、面積約22.52㎡を測る。深度は0.27~0.62mを測り、P3・9は他の柱穴跡と比べ浅い。P7~9は径約20~30cmの柱痕を確認した。P10は、SD14の削平の影響を受ける。出土遺物は弥生土器片が出土したが、図示可能ではなかった。

SB5 (第7図 図版2)

調査区A7で検出、N-69°-Eを測る。建物の規模は2間×1間で、桁行4.32m、梁行2.94m、面積約12.70㎡を測る。深度は0.46~0.96mを測る。P2・6は径約35~45cmの柱痕を確認した。P3はSP235より古く、削平の影響を受ける。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

SB6 (第7・10図 表5 図版2)

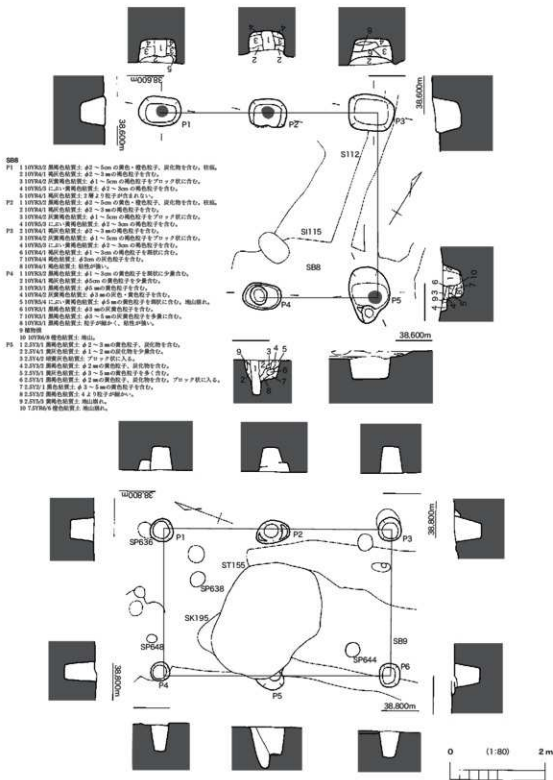
調査区B6で検出、N-18°-Wを測る。建物の規模は1間×2間で、桁行4.42m、梁行3.46m、面積約15.30㎡を測る。深度は0.40~0.54mを測り、P3はSI10の削平を受ける。また、P6はSI70より新しい。出土した遺物は弥生土器片と石製品であるが、弥生土器片は図示可能ではなかった。

出土遺物

石製品 7はP4から出土した泥岩製の柱状片刃石斧である。刃部は欠損する。8はP6から出土した細粒砂岩製の柱状片刃石斧である。刃部は欠損する。

SB7 (第6図 図版2)

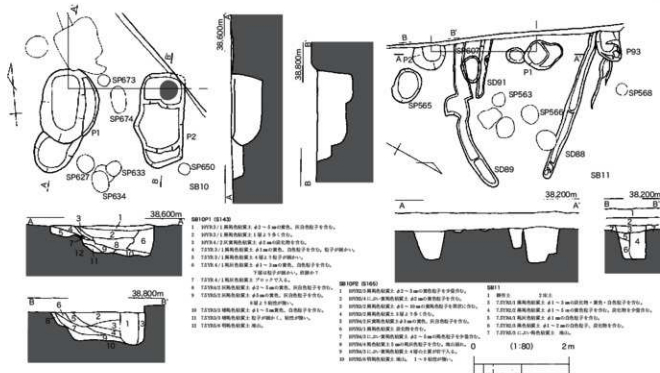
調査区B9で検出、N-67°-Eを測る。建物の規模は1間×1間で、桁行2.64m、梁行2.40m、面積約6.37㎡を測る。深度は0.14~0.28mと浅い。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。



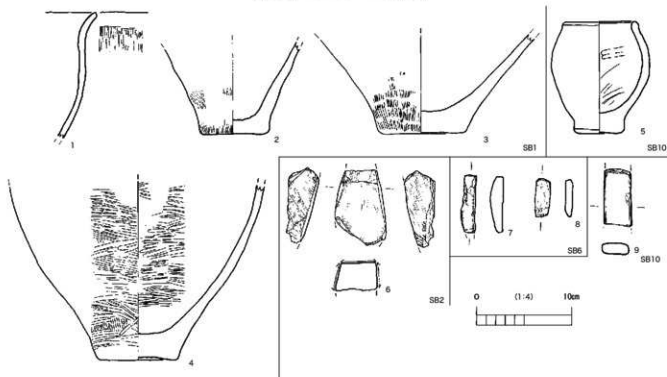
第8図 SB8・9実測図

SB8 (第8図 図版2)

調査区F16で検出、N-60°-Eを測る。南西の構成柱穴を確認できなかったが、建物の規模は2間×1間で、桁行4.40m、梁行3.90m、面積約17.16㎡と考えられる。深度は0.40~0.52mを測る。P1~3は周辺の攪乱、P4・5はSI115の影響を受けるが、掘方は隅丸長方形を呈する。柱痕はP3・4以外で確認、径約25~30cmを測る。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。



第9図 SB10・11実測図



第10図 SB1・2・6・10出土遺物実測図

SB9 (第8図 図版2)

調査区H18・19で検出、N-20° - Wを測る。建物の規模は2間×1間で、桁行4.20m、梁行3.14m、面積約13.19㎡である。深度は0.47～0.58mを測る。ST155上面に位置し、P1・3・4～6はS123、P5はST155の削平の影響を受ける。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

SB10 (第9・10図 表5 図版2・3)

調査区H18で建物の南西側の2基のみ検出、N-5° - Wと考えられる。P1の平面形は楕円形に近い隅丸長方形で、長軸2.30m、短軸1.18m、深度0.68mを測る。掘方は南側に一段テラスを設けて、北側へ下る。土層観察では10層が平坦となり、柱を支えた際の接地面とすると、6層が柱と考えられ、抜き取りと捉えられる。柱を据えて段を埋め戻し、2・8層が柱を支えた埋戻し土となる。P2の平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.96m、短軸1.04m、深度0.68mを測る。掘方は南側に二段のテラスを設けるが、二段目は広く、底面と差は10cm程で北側へ下るが柱を据えるため平坦にする。土層観察では底面を平坦にするため1層の柱を据えた後、南側から順序良く埋戻しが行われている。柱痕は径約40cmを測り、東側に接地する。P1-P2間は、2.20m離れる。出土遺物はP1上層より弥生土器片、石製品が出土した。

出土遺物

弥生土器 5は口縁部が短い甕で、底部の外・内底は厚い。

石製品 9は砂岩製の砥石で、形状より携帯用と考えられる。

SB11 (第9図 図版3)

調査区K23で建物の東側の2基のみ検出、N-29° - Wと考えられる。また、P2の西側は調査区外へ延びる。P1-P2間は2.60m、深度は約0.40mを測る。P1はSP583より古い。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

第2節 竪穴建物跡

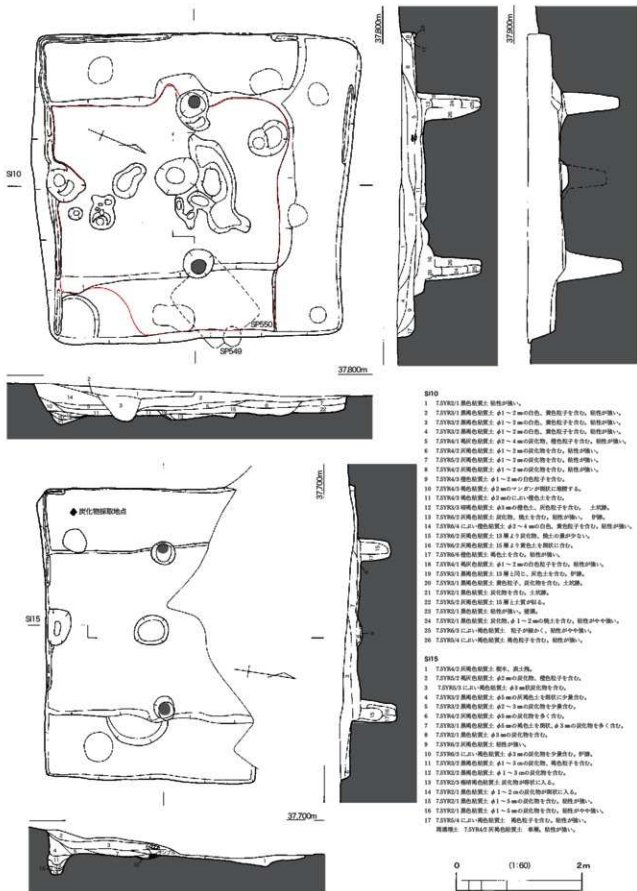
SI10 (第11・13・18図 表5 図版2・3)

調査区B5・6で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸4.96m、短軸4.74m、下場が長軸4.82m、短軸4.80m、深度0.54mを測る。中央に深度が浅い炉を設ける。第13図2が口縁部を地山に向けて出土したが、出土状況から器台の役割が想定できる。主柱穴は2本で、炉跡から約1.20m離れて東西に配置する。径約0.50m、深度約1.00mを測る。主柱穴の東西の脇に、ベット状遺構を配置する。南側の壁面中央は径約0.60m、深度0.20mの屋内土坑を配置する。壁溝は幅約10cm、深度5cmを測り、南側および西側の一部を巡り、屋内土坑に繋がる。北側の床面で埋土の相違が認められたため、ベット状遺構と捉えて調査を進めた。しかしながら、地割れの影響を受けた埋土であることを確認した。また、東のベット状遺構を除去後、長軸1.20m、短軸1.00m、深度1.00mの隅丸長方形の土坑を検出した。埋土は褐色粘質土である。北側に一段テラスを設け、SP550として扱う。出土遺物は土器器、弥生土器、石製品である。時期は古墳時代前期後半と考えられる。

出土遺物

古式土器 1は口縁部から体部まで残存する甕である。口唇部はナデにより外方へ張出し、頸部は「く」字形である。2は口縁部から脚部接合部分まで残存する脚付鉢である。3から5は埴である。3は口縁部から底部まで残存する。調整は工具ナデを施す。4・5は口縁部が残存し、5は外面に手頭圧痕が認められる。6は口縁部を欠損する小埴である。7は甕の底部と考えられる。

石製品 1は安山岩製の石鏃である。2は砂岩製の石包丁である。穿孔周りに敲打痕が認められる。3は凝灰岩製の石剣で、身部下半を欠損する。4は蛇紋岩製の石斧で、刃部を欠損する。5は蛇紋岩製の片刃石斧である。6は砂岩製の砥石で、砥面は3面である。携帯用と考えられる。7はP1から出土した台石で、敲打痕が残る。



第11図 SI10・15実測図

SI15 (第11・13・18図 表5 図版3)

調査区A6で検出、平面形は隅丸方形である。遺構の規模は北側が樹木根の影響を受けているが、上場が長軸4.62m、短軸が現存で3.25m、下場が長軸4.53m、短軸が現存で3.18m、深度0.40mを測る。中央に径約0.50m、深度が浅い炉を設ける。主柱穴は東西に2本で、炉跡から約1.10m離れて配置する。径約0.40m、深度0.50～0.60mを測る。主柱穴の東西の脇に、地山造り出しのベット状遺構を配置する。南側の壁面中央には、径約0.40～0.50m、深度約0.35mの屋内土坑を配置する。西側のベット状遺構の床面に炭化物の集中が認められたため、自然科学分析を実施した結果、イボタノキ属と判明した。壁溝は幅約14cm、深度約4cmを測り、南側を巡って東側で屋内土坑に繋がる。出土遺物は土師器である。時期は古墳時代前期後半と考えられる。

出土遺物

古式土師器 8は下層から出土した小形丸底壺である。頸部から口縁部は立ち上がり、胴部内面はハケが施される。9から11は甕である。9は口唇部を欠損するが、体部まで残存する。口縁部は若干外方へ開く。10・11は僅かに平底が残る底部である。12は器台である。器壁は厚い。

石製品 8は砂岩製の砥石で、砥面は1面である。

SI20 (第12・13・18図 表5 図版3)

調査区B10で検出、平面形は隅丸方形である。遺構の規模は上場が長軸5.16m、短軸5.08m、下場が長軸4.65m、短軸4.45m、深度0.23mを測る。主柱穴は4本で、径約0.3mの柱痕を確認した。掘方は径約0.40m、深度0.50～0.60mを測る。主柱穴の東西の脇に、地山削り出しのベット状遺構を配置する。西側のベット状遺構の一部を、地山の判断を誤った。南側の壁面中央には、東西0.84m、南北0.40m、深度0.22mを測る。隅丸長方形の屋内土坑を配置する。壁溝は南側と東側に認められ、幅約12～20cm、深度約4cmを測る。南側は屋内土坑に繋がる。出土遺物は弥生土器片、石製品である。時期は古墳時代前期後半と考えられる。

出土遺物

古式土師器 13は口縁部から肩部まで残存する甕で、頸部から立ち上がり、口縁部は開く。

弥生土器 14は壺口縁部で、円形の浮文を貼り付ける。

石製品 9は凝灰岩製の石包丁で、一部欠損する。10は泥岩製の砥石で、一部欠損する。砥面は3面で、砥面の端部に敲打痕が認められる。

SI25 (第12・13図 表5 図版4)

調査区B・C10で検出、南西側を調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形と考えられる。検出した際、重複を確認したため東西にトレンチを設定したところ、(旧)SB1P6→SK30→SI25(新)の順序を確認した。遺構の規模は、長軸の上場が5.68m、下場が5.38m、深度0.18mを測る。壁溝は南西側とSK30付近以外で確認することができ、幅14cm、深度5cmを測る。SK30付近の床面は、20～30cmの貼床が施される。主柱穴などは確認できなかった。時期は弥生時代後期後半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 15は頸部から口縁部が残存する直口壺である。口縁部内面は、強いナデを施す。16は甕で、口唇部が跳ね上げ状で、頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。18から21は甕底部で、外底は19が平底以外、上げ底状である。17は不明器種で、天井部の状況から復元を行った。天井部は端部が緩やかな曲線で、体部は大きく開く。内外面ナデを施す。

SI35 (第14・17・18図 表5 図版4)

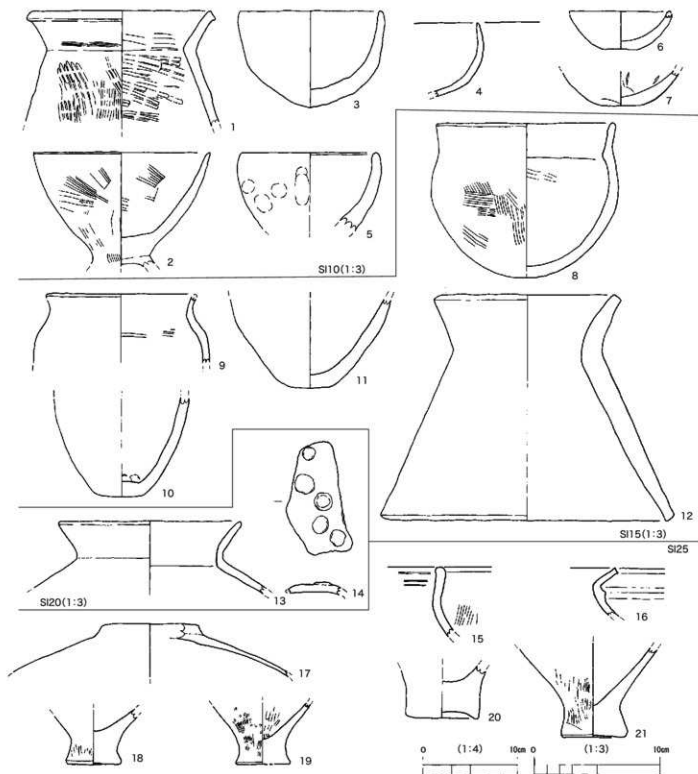
調査区C8で検出、東側を調査区外へ延びる。平面形は円形である。SX16調査時、堆積を確認するため東側の調査区境に南北トレンチを入れた。遺構の規模は直径約6.00m、深度0.35mを測る。確認できた主柱穴は3本で、径0.60～0.70m、深度0.20～0.70mを測る。推定で6本柱と考えられる。ま

た、中央西側に1基の柱穴を確認、中央に炉跡とその左右に柱穴を設けると推測される。なお、SI35北側で0.40～0.50mの白色粘土塊を検出した。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1は甕底部で、外底は上げ底である。2は器台は強いナデを施す。

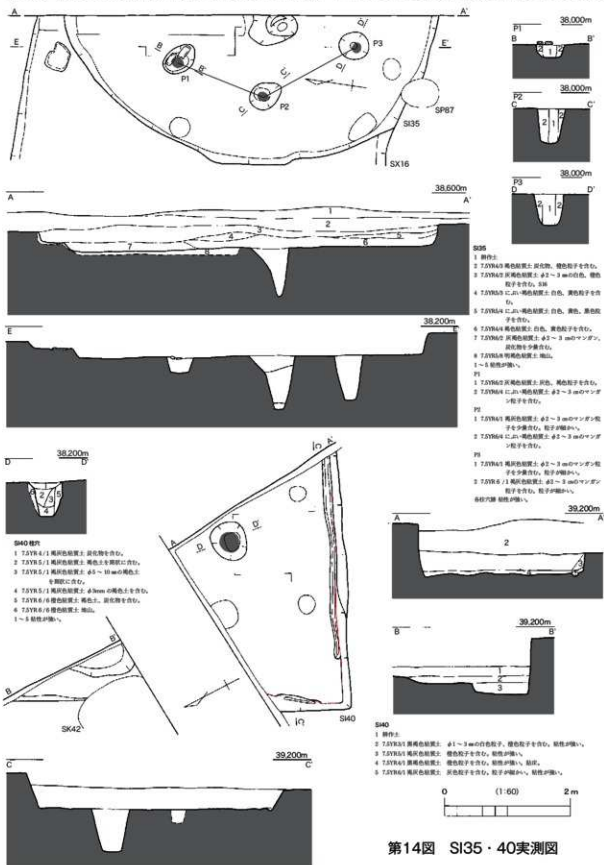
石製品 11は砂岩製の砥石で、砥面は1面である。



第13図 SI10・15・20・25出土遺物実測図

SI40 (第14・17・18図 表5 図版4)

調査区A10・11で検出、調査対象外の道が東西方向に横切ると、SK42の削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形と考えられる。遺構の規模は上場と下場の長軸が5.40m、短軸4.10m、下場の短軸3.48m、深度0.31mを測る。南側で主柱穴1基を確認、2本柱と考えられる。柱痕は径約0.40m、掘方



第14図 SI35・40実測図

は径0.80m、深度約0.65mを測る。また、北側で土坑1基と、南・西壁の一部で幅20cm、深度5cmの壁溝が認められた。時期は弥生時代中期前半～中頃と考えられる。

出土遺物

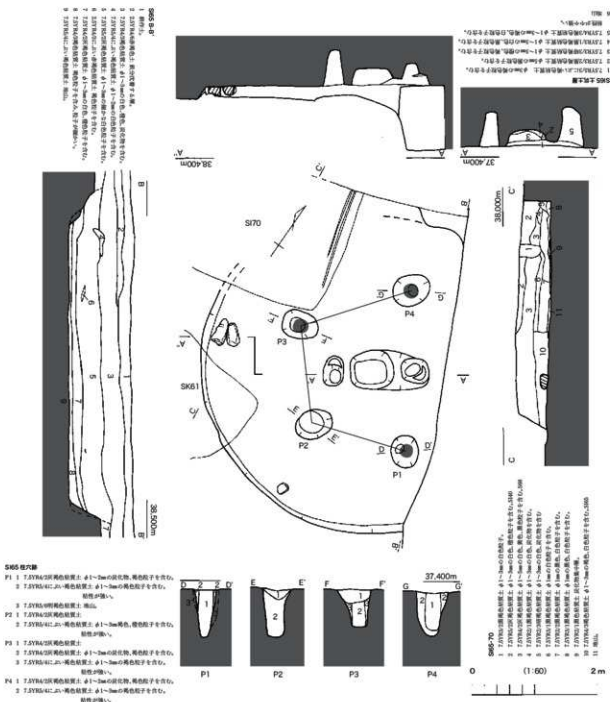
弥生土器 3は壺底部である。4から6は甕底部で、外面は縦位のハケを施し、外底は上げ底である。

7は土製品で、杏形である。焼成前穿孔を一ヶ所施される。

石器 12は蛇紋岩製の磨製石斧である。刃部の幅は広いが、基部は細い。

SI45 (第15·17图 表5 图版2·4)

調査区B・C6、B・C7で検出、平面形は隅丸長方形と考えられる。西側をSI50の削平の影響を受け



第16図 SI65実測図

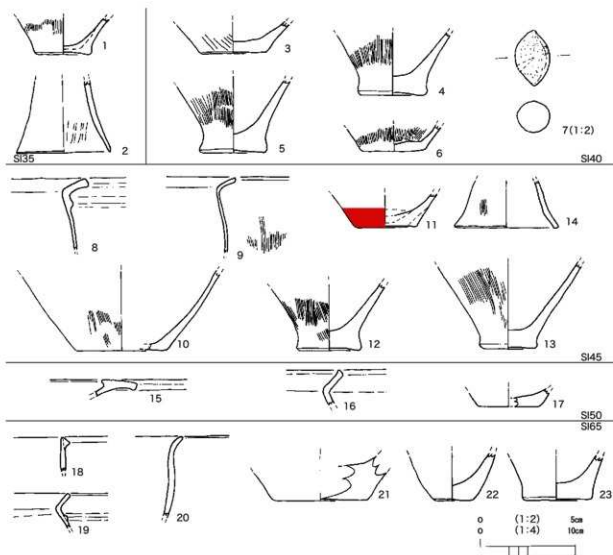
る。確認できた遺構の規模は上場が長軸3.26m、短軸が現存で2.55m、下場が長軸3.05m、短軸が現存で2.17m、深度0.33mを測る。北・東壁で幅約15cm、深度約3cmの壁溝が「L」字状に認められた。北壁の壁溝は、北側の柱穴跡より新しい。柱穴跡は2基確認、径約0.70m、深度0.10～0.15mを測る。2基とも深度が浅く、主柱穴となるか不明である。柱穴間の床面中央付近は、厚さ3cm程の炭化物の集中が認められ、厚さは1cm程である。自然科学分析の結果、アカガシ亜属が確認できた。時期は弥生時代中期前半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 10は壺底部である。8・9・11から13は甕である。8・9は口縁部で、「く」字形で、8は頸部下に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。11から13は底部で、外底は上げ底である。14は器台と考えられ、端部は「ハ」字形に開く。

SI50（第15・17・18図 表5 図版2・4）

調査区B・C6で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸5.65m、短軸4.95m、下場が長軸4.07m、短軸3.15m、深度0.38mを測る。北・西側は、一段テラスが確認できる。主柱穴は2本で、P1は柱痕の径約0.30m、掘方が径0.80m、深度0.96m、P2は径0.50m、深度0.39mを測る。屋内



第17図 SI35・40・45・50・65出土遺物実測図

土坑は中央と西に2基備え、中央の規模は長軸1.00m、短軸0.95mの凹状を呈する。西の規模は長軸0.77m、短軸0.74mの隅丸方形を呈する。壁溝は西側で一部途切れるが、遺構内を1周巡り、幅約18cm、深度4cmを測る。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

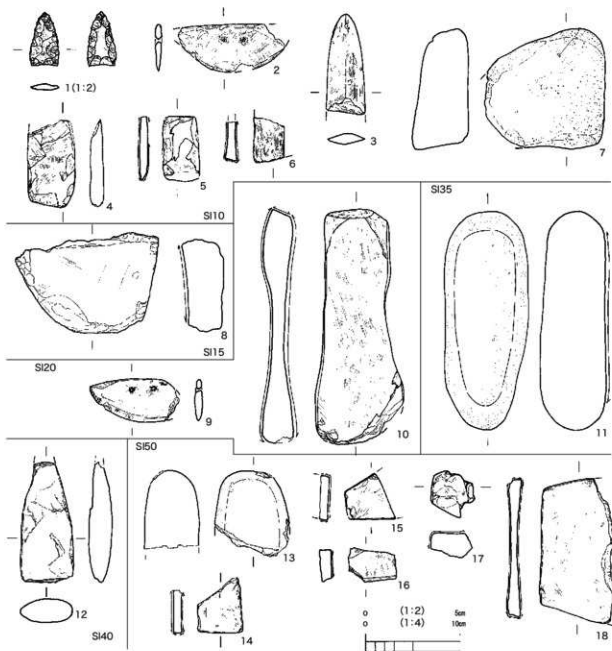
出土遺物

弥生土器 15・17は壺である。15は口縁部が垂下し、内面は突出する。17は底部で、外底は平底である。16は甕口縁部で、口唇部は跳ね上げ、頸部は「く」字形である。

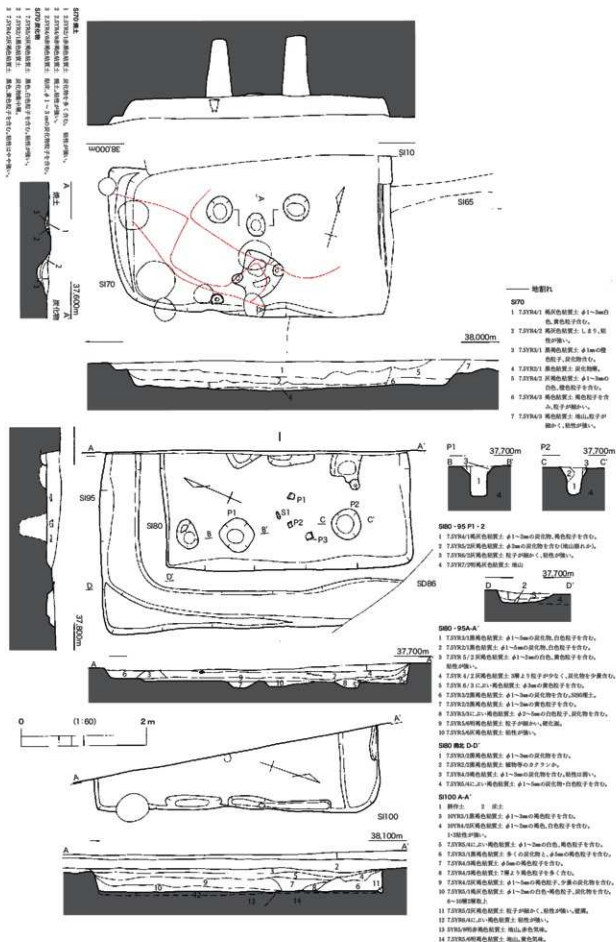
石製品 13は凝灰岩製の石斧で、基部が残存する。14から18は砂岩製の砥石である。砥面は16が1面、14・15は3面、17は2面、18が4面である。

SI65 (第16・17図 表5 図版2・4)

調査区B・C6で検出、東側は調査区外へ延び、西側はSI70の削平の影響を受ける。平面形は円形



第18図 SI10・15・20・35・40・50出土遺物実測図



第19圖 SI70・80・95・100遺物実測図

である。遺構の規模は直径約5.00m、深度0.43mを測る。中央に炉跡とその東西に柱穴2基を備える。また、東側は中央と繋がる。主柱穴は円に配置する4本を確認、6本柱と考えられる。柱痕はP1・3・4で確認、径約0.30m、掘方は約0.80m、深度0.80～1.00mを測る。西側で長軸約50cm、厚さ約15cmの礎2点を配する。床面に貼床は見られなかったが、土質は硬い。時期は弥生時代中期前半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 21・22は壺底部で、外底中心がわずかに凹む。18から20・23は甕である。18は口縁部に断面が三角形の粘土帯を貼り付ける。19は「く」字形で、頸部下に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。20は如意形口縁である。22・23の外底は平底である。

SI70（第19・22図 表5 図版2・5）

調査区B6で検出、SI10の削平の影響を受ける。平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸4.45m、短軸2.50m、下場が長軸2.54m、短軸2.45m、深度0.29mを測る。主柱穴は2本確認、径約0.50m、深度1.20～1.30mを測る。主柱穴間のやや南に、焼土を含む深度5cmの凹みを確認した。屋内土坑は南壁の中央付近で確認したものの、SP468の削平の影響を受ける。平面形は約0.90mの隅丸方形で、深度約25cmを測る。床面は炉跡付近に、一部貼床が施される。また、貼床除去後の床面は、地割れの影響を確認した。屋内土坑西側で、第22図1が口縁部を床面に向けて浮いた状況で出土した。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1は口縁部から底部まで残存する甕で、口縁部は「く」字形で、底部の一部を欠損する。2・3は壺底部で、外底は平底である。

石製品 17は安山岩製の石皿と考えられ、縁から中央にかけて凹みが見られる。

SI80・95（第19・22図 表5 図版5）

調査区M25で検出、東側は市道、南側はSD86の削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形である。調査当初、SI80として調査を始めたが、北側で逆「L」字状に黒褐色粘質土の堆積を確認したため、内側をSI80、外側をSI95とした。土層観察よりSI95廃絶後、褐色土で北・東側を土堤で壁面を構築し、SI80として使用したと考えられる。なお、南壁は両遺構同じ壁面を使用し、深度約30cmを測る。

SI80の遺構の規模は上場が長軸3.92m、短軸が現存で1.77m、下場が長軸3.86m、短軸が現存で1.66m、深度9cmを測る。主柱穴2本および屋内土坑2基は、貼床除去後に確認した。P1は径0.56m、深度0.47m、P2は径0.47m、深度0.42mを測る。屋内土坑は深度約10cmと浅い。屋内土坑は南側で検出、平面形は隅丸長方形と考えられ、深度は約20cmと浅い。出土遺物は土師器である。時期は古墳時代前期前半と考えられる。

SI95の遺構の規模は、上場が長軸4.90m、短軸が現存で2.68m、下場が長軸4.67m、短軸が現存で2.51m、深度10cmを測る。北西側の角部は、平面形が三角形のテラスを設ける。西側床面の広範囲で、炭化物を塊状で確認した。分析の結果、コナラ属・ツツジ属を確認した。また、地割れの影響を受ける。出土遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

出土遺物

古式土師器 4は口縁部が残存する壺で、二重口縁である。5・6は口縁部から体部中位まで残存する甕である。5は口縁部から頸部は「く」字形で、内面は屈曲が強い。6は口縁部から頸部は「く」字形で、口唇部を欠損する。7は高環で坏部が残存する。

SI100（第19図 図版5）

調査区J22、K22・23、I26で検出、西側は調査区外へ延びる。平面形は隅丸長方形と考えられる。遺構の規模は、上場が長軸4.52m、下場が長軸4.40m、深度0.48mを測る。東壁と北壁の一部に幅約

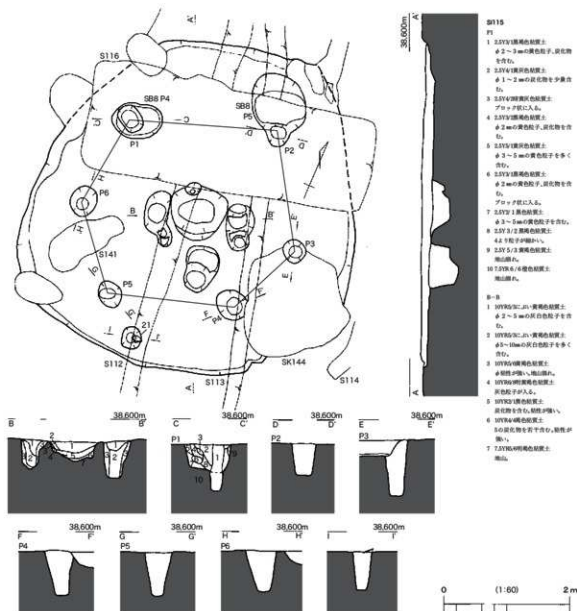
12cm、深度約3cmの壁溝が認められる。北側の床面は一段さがるが、地割れの影響と考えられる。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

SI115 (第20・22図 表5 図版5)

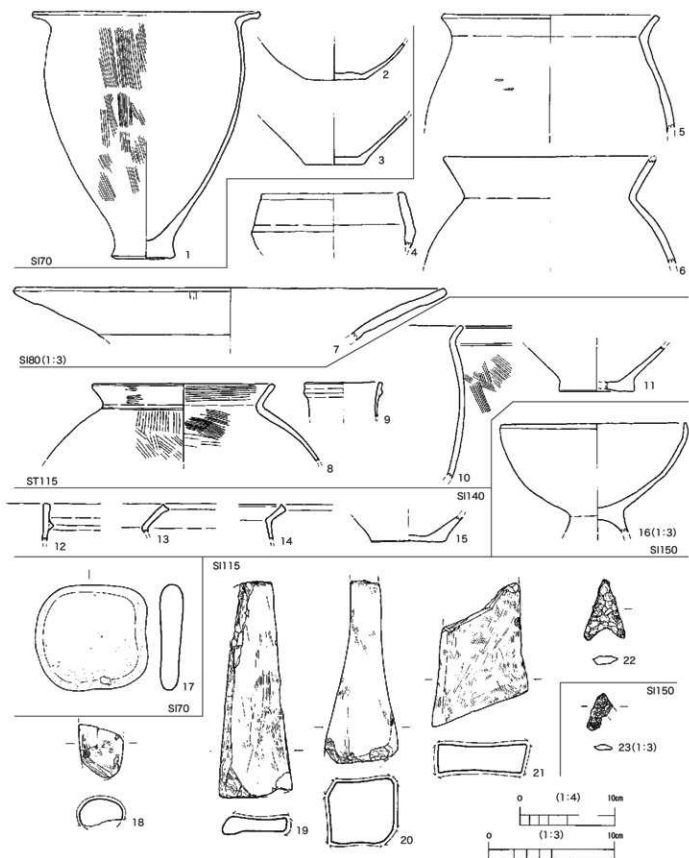
調査区F・G16で検出、SK144やS104・112・113等の削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形に近い円形である。なお、北側のSB8は古く、東側のSK144が新しい。遺構の規模は、上場が長軸5.22m、短軸5.08m、下場が長軸5.18m、短軸4.97m、深度0.12mを測る。中央に径約0.90mの土坑と、その両脇に南北長0.70mの楕円形の柱穴跡を備える。また、土坑南側に柱穴1基を備える。主柱穴は6本で径約0.50m、深度0.60~0.80mを測る。なお、P1・2は、SB8P4・5と重なる。出土遺物のうち、石製品19~21は、床面より浮いた状態で出土した。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 8・9は壺で、8は口縁部が短く、頸部が「く」字形である。9は口縁部下に断面が三角



第20図 SI115実測図



第22図 SI70・80・115・140・150出土遺物実測図

形の突帯を1条貼り付ける。10は甕である。頸部に1条の沈線を施す。11は壺底部で、外底は上げ底である。

石製品 18は凝灰岩製で、不明製品である。断面は楕円形、器面は研磨により滑らかである。19から21は砥石である。19は泥岩製で板状を呈し、砥面は1面である。20は泥岩製で断面が方形を呈し、一部欠損する。砥面は4面で使い込まれている。21は粘板岩製で板状を呈し、砥面は4面である。22は大形の凝灰岩製の石鐮である。

SI140 (第21・22図 表5 図版5)

調査区G18、H18・19で検出、東側はSI29の削平の影響を受け、西側は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形である。遺構の規模は上場が長軸5.16m、短軸が現存で2.80m、下場が長軸5.14m、短軸が現存で2.72m、深度0.26mを測る。東側に床面からの高さ約10cmのベット状遺構を備え、径約0.30～0.50m、深度約0.70mを測る支柱穴2本を確認した。このため、両脇にベット状遺構と支柱穴4本の堅穴建物と考えられる。床面は、北側に南側に比べ5～7cm高い。これは、ST180・190の影響と考えられる。炉跡は中央に位置し、長軸0.71m、短軸0.46m、深度約5cmの楕円形を呈する。埋土は灰色粘質土である。西側壁面にST175、北側壁面にST180、東側壁面にST185が築かれ、その上にSI140が構築される。住居形態より、古墳時代前期後半と考えられる。

出土遺物

弥生土器 12から15は甕で、12は口縁部下に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。13・14は口唇部が跳ね上げ、頸部が「く」字形である。15は底部で外底は平底である。

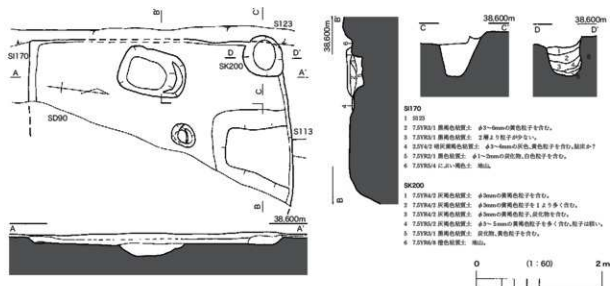
SI150 (第21・22図 表5 図版6)

調査区H18・19、I18・19で検出、東側は調査区外へ延びる。平面形は隅丸方形である。確認できた遺構の規模は上場が長軸3.35m、短軸は現存で1.35m、下場が長軸3.21m、短軸は現存で1.03m、深度0.50mを測る。支柱穴は1本確認し、柱痕は径0.12m、深度0.62m、掘方は径0.42mを測る。床面は、7～12cmの明褐色粘質土の貼床が施される。周溝は貼床から彫り込まれ、幅約20cm、深度約10cmを測る。北西角で、第22図16が出土した。時期は古墳時代前期後半と考えられる。

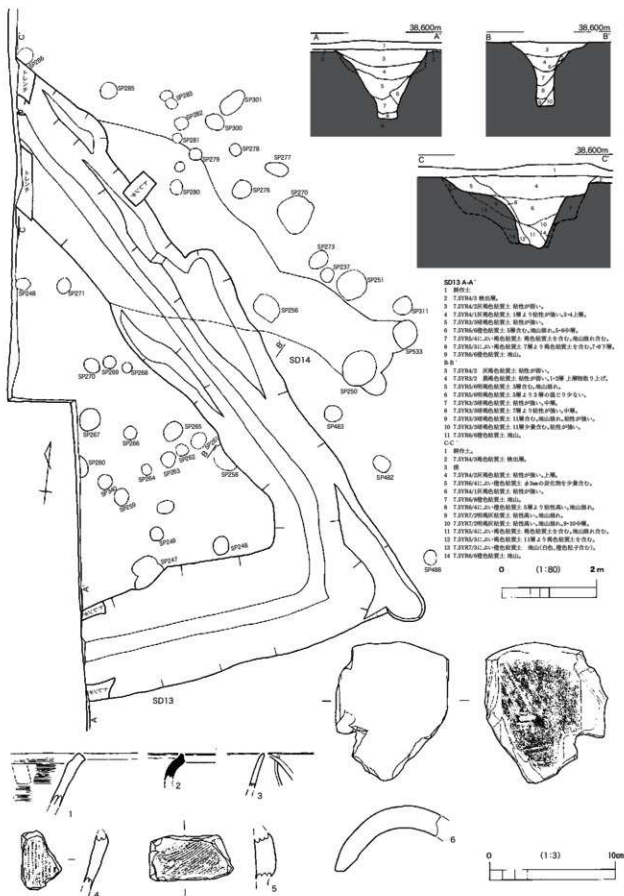
出土遺物

古式土師器 16は脚付鉢で、脚部を欠損する。口縁部は内湾する。

石製品 23は黒曜石製の石鐮である。



第23図 SI170・SK200実測図



SI160 (第21図 図版6)

調査区H19で、角部分のみ検出した。遺構の規模は現存で、長軸2.00m、短軸1.70m、深度0.69mを測る。平面形は隅丸方形と考えられる。床面は、3～9cmの明褐色粘質土の貼床が施される。周溝は貼床から掘り込まれ、幅約14cm、深度約10cmを測る。出土した遺物は弥生土器片、姫島産黒曜石剥片で、図示可能ではなかった。

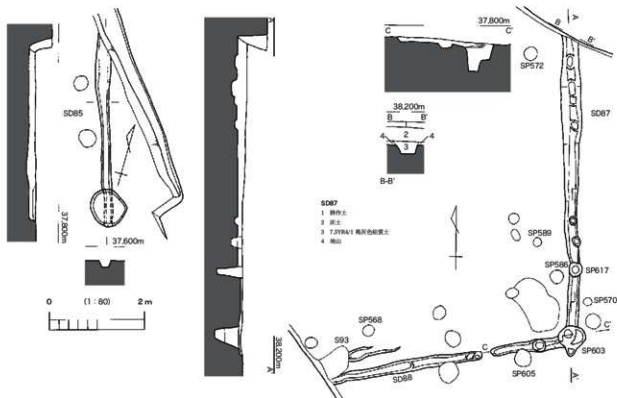
SI170 (第23図 図版6)

調査区G17で検出した。当初、S123としてS113と同時に調査を始めたが、北側で堆積の相違が認められたため、SI170として調査を進めた。北側をS113・123、SK200、東側をSD90(南北)による削平の影響を受ける。平面形は隅丸方形である。遺構の規模は、上場が長軸4.05m、短軸は現存で2.24m、下場が長軸3.85m、短軸は現存で2.18m、深度9cmを測る。西側に隅丸長方形の屋内土坑を備える。規模は南北1.09m、東西0.70mを測る。北側に、床面から約5cmの台形状の高まりが認められる。頂部は平坦である。支柱穴は屋内土坑の東側に1本確認した。計測値は径0.42m、深度0.66mを測る。出土遺物はみられなかった。

第3節 溝跡

SD13 (第24・28図 表5 図版6・7)

調査区A9、B8・9で検出、平面形は逆「L」字状で、南から北西方向はN-44°-Wを測る。内側へ傾く形状を呈する。西側は調査区外へ延びる。東側に位置するSD14から、上層の一部を削平の影響を受ける。遺構の幅は上場が2.10～2.60m、下場が0.34～0.54m、深度1.35～1.77mを測る。堆積は褐色・橙色粘質土で、北側の一部で壁面の崩れを確認したもの、大きく3層に分層が可能である。断面は逆台形状を呈し、底面は平底で幅30～40cmを測り、南から北へ深くなる。出土した遺物は限られているが、中層より弥生土器片、土師器糸切底部の小片や丸瓦片、上層より須恵器片、播鉢片や輪入陶磁器片である。



第25図 SD85～87実測図

出土遺物

土師器 1 は口縁部から体部まで残存する鍋で、口縁部は外方へ湾曲する。

須恵器 2 は口縁部が残存する壺で、口唇部は回転ナデにより摘み上げる。

磁器 3 は龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a 類である。1 層出土である。

陶器 4・5 は播鉢である。5 は1層出土で、体部が残存する。

瓦 6 は丸瓦である。布目痕が明瞭である。3層出土である。

石製品 1 は砂岩製の砥石で、数条の溝が走る。2 は泥岩製の砥石で、砥面は2面である。形態と基部に円形の穿孔を施すことから、携帯用と考えられる。

SD14 (第24図)

調査区A9、B8・9で検出、N-65°-Wを測り、北西から南東方向へ延びる。遺構の規模は、幅1.32~3.00m、深度約0.25mを測る。堆積は砂質土で、流路と考えられる。出土した遺物は弥生土器片、土師器片で、図示可能ではなかった。

SD85 (第25図)

調査区M25で検出、N-15°-Wを測り、調査区外に延びる。遺構の規模は、長軸4.00m、幅0.30m、深度約12cmを測る。堆積は褐灰色粘質土である。出土した遺物は弥生土器片、黒曜石片で、図示可能ではなかった。

SD86 (第25図)

調査区M25で検出、N-67°-Wを測る。SI80・95を削平する。遺構の規模は長軸1.10m、幅0.25m、深度約10cmを測る。堆積は褐灰色粘質土である。出土した遺物は土器片で、図示可能ではなかった。

SD87 (第25図 図版7)

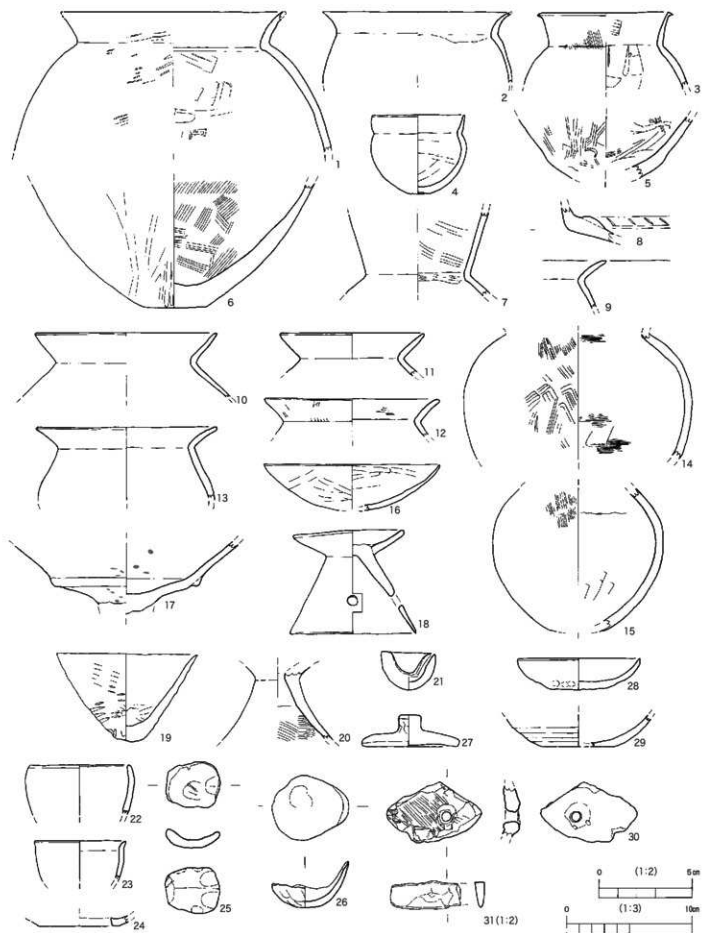
調査区K22・23で検出、平面形は逆「L」字状である。北から南へ約6.2m確認でき、N-2°-Wを測る。SP603から隅丸に南西へ向きを変えて延びるが、一度途切れる。西側で検出した溝跡をSD88として調査を進めたが、埋土の状況が類似していたため、同一遺構として扱う。遺構の規模は幅0.24~0.42m、深度約10~25cmを測る。埋土は褐灰色粘質土の単層である。南北に延びる北側の底面の一部で小穴を確認し、布掘掘削である。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

SD89 (第9図 図版7)

調査区K23で検出、SD91と東西方向に一部並行し、北へ湾曲する。また、SP607を削平する。遺構の規模は長軸3.40m、幅0.14~0.30m、深度約10cmを測る。堆積は灰褐色粘質土である。出土した遺物は土器片で、図示可能ではなかった。

SD90 (第26~28図 表5 図版7・8)

調査区J21、G17に位置する。調査の進行でJ21をSD90(東西)として先行調査し、G17をSD90(南北)として調査を行った。調査区境にトレンチを設定し調査を進めたが、配置や出土した遺物の類似等を踏まえて、同一遺構と判断した。遺物の取り上げはJ21を東西、G17を南北とした。東西は南北と比較すると、約60cmの削平の影響を受けている。東西の遺構の規模は幅約3.00m、深度約0.45m、N-87°-Eを測る。断面は逆台形で、底面は平底であるが、東側は地割れの影響が見られる。埋土は褐色・にぶい褐色粘質土である。遺物は西側に集中して出土した。南北の遺構の規模は幅約3.40m、深度約0.75~0.80m、N-15°-Eを測る。断面は逆台形で、底面は平底である。埋土は褐灰色・黒褐色粘質土である。SI170やSK130を削平する。出土した遺物は、主に南側に集中していた。また、南北の北側で、東方向に曲がる角部分を確認した。東西・南北から出土した遺物は上層から中世土師器や国



第27图 SD90出土遗物实测图

産陶磁器片、下層は弥生土器片、古式土師器、鉄製品である。時期は古墳時代前期頃と考えられる。

出土遺物

古式土師器 1・2は甕、3から8は壺である。1から3は口縁部から体部上半まで残存し、1・2は口縁部が外反する。3は口唇部が外方へ小さく突出する。4は小形丸底壺で、口縁部が短く内湾し、底部にわずかな凹みが確認できる。6は外底中央が接地し、端部は上がる。7は長頸壺の口縁部から肩部である。8は頸部から肩部が残存し、外面に1条の突帯を貼り付け、「 ∇ 」の刻みを施す。9から15は甕である。9から13は口縁部から体部上半まで残存し、「く」字形である。14・15は頸部から体部である。15はわずかに外底が残存し、内面は粘土の継ぎ目が認められる。16は器壁が薄い皿である。17は高坏坏部で、坏部外面に接合による突出と、外面に赤色顔料の付着が認められる。18・20は器台である。18の坏部は口唇部が丸く、脚部は「ハ」字形に開き、円形の焼成前穿孔が4方向に施される。20は坏部と台部端部を欠損する。坏部と台部の接合部分は、焼成前穿孔が施される。19・22から24は鉢である。19の外面はタタキ痕が残る。22・23は口縁部から体部が残存し、22の口縁部は内湾、23は外方へ短く外反する。24は底部で、中心は円形の孔を備える。21・25・26は手捏ね土器である。21は塊状で、焼成前に一方向扶りを施す。25は中央が凹み、塊状である。26は把手を備え、杓状である。

土師器 28・29は古代期の皿で、1層出土である。

弥生土器 27は土製の蓋である。30は部位が不明であるが、円形の穿孔を焼成前に施す。

石製品 3は砂岩製の砥石で、第10図9と類似する。4・5は石包丁で、4は泥岩製で2ヶ所の未穿孔が認められる。5は泥岩製である。6は凝灰岩製の石剣で、断面は菱形で、身部が残存する。7は残存が良好ではないが、蛇紋岩製の石斧である。8から10は石鏃である。8は腰岳産、9・10は姫島産の黒曜石製である。

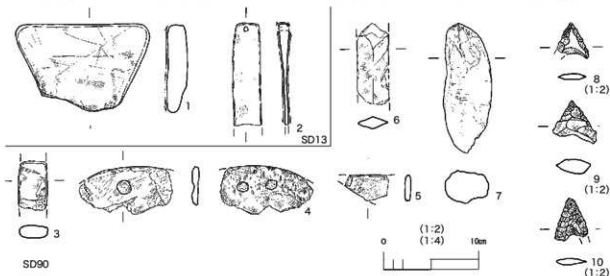
鉄製品 31は3層より出土した不明製品である。

SD91 (第9図 図版7)

調査区K23で検出、SD90と東西方向に並行し、SP607を削平する。遺構の規模は、検出した長軸1.20m、幅0.11m、深度約10cmを測る。埋土は灰褐色粘質土である。出土した遺物は土器片で、図示可能ではなかった。

SD92 (第29図 図版7・8)

調査区K23・L24で検出した。遺構の規模は北側で確認できない部分があるが、長軸約6.00m、幅0.74m、深度は5~23cmを測る。軸はN-30°-Wで、底面は平坦ではない。埋土は灰褐色粘質土で



第28図 SD13・90出土遺物実測図

ある。出土した遺物は近世磁器片、腰岳産黒曜石製剥片で図示可能ではなかった。

SD99 (第29図 図版7・8)

調査区L23・24で検出した。検出時はSD110と同一遺構として調査を進めたが、下層で分かれることが判明したため、別遺構として扱う。遺構の規模は長軸3.80m、幅0.40m、深度0.20cm、N-55°-Eを測る。断面は凹状で、床面は平坦である。堆積は黒褐色粘質土で、布掘掘削である。SD110と類似する。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

SD110 (第29・30図 表5 図版7・8)

調査区L23・24で検出した。遺構は市道から畑へ出入口のため、一部削平の影響を受ける。また、調査区西側へ延びるため全容は不明である。平面形は方形と考えられる。遺構の規模は南北16.0m、幅0.20~0.36m、深度は12~30cmを測る。南北はN-27°-Wを測る。北側の東西はN-52°-Eを測り、南北の屈曲する部分は繋がらない。南側はSP108によって削平の影響を受けるが、N-67°-Eを測り、西へ隅丸に屈曲する。床面は平坦と小穴に分かれる、布掘掘削である。堆積は褐色・黒色粘質土で、南側で2層に分かれる。出土した遺物は古式土器片、弥生土器片、鉄製品で、時期は古墳時代前期頃と考えられる。

出土遺物

古式土器 1は壺口縁部で、内湾する。2は壺口縁部である。3は高坏部である。

弥生土器 4は高坏脚部で、坏部との接合部分はキザミが施される。

鉄製品 L24の近接した地点から2点出土した。5は鉄鏝で、刃部と柄が分かれる。6は刀子で、柄を欠損するが、湾曲が認められる。

SD134 (第26図)

調査区G14で検出、遺構の規模は、長軸9.20m、幅0.24m、深度約20cmを測る。SD90(南北)と並行し、S131・138の削平の影響を受ける。埋土は褐色粘質土、底面に小穴が認められ、布掘掘削である。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

第4節 土坑跡

SK1 (第31・32・54図 表5 図版9)

調査区F15で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は確認した範囲で、上場が長軸1.87m×短軸1.10m、下場が長軸1.36m×短軸0.75mを測り、南側は市道に潜る。深度は0.59mを測る。埋土は大きく4層に分層される。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

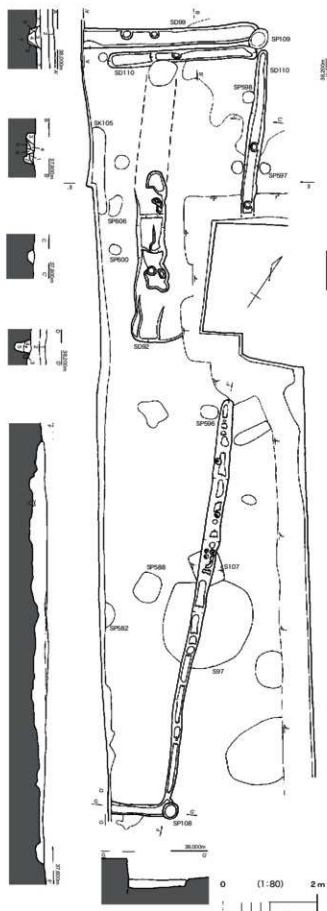
弥生土器 1は口縁部から胴部上半まで残存する甕である。頸部下に1条の沈線を施す。2は頂部が凹み、体部半ばまで残存する蓋である。3・4は壺底部で、外底は3がわずかな上げ底、4は平底である。5は甕底部で、外底はナデを施した上げ底である。

石製品 1は片岩製の砥石で、砥面は1面である。

SK5 (第31・32・54図 表5 図版9)

調査区B4・5で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸2.52m×短軸1.43m、下場が長軸2.10m×短軸0.83m、深度0.49mを測る。埋土は大きく4層に分層できるが、東側は樹木根の影響を受けていた。また、2層はフローテーションを実施し、炭化種子を採取した。出土した遺物は弥生土器片で、時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物



第29図 SD92・99・110実測図

SD99 A-A'

- 1 断片
- 2 断片
- 3 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が細かく、粘性が強い。
- 4 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 5 T.YV3.15黄褐色粘土 4層より黄褐色土を多く含む、粘性が強い。
- 6 T.YV3.15黄褐色粘土 4層より黄褐色土を多く含む、粘性が強い。
- 7 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。

SD99-110 B-B'

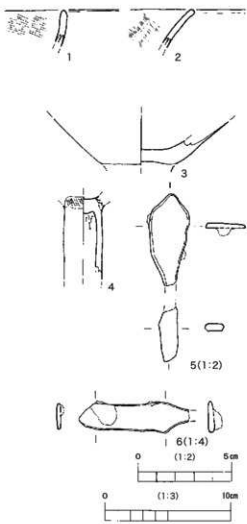
- 1 H.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 2 H.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 3 H.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 4 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 5 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 6 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。

SD110D-D'

- 1 断片
- 2 断片
- 3 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 4 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。
- 5 T.YV3.15黄褐色粘土 粒子が粗く、粘性が強い。

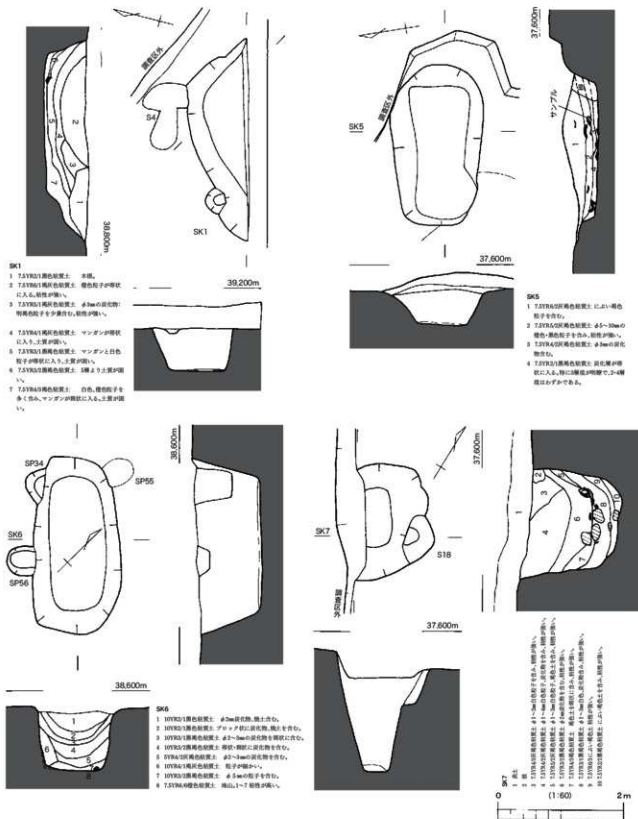
SD92-110-SK105 E-E'

- 1 断片
- 2 断片
- 3 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 4 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 5 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 6 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 7 T.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 8 H.YV3.15黄褐色粘土 断面。
- 9 H.YV3.15黄褐色粘土 断面。



第30図 SD110遺物実測図

弥生土器 6から10・16から18は壺である。6は口縁部から体部、7から9は頸部から体部が残存する。6の口縁部は外方へ開き、7は頸部内・外面、6・8・9は頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。8・9は突帯・沈線間に無軸羽状文を二段施し、弧状文を施す。16から18は壺底部で、外底はわずかな上げ底である。11から15・19から22は甕である。11から15は口縁部から体部まで残存し、頸



第31図 SK1・5~7実測図

部下に1条の沈線を施す。12は体部から頸部へ窄まり、口縁部が短く開く。19から22は底部で、19・20は上げ底、21・22は平底を呈する。23は口縁部から底部まで残存する鉢で、口縁部下に把手を2ヶ所設ける。24は焼土である。

石製品 2は砂岩製の石包丁で、両刃である。3・4は砂岩製の砥石で、砥面は3が1面、4が3面である。

SK6 (第31・33・54図 表5 図版9)

調査区C10で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸2.79m×短軸1.33m、下場が長軸2.13m×短軸0.90m、深度1.20mを測る。柱穴跡3基は、前出である。埋土は大きく3層に分層でき、1・2層が上層、3～5層が中層、6・7層が下層である。出土した遺物は弥生土器片、石製品、焼土である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1から5は壺である。1は口縁部から頸部まで残存する広口壺で、口縁部が肥厚し、外面は朱が認められる。2は口縁部から頸部まで残存する広口壺で、頸部に4条の沈線を施す。3は口縁部から肩部まで残存する。肩部に3条の沈線を施す。4・5は底部で、外底はわずかに上げ底を呈する。6から17は甕である。6から10は口縁部が如意形を呈する。11・12は口縁部外面に、断面が三角形の粘土紐を貼り付ける。13から17は底部が残存する。13の外底は中央付近を押圧により凹む。14は外底に焼成前穿孔、16は焼成前未穿孔、17は底部から体部付近に焼成前穿孔が施される。15は脚状である。18から20は鉢である。18は脚付で、外底は緩やかな上げ底である。20は口縁部内面に、断面が三角形の粘土紐を貼り付ける。

石製品 5は砂岩製、6は凝灰岩製の砥石である。7は安山岩製の敲石で、円形の未穿孔が2箇所認められる。8は粘板岩製の砥石で、方形の板状を呈し、砥面が2面と一部赤変した部分が認められる。

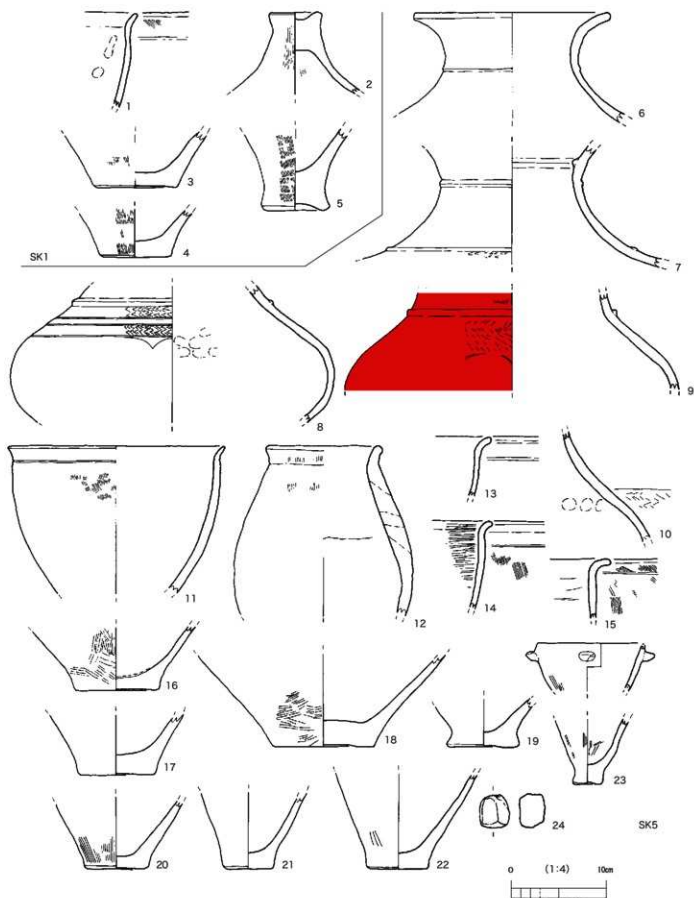
SK7 (第31・34・35・54図 表5 図版9・10)

調査区A5で検出、平面形は隅丸方形と考えられる。西側は調査区外へ延びるが、確認した遺構の規模は上場が長軸1.85m×短軸0.95m、下場が長軸0.96m×短軸0.52m、深度1.62mを測る。東側でS18の削平を受ける。埋土は大きく5層に分層され、3層に遺物の集中が確認でき、廃棄されたと考えられる。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

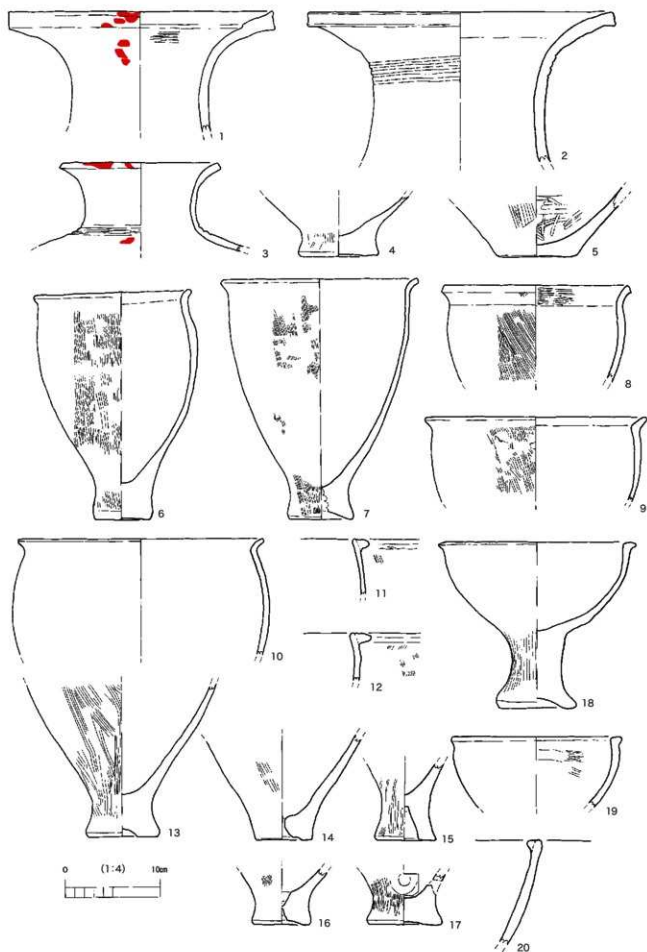
出土遺物

弥生土器 1から8は壺である。1は図上で復元し、底部を欠損する。口唇部はナデにより摘みあげられる。断面が三角形の突帯を頸部に1条、胴部中位に2条貼り付ける。2は直口壺で、頸部から胴部上半が広がる。3は頸部に焼成前穿孔、外面に丹塗りを施す。口縁部下に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。4は胴部下半に、焼成後穿孔を施す。5は胴部下半が接合しないが、同一個体と考えられる。頸部に2条、胴部中位に3条の「M」字突帯を貼り付ける。胴部中位に円形の焼成前穿孔、外面に丹塗りを施す。6は口縁部が残存する長頸壺で、外面は丹塗りである。口唇部内面に断面が三角形の突帯を1条、外面に断面が「M」字状の突帯を8条貼り付ける。7・8は底部である。9から16は甕である。9から12は「く」字形の口縁部である。9の口唇部は跳ね上げ状である。頸部は断面が三角形の突帯を9・11は1条、12は2条貼り付ける。13は鋤先状口縁で、頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。外面は丹塗りを施す。16は口縁部に円形の浮文を貼り付ける。17から23は高坏で、多く出土した。20は口縁部が逆「ハ」字形、坏部は丸味をもつ。17・19の口縁部は鋤先状で、19の外面は丹塗りを施す。22は白色を呈し、器壁の剥離が著しい。24は外面に手頭圧痕が残り、手捏ねである。25・26は鉢である。27から29は丹塗りの器台である。27は口唇部に断面が三角形の突帯を貼り付け、跳ね上げ状である。28は脚部と考えられる。29は口縁部が残存する。

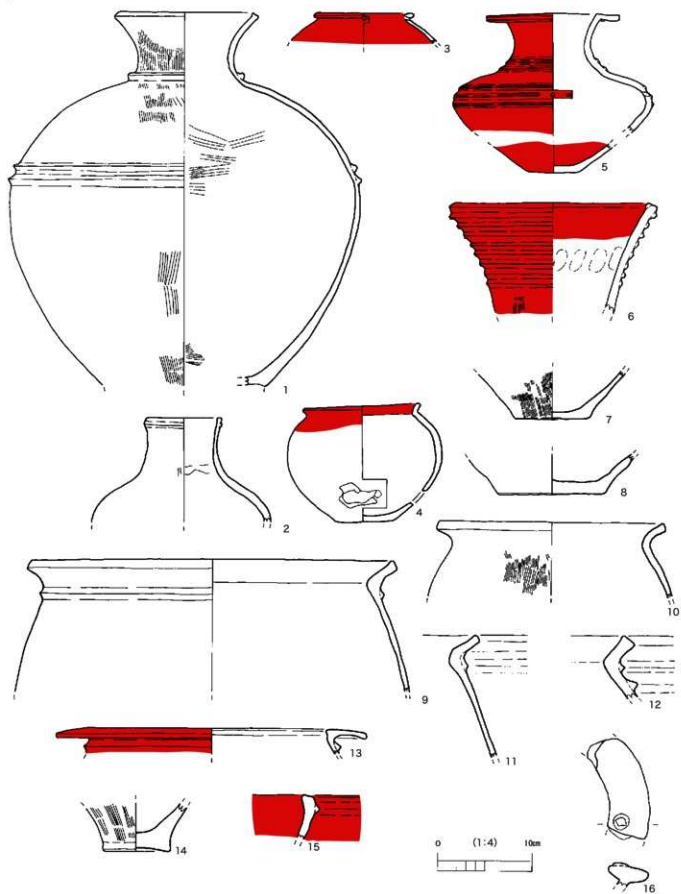
石製品 9は砂岩製の石包丁で、刃部は両刃である。10は砂岩製の砥石で、大形の製品である。砥面は1面である。



第32図 SK1・5出土遺物実測図



第33図 SK6出土遺物実測図



第34図 SK7出土遺物実測図①

SK11 (第36図 表5 図版10)

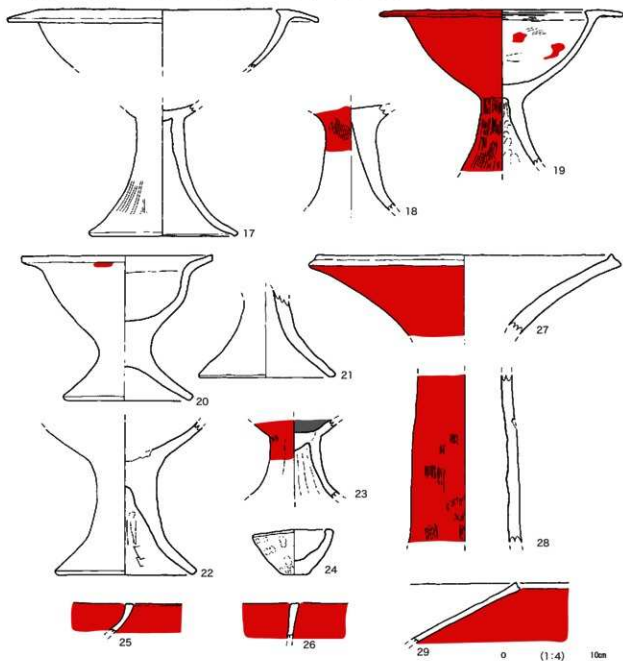
調査区B・C9で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸2.43m×短軸1.14m、下場が長軸2.09m×短軸1.14m、深度0.34mを測る。埋土は2層に分層される。北側の床面で第36図1、北東側の床面にて径約0.35m、深度9cmの柱穴跡を確認した。出土した遺物は弥生土器片である。

出土遺物

弥生土器 1・2は甕で、口縁部から体部まで残存する。1は頸部下に1条の沈線を施す。

SK29 (第36図 図版10)

調査区C11で検出、平面形は隅丸長方形である。SK27掘削時に別遺構として確認した。遺構の規模は上場が長軸2.60m×短軸1.15m、下場が長軸1.96m×短軸0.60m、深度0.82mを測る。埋土は灰褐色粘質土の単層である。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。



第35図 SK7出土遺物実測図②

SK21 (第37・39・54図 表5 図版10)

調査区B・C8で検出、平面形は隅丸方形である。東側は調査区外へ延びるが、確認できた遺構の規模は上場が長軸2.08m×短軸1.40m、下場が長軸1.57m×短軸1.13m、深度0.59mを測る。埋土は大きく4層に分層される。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1から3は壺である。1は広口壺の口縁部、2・3は底部で、外底がわずかに上げ底である。4から12は甕である。4・5は口縁部が短く反り、体部下半まで残存する。6は頸部下に2条の沈線を施す。9から12は底部で、外底は11が平底、その他は上げ底である。13は焼土である。

石製品 11は片岩製の片刃石斧で、基部を欠損する。12は凝灰岩製の敲石で、敲打面が認められる。13は安山岩製の磨製石斧で、身部の一部を欠損するが平坦に仕上げる。基部と刃部は欠損する。

SK22 (第37・41・54図 表5 図版10)

調査区C11・12、D11・12で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸2.69m×短軸1.52m、下場が長軸2.25m×短軸1.24m、深度1.20mを測る。埋土は大きく6層に分層される。4・5層は土器等・焼土・炭化物に分層が可能である。4・5層はフローテーションを実施した。また、北側の壁面に、第41図9を確認できた。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1から6は壺である。1は広口壺で、口縁部は内面に貼り付けにより肥厚し、外面中位に1条の沈線を施し、頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。3は口縁部に3条の沈線を施す。4から6は底部で外底は5が平底、4・6が上げ底である。8は蓋で、頂部は凹み、体部から口縁部は裾が開く。7・9から13は甕である。7は体部下半に、円形の焼成前穿孔を施す。9は口縁部が短く、頸部下に1条の沈線を施す。10から13は底部で、外底は10が平底、11から13が上げ底である。

石製品 14は安山岩製の石剣もしくは石戈である。15は凝灰岩製の敲石もしくは投石と考えられる。16は砂岩製の砥石で、砥面は1面である。

SK28 (第36・41・42・54図 表5 図版10)

調査区C11で検出、調査当初はSK27として掘削したが、SK28・29に分かれることが判明した。SK27の埋土は黒褐色粘質土である。切り合い関係は、SK27がSK28より新しい。このため、SK27はSK28と同一遺構として扱う。平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は上場が長軸4.70m×短軸2.10m、下場が長軸4.35m×短軸1.86m、深度0.10～0.20mを測る。埋土は3層に分層される。北東側は地割れ痕跡が認められる。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 14～16・25・26は壺である。14は広口壺で、口縁部が肥厚する。16は頸部から胴部が残存する。25・26は底部で、外底は25が平底、26が上げ底である。17から21・27から30は甕である。19は頸部下に断面が三角形の突帯を1条、21は胴部上位に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。27から30は底部である。28は体部下半から底部まで残存し、外底は上げ底である。30は脚部である。22・23は鉢で、口縁部が垂下する。24は焼土である。

石製品 17は片岩製の片刃石斧で、完存である。18は砂岩製の石剣である。基部は両側に挟りが入り、関を設ける。刃部は中程から欠損する。19は砂岩製の砥石で、砥面は1面である。

鉄製品 20は1層出土で、不明製品である。

SK30 (第37・42图 表5 图版10)

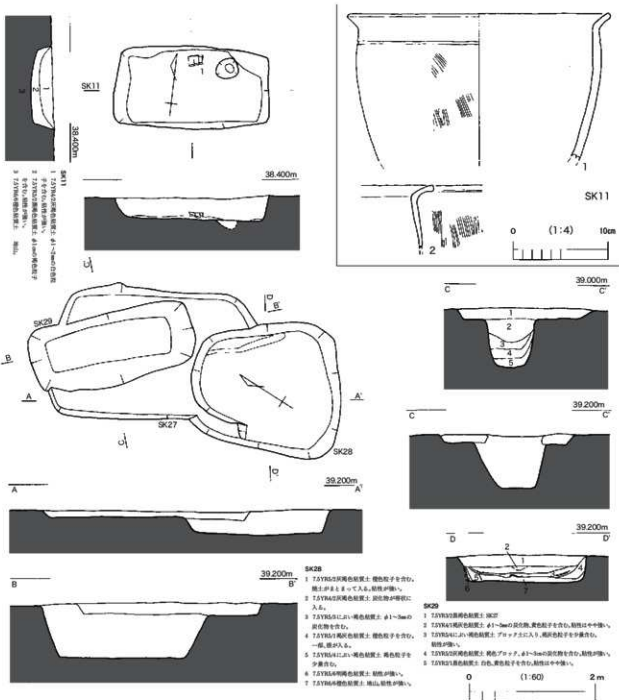
調査区C10で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸3.30m×短軸1.53m、下場が長軸2.74m×短軸1.03m、深度0.71mを測る。埋土は大きく2層に分層され、1層はSI25の貼床である。新旧関係はSB1P6が古く、SI25が新しい。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 32・33は壺底部である。31は甕で、頸部下に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。

SK31 (第37・42图 表5 图版11)

調査区D12で検出、平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は上場が長軸1.75m×短軸1.46m、



第36図 SK11・27~29実測図、SK11出土遺物実測図

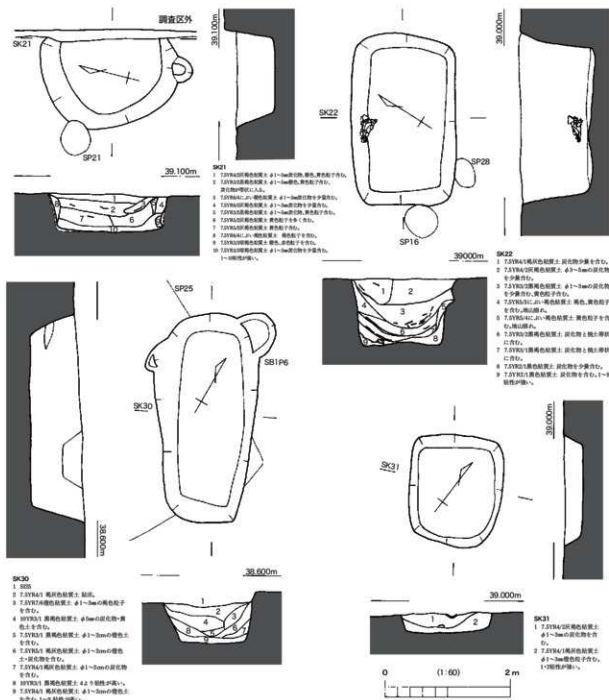
下場が長軸1.37m×短軸1.20m、深度0.30mを測る。埋土は2層に分層される。床面は平坦である。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

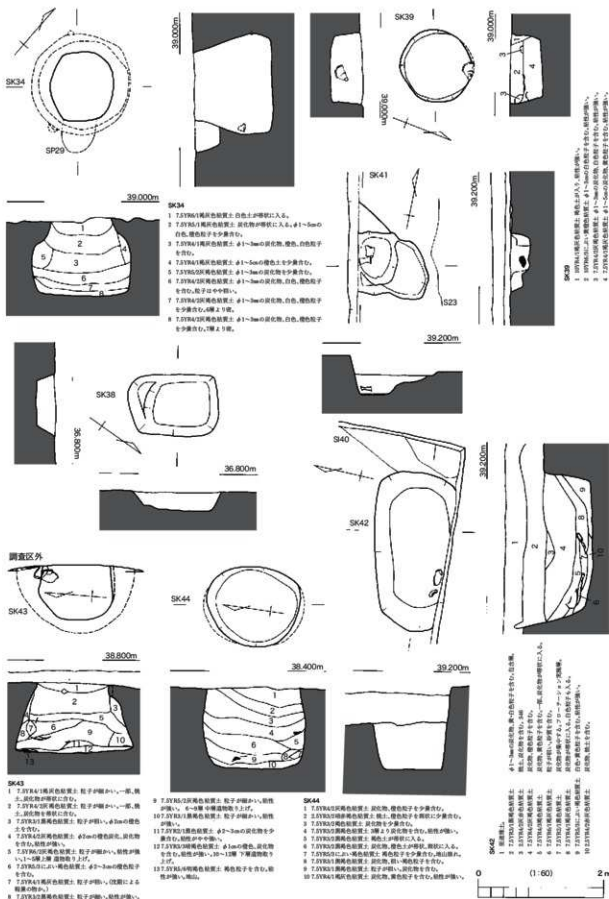
弥生土器 34から36は甕である。35の外底中央は、円形に削り込みを入れる。

SK32 (第38・42・55図 表5 図版11)

調査区D12で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.72m×短軸1.23m、下場が長軸1.46m×短軸1.02m、深度0.31mを測る。埋土は褐色灰粘質土の単層である。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代前期末と考えられる。



第37図 SK21・22・30・31実測図



第40図 SK34・38・39・41~44実測図

出土遺物

弥生土器 37・38は甕である。38は内面にミガキを施し、外底は上げ底である。

石製品 21は砂岩製の台石で、敲打痕が認められる。

SK33 (第38・42図 表5 図版11)

調査区D12で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸1.20m×短軸1.00m、下場の直径約2.25m、深度0.69mを測る。埋土は大きく3層に分層される。断面は裾が鋭角なフラスコ状を呈し、床面は、壁面の立ち上がりに向けて緩やかに上がる。また、床面の中央および南側に、径約25cmの自然礫と第42図40を確認した。南北側の自然礫はまとめて廃棄したと考えられる。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 39・40は甕で、頸部下に1条の沈線を施す。40の沈線は交わらない。

SK34 (第40・42・55図 表5 図版11)

調査区D・E13で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸1.08m×短軸0.98m、下場が長軸1.41m×短軸1.39m、深度1.23mを測る。埋土は大きく6層に分層される。段面の形状は袋状で、南・北西側壁面に凹みを設ける。出土した遺物は弥生土器片、石製品、花崗岩片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 41から46は甕である。41は短い口縁部をもち、頸部下に1条の沈線を施す。沈線は交わらず、違える。42は頸部下に、断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。43は頸部形成時の手頭圧痕にハケを施す。44から46は底部で、外底は45・46が平底、44は上げ底である。

石製品 22は頁岩製の柱状片刃石斧である。23は砂岩製の砥石で、長方形の板状を呈する。砥面は4面あり、全体的に黒変する。

SK38 (第40・43図 表5 図版11)

調査区E15で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.41m×短軸0.97m、下場が長軸0.98m×短軸0.69m、深度0.29mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単層である。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1は口縁部が残存する甕で、外面は縦位のハケ後横位のミガキ、内面は横位のミガキを施す。2は甕で口縁部にキザミを施し、頸部下は1条の沈線を施す。3は平底の甕底部である。

SK39 (第40・43図 表5 図版11)

調査区E14で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸1.13m×短軸1.10m、下場が長軸1.13m×短軸1.03m、深度0.52mを測る。埋土は2層に分層が可能である。第43図5は口縁部を底面に向けた状態で出土した。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代前期後半から末と考えられる。

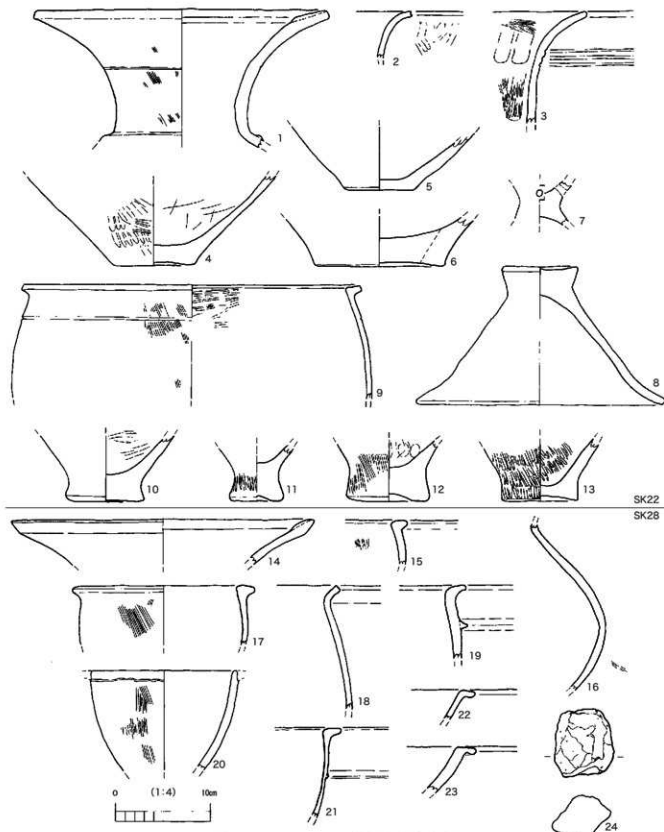
出土遺物

弥生土器 4・8・9は甕である。4は図上復元である。小形で口縁部内面にミガキを施す。胴部上半は断面が三角形の突帯を1条、無軸羽状文、1条の沈線、弧文を施す。8・9は胴部から底部まで残存する。5から7・10・11は甕である。5から7は如意形口縁の甕である。5は口唇部にキザミを施し、胴部下半に円形の焼成後穿孔が施される。6・7は頸部下に1条の沈線を施す。12は蓋で頂部は凹み、頂部下は窄まり、大きく開く。外面はハケ後ミガキを施す。13は蓋と考えられ、頂部に焼成前の穿孔を施す。

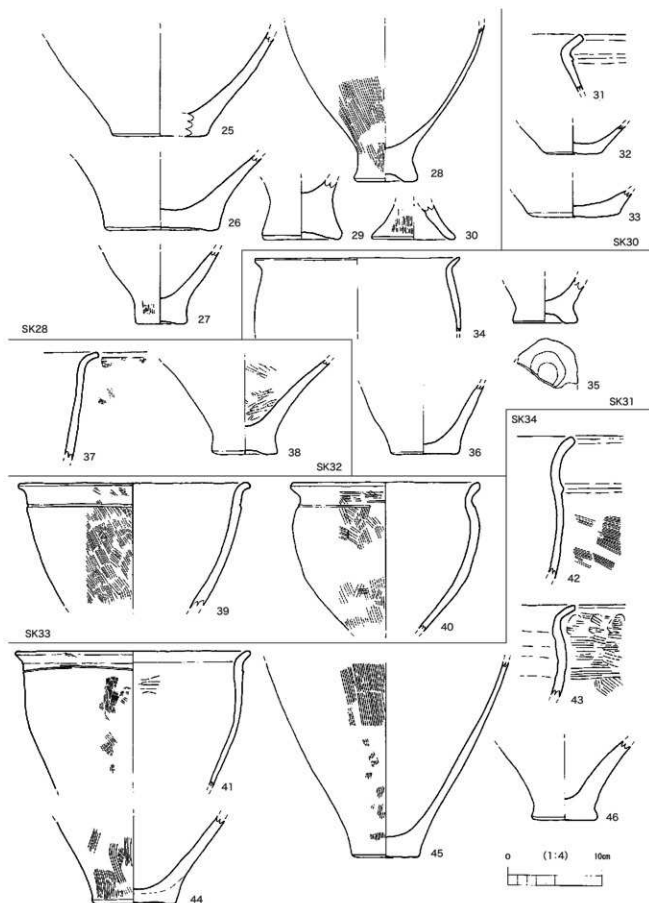
SK41 (第40・43・55図 表5 図版11・12)

調査区C11で検出、平面形は不整形である。遺構の規模は上場が長軸1.40m×短軸1.11m、下場が長軸0.65m×短軸0.52m、深度0.31mを測る。埋土は褐色粘質土の単層である。出土した遺物は弥生土器、石製品である。時期は弥生時代終末と考えられる。

出土遺物



第41図 SK22・28①出土遺物実測図



第42図 SK28②・30~34出土遺物実測図

弥生土器 14は口縁部から底部まで残存する器台である。

石製品 24は砂岩製の台石で、擦過痕が2面認められる。

SK42 (第40・44図 表1・5 図版12)

調査区C10で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸2.49m×短軸1.39m、下場が長軸1.92m×短軸0.96m、深度0.90mを測る。埋土は大きく4層に分層が可能である。1層で焼土の堆積を確認したため、S46として調査を進めたが、壁面の硬化等は確認できなかった。3層の西側で土器と焼土片が集中して出土した。新旧関係は、SI40が後出である。7層をフローテーションを実施した。

出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代中期前半から中頃と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1・5・6・8は壺で、1は頸縁部が残存し、外・内面に断面が三角形の突帯を1条施す。5・6・8は底部で、外底は5・6が上げ底、8が平底である。2から4・7・9は甕である。2は口縁部が外方へ折れ、胴部の最大径は中位に位置し、底部は上げ底を呈する。3は口縁部が如意形で、胴部の最大径は上位に位置し、底部は厚い。外底は上げ底である。4は口縁部内面が突出し、口唇部は垂下する。7は底部で、外底は上げ底である。10は焼土で、この他に12点確認した。

SK43 (第40・45・46・55図 表5 図版12)

調査区C10で検出、平面形は円形である。遺構は調査区の東側に延び、規模は上場が長軸1.15m×短軸0.85m、下場が長軸1.87m×短軸1.07m、深度1.09mを測る。断面形は、フラスコ状である。埋土は大きく3層に分層される。2層の北側で第45図1・2が出土した。3層の下層は硬い。出土した遺物は弥生土器片、石製品、花崗岩片である。時期は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1から3・10から12は壺である。1は口唇部にキザミを施し、口縁部と頸部間に1条の沈線、頸部に断面が三角形の突帯と1条の沈線による区画を施し、無軸羽状文を3段と弧状文を施す。底部は平底である。2は図上復元した壺で、口縁部から頸部に1条の沈線を施し、頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。10から12は底部で、外底は平底に近い。4から9・13は甕である。4は口唇部にキザミ、頸部下に1条の沈線を施す。5は口縁部を欠損するが、底部まで残存する。頸部下に1条の沈線を施す。内面の胴部下半は、右上がりの粘土紐の輪積み痕が確認できる。8は口唇部が跳ね上げ状である。14は高坏の脚部で、底部は上げ底である。15は焼土である。石製品 25は細粒砂岩製の砥石で、板状を呈し、砥面は4面確認できる。26は安山岩製の磨石である。

SK44 (第40・47図 表5 図版12)

調査区C9で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸1.52m×短軸1.26m、下場が長軸1.49m×短軸1.26m、深度1.21mを測る。断面形は、緩やかな袋状である。埋土は大きく4層に分層される。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

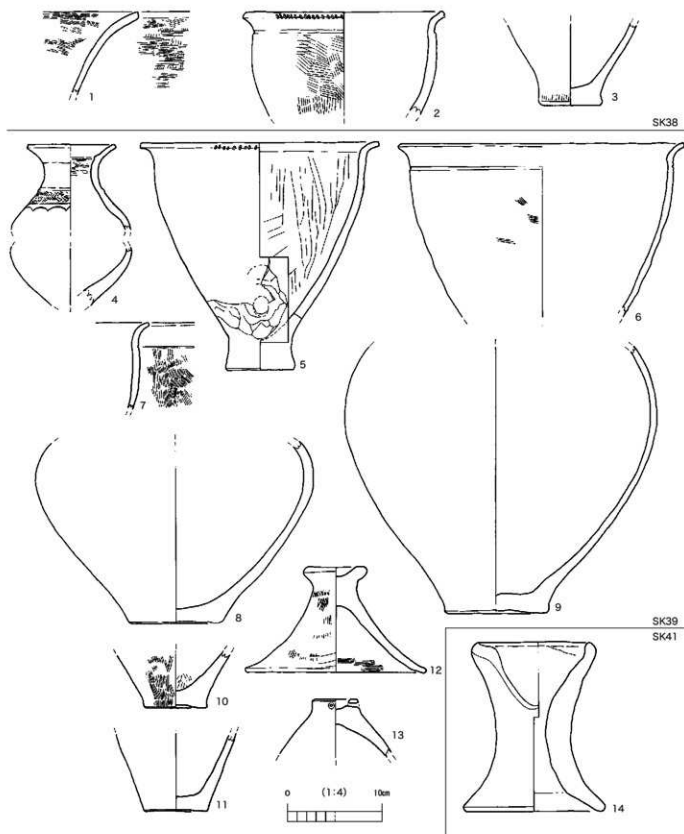
出土遺物

弥生土器 1から4は壺である。1は頸部から胴部が残存し、2本の沈線内に無軸羽状文、列点文による弧文を施す。2は口縁部から頸部まで残存する。外面は口縁部にキザミを施し、口縁部中位に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。3は同一個体と考えられ、口縁部から胴部半ばまでと胴部下半

表1 SK42出土焼土一覧表

番号	層位	法量 (cm)			
		最大長	最大幅	最大厚	重さ
1	一括	2.0	2.5	1.7	6.5
2		3.6	4.2	2.0	21.7
3		3.0	3.5	2.0	21.7
4		4.5	4.4	3.0	32.9
5	下層	4.4	4.9	4.4	49.3
6		3.0	3.2	2.6	14.0
7		3.0	3.2	2.6	14.0
8		3.4	4.2	3.0	28.5
9		6.2	7.2	3.5	85.1
10		5.2	5.4	3.9	82.0
11		4.2	6.0	3.8	40.5
12		6.5	9.5	4.5	172.1

から底部が残存する。口唇部にキザミを施し、頸部と肩部に1条の沈線を施す。4は2本の沈線内に無軸羽状文と上弧状の列点文を施す。5から10は甕である。5は甕または鉢と考えられ、口縁部から胴部下半まで直に延びる。頸部に1本の沈線を施す。6は頸部下に断面が三角形の突帯を貼り付ける。



第43図 SK38・39・41出土遺物実測図

SK47 (第48・50図 表5 図版12)

調査区C8で検出、平面形は東西に細長い不整形である。遺構の規模は上場が長軸4.67m×短軸0.72m、下場が長軸4.55m×短軸0.50m、深度0.40mを測る。埋土は灰褐色粘質土である。新旧関係は、SP90・93が古く、SP73が新しい。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

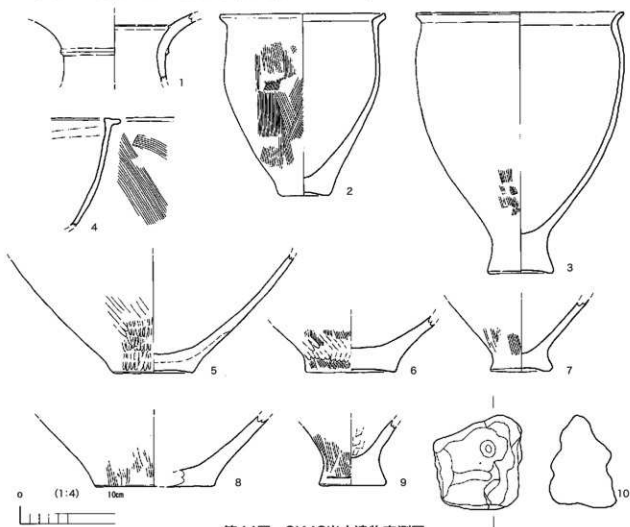
弥生土器 1は壺口縁部で、口唇部はキザミを施し、内面に粘土紐を貼り付け文様を描く。3は壺底部である。2は甕で、口縁部は如意形である。

SK48

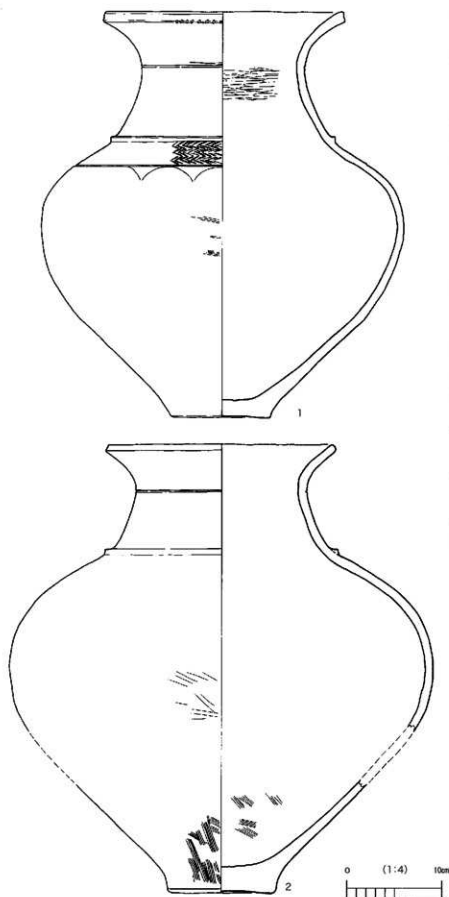
調査区C8で検出、平面形は円形である。SX16掘削後に確認した。遺構の規模は上場が長軸1.13m×短軸0.72m、下場が長軸1.22m×短軸0.81m、深度0.29mを測る。埋土は2層に分層でき、上層が褐灰色粘質土、下層がにぶい橙色粘質土でレンズ状に堆積する。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

SK49

調査区C8で検出、平面形は楕円形である。SX16掘削後に確認した。遺構の規模は上場が長軸0.82m×短軸0.64m、下場が長軸0.72m×短軸0.57m、深度0.16mを測る。埋土は褐灰色粘質土の単層である。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。



第44図 SK42出土遺物実測図



第45図 SK43出土遺物実測図①

SK51 (第48図 図版13)

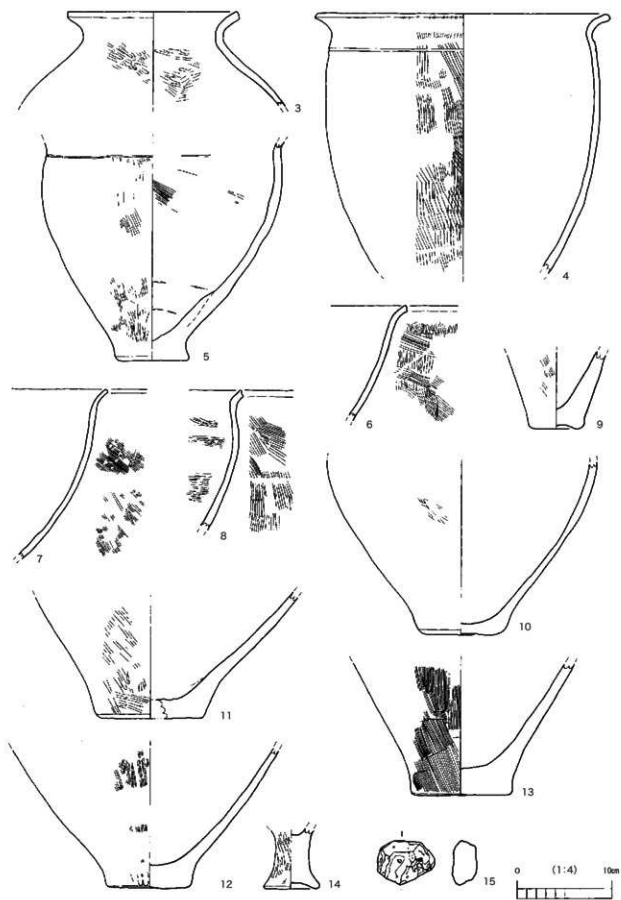
調査区C7で検出、平面形は細長形である。遺構の規模は上場が長軸2.44m×短軸0.60m、下場が長軸2.33m×短軸0.27m、深度0.26mを測る。埋土は黒褐色粘質土である。新旧関係は、SP148・150が新しい。出土した遺物は弥生土器片で、図示可能ではなかった。

SK52 (第48・50図 表5 図版13)

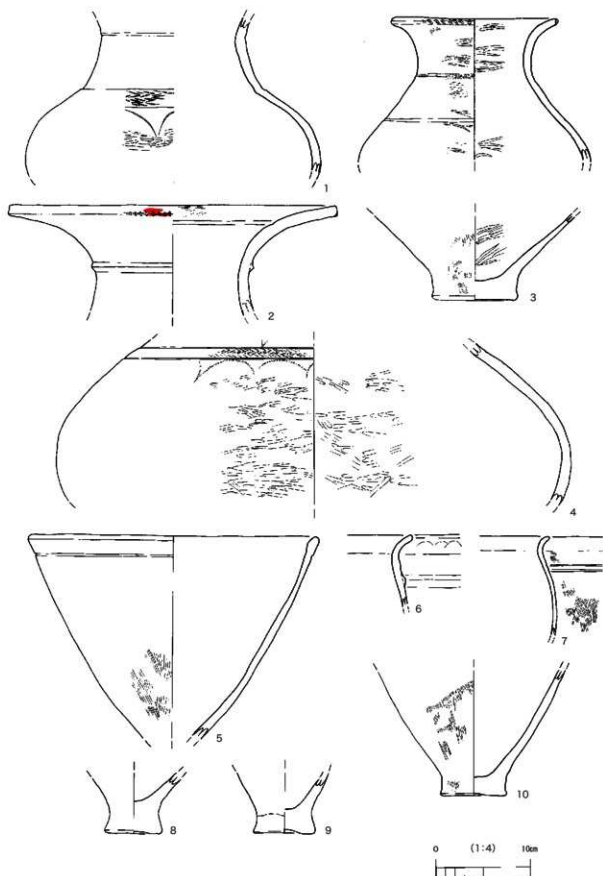
調査区B7で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸0.94m×短軸0.94m、下場が長軸1.02m×短軸0.80m、最大径1.18m、深度0.75mを測る。埋土は大きく3層に分層される。断面形は、北側は緩やかに、南側は大きく膨らむ。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

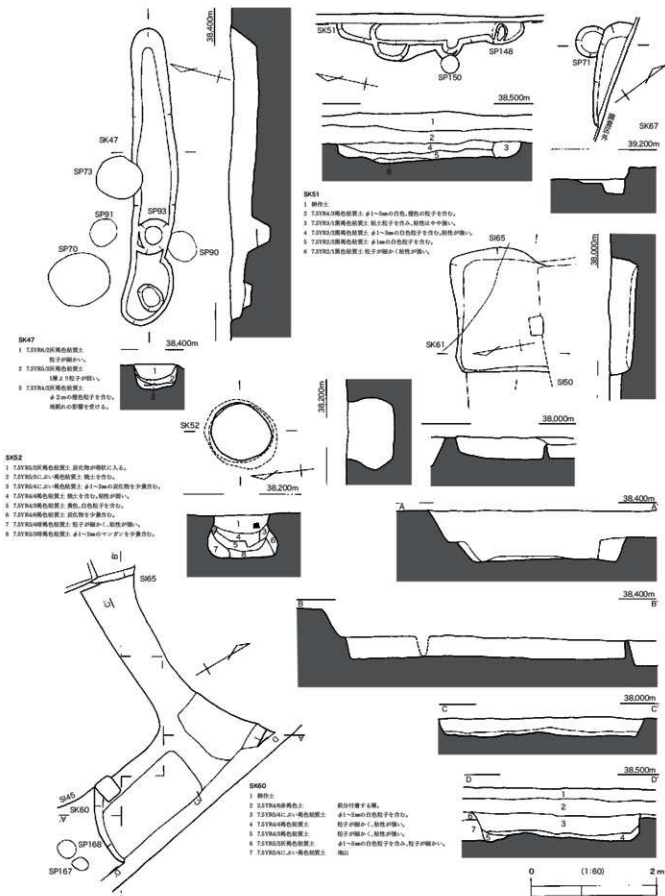
弥生土器 5・6は壺底部で、外底は上げ底である。4は甕である。



第46図 SK43出土遺物実測図②



第47図 SK44出土遺物実測図



第48図 SK47・51・52・60・61・67実測図

SK60 (第48・50図 表5 図版13)

調査区B・C6で検出、平面形は隅丸長方形である。確認できる遺構の規模は上場が長軸4.28m×短軸3.53m、下場が長軸3.83m×短軸3.41m、最大径0.30m、深度0.30mを測る。検出時の埋土は、褐色粘質土の単層である。新旧関係は、SI45・65、SK61が新しい。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 7から9は壺である。7・8は胴部上半で、断面が三角形の突帯を1条施し、「/」の刻みを施す。9は底部で、厚い。

SK61 (第48・50図 表5 図版13)

調査区B6で検出、平面形は隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.94m×短軸1.69m、下場は現存長で長軸1.35m×短軸1.17m、深度0.30mを測る。検出時の埋土は、褐色粘質土の単層である。新旧関係は、SI65・SK60が古く、SI50が新しい。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代中期中頃と考えられる。

出土遺物

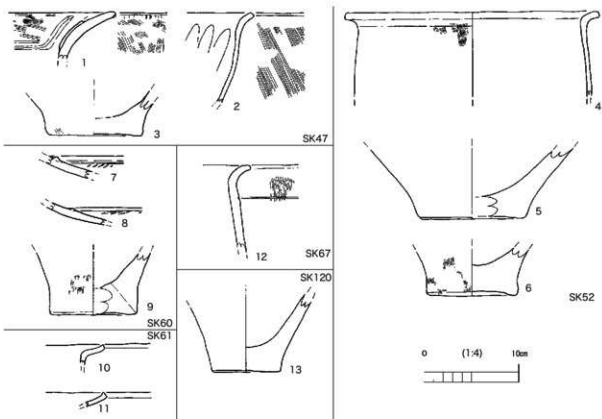
弥生土器 10・11は甕口縁部で、口唇部は跳ね上げ状である。

SK64 (第55図 表5 図版13)

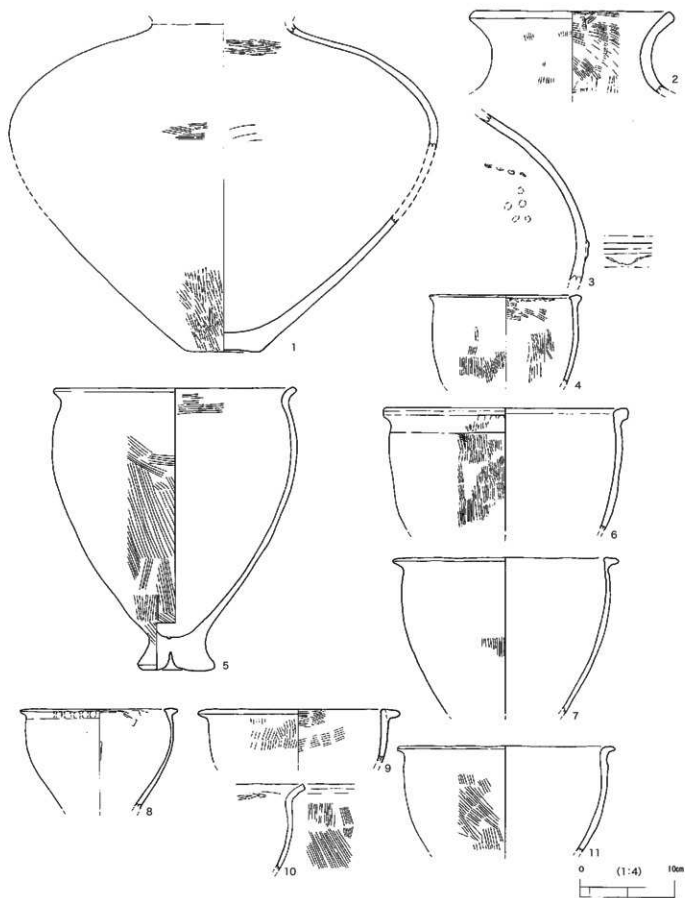
調査区B10で検出、平面形は楕円形である。遺構の規模は上場が長軸1.24m×短軸0.71m、下場が長軸1.23m×短軸0.53m、深度0.33mを測る。南西側の床面は、一段凹む。埋土は橙色粘質土の単層である。出土した遺物は石製品である。

出土遺物

石製品 27はサヌカイト製の剥片で風化が著しい。



第50図 SK47・52・60・61・67・120出土遺物実測図



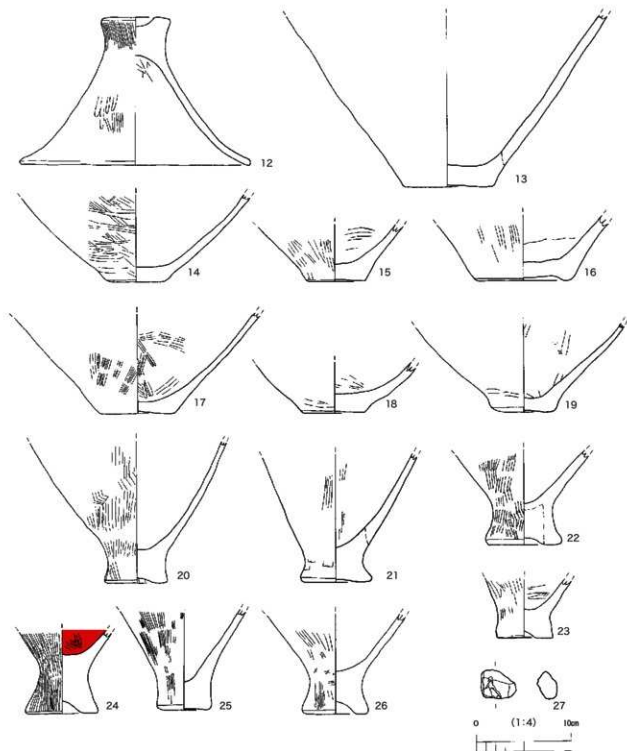
第51図 SK125出土遺物実測図①

SK67 (第48・50図 表5)

調査区E13で検出、平面形は隅丸長方形である。確認できた遺構の規模は上場が長軸1.60m×短軸0.38m、下場が長軸1.18m×短軸0.28m、深度0.23mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単層である。新旧関係は、SP71が前出である。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 12は甕で、口縁部は外方へ開き、頸部下に1条の沈線を施す。



第52図 SK125出土遺物実測図②

SK105 (第49図)

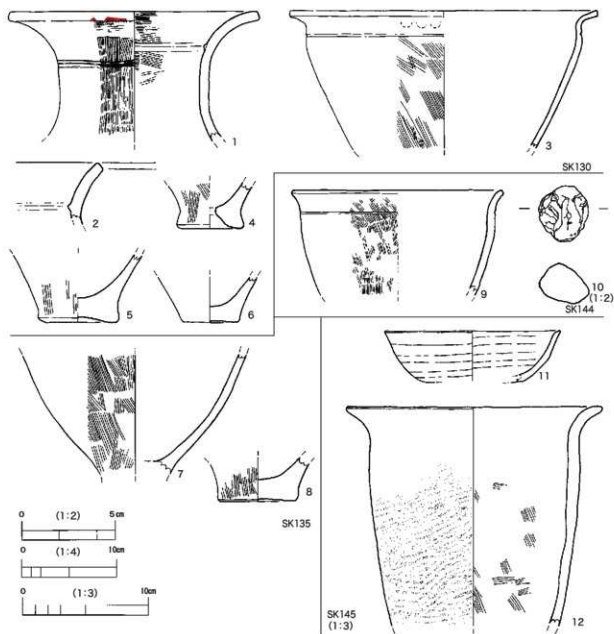
調査区K23で検出、平面形は隅丸長方形である。確認した遺構の規模は上場が長軸1.83m×短軸0.27m、下場が長軸1.77m×短軸0.21m、深度0.10mを測る。西側は調査区外へ延びる。埋土は2層に分層される。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

SK120 (第49・50図 表5 図版13)

調査区G16で検出、平面形は楕円形である。確認できた遺構の規模は上場が長軸0.54m×短軸0.33m、下場が長軸0.50m×短軸0.36m、深度0.26mを測る。埋土は黒褐色粘質土の単層である。出土した第50図13は、床面近くで出土した。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

弥生土器 13は甕底部で、外底は平底である。



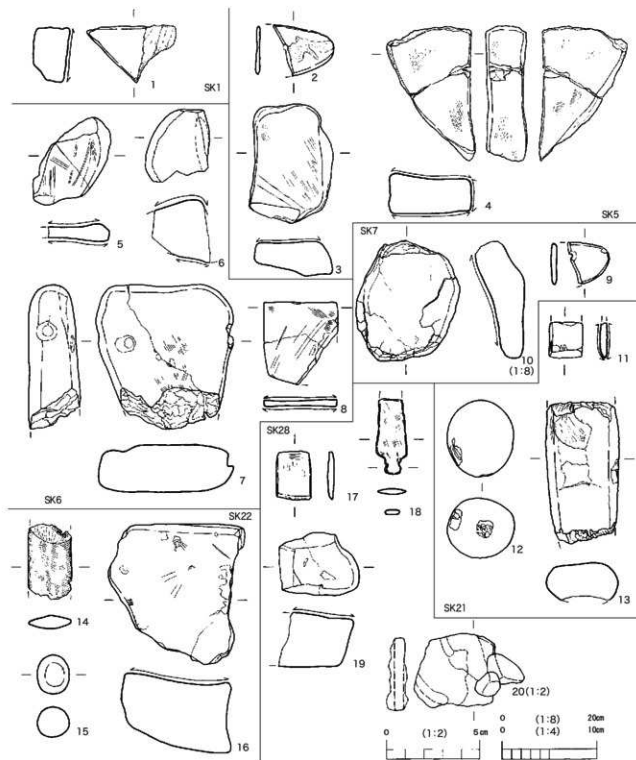
第53図 SK130・135・144・145出土遺物実測図

SK125 (第49・51・52図 表5 図版13・14)

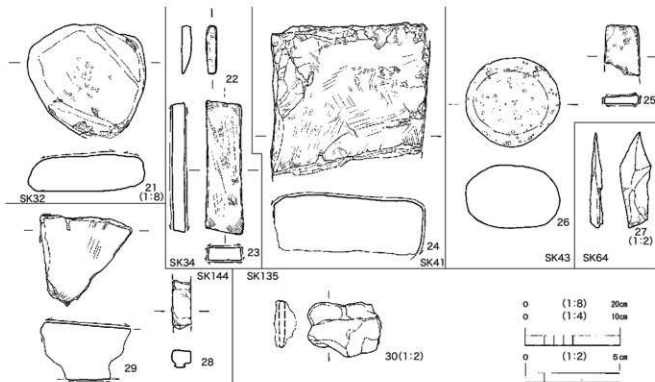
調査区G17で検出、平面形は円形である。遺構の規模は上場が長軸1.52m×短軸1.45m、下場が長軸1.16m×短軸1.05m、深度0.70mを測る。断面形は凹状である。埋土は大きく3層に分層でき、2層に遺物が集中する。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1から3・13から19は壺である。1は頸部から底部まで残存するが、図上で復元を行った。



第54図 SK1・5～7・21・22・28出土遺物実測図



第55図 SK32・34・41・43・64・135・144出土遺物実測図

胴部最大径は中位より上位に位置する。外・内面はミガキが施される。2は口縁部が残存する。3は胴部が残存し、擬三角突帯を1条貼り付ける。13から19は壺底部である。胴部下半から底部が残存し、外底は14が平底、13・15・17は中央が凹む。16は上げ底である。18・19は底部が突出した様相である。4から11・20から26は甕である。4は口縁部が短く、内面へ突出する。5は口縁部から底部まで残存し、外・内底に焼成前未穿孔が認められる。6は短い口縁部で、頸部外面は手頭圧痕により凹む。7から9は口縁部に突帯を貼り付けにより張り出す。10・11は口縁部から体部まで残存する。20から26は底部で、20・22から24・26の外底は中央が凹む上げ底である。21はわずかに上げ底を呈する。25は平底である。12は蓋で頂部から端部まで残存する。頂部中央は押圧によって凹む。27は焼土である。

SK130 (第49・53図 表5 図版14)

調査区G17で検出、平面形は隅丸方形である。西側は、SD90(南北)の削平の影響を受ける。遺構の規模は、上場が長軸2.05m×短軸2.03m、下場が長軸1.18m×短軸1.09m、深度0.30mを測る。埋土は大きく3層に分層される。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

弥生土器 1・2は口縁部が残存する壺である。1は口唇部にキザミを施し、外面は縦位のハケ後、3条の沈線を巡らす。内面は横位のハケ後、断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。2は内面に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。3から6は甕である。3は口縁部が開き、頸部下に1条の沈線を施す。4から6は底部で、外底は上げ底で、4は外底に焼成前穿孔を施す。

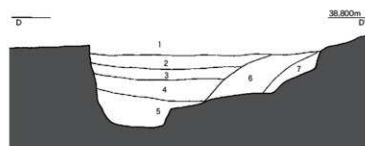
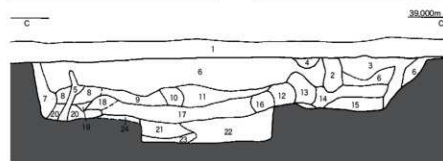
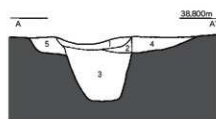
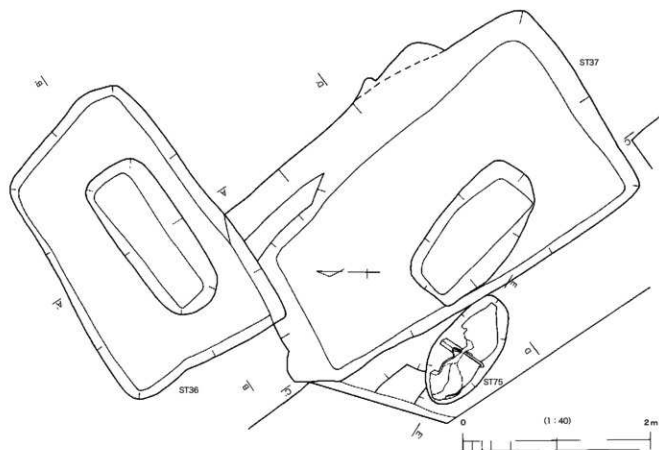
SK135 (第49・53・55図 表5 図版14)

調査区H17で検出、平面形は、隅丸長方形である。上層をS128の削平の影響を受ける。遺構の規模は、上場が長軸1.87m×短軸1.36m、下場が長軸1.19m×短軸0.87m、深度0.62mを測る。検出時、遺物が集中していたため、取り上げ後、土層観察を進めた。埋土は2層に分層され、南側の埋土から柱痕と考えられたが、周囲に同様な遺構は確認できなかった。出土した遺物は弥生土器片、鉄製品である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

出土遺物

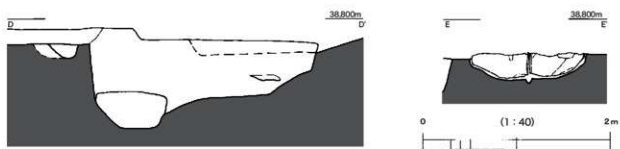
弥生土器 7は胴部下半、8は底部が残存する甕で、底部はわずかに上げ底である。

鉄製品 30は1層出土で、不明製品である。

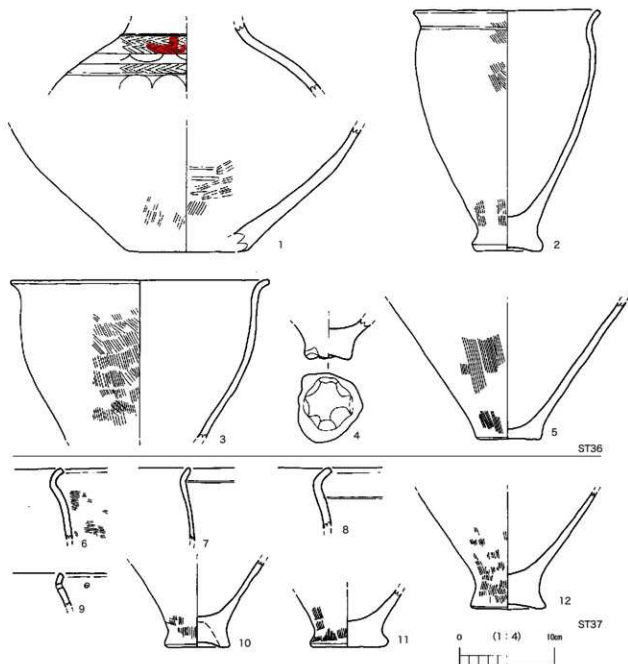


- ST36 A-A'**
1. ST36(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 2. ST36(4)白く褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 3. ST36(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 4. ST36(2)白く褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 5. ST36(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
- ST37 C-C'**
1. 耕土 2~5 雑草根(露)
 2. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 3. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 4. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 5. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 6. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 7. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 8. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 9. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 10. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 11. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 12. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 13. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 14. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 15. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 16. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 17. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 18. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 19. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 20. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 21. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
 22. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む。
- ST37 D-D'**
1. 耕土
 2. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 3. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 4. ST37(3)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 5. ST37(2)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 6. ST37(1)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。
 7. ST37(4)黒褐色粘土 褐色粒を多く含む、粘性が中強い。

第56図 ST36・37・75実測図



第57図 ST37・75実測図



第58図 ST36・37出土遺物実測図

SK144 (第49・53・55図 表5 図版14)

調査区F・G16で検出、平面形は隅丸方形である。S113・116周辺の影響を受ける。S115より新しい。遺構の規模は上場が長軸1.72m×短軸1.36m、下場が長軸1.65m×短軸1.17m、深度0.38mを測る。埋土は大きく3層に分層される。出土した遺物は弥生土器片、石製品である。時期は弥生時代前期末と考えられる。

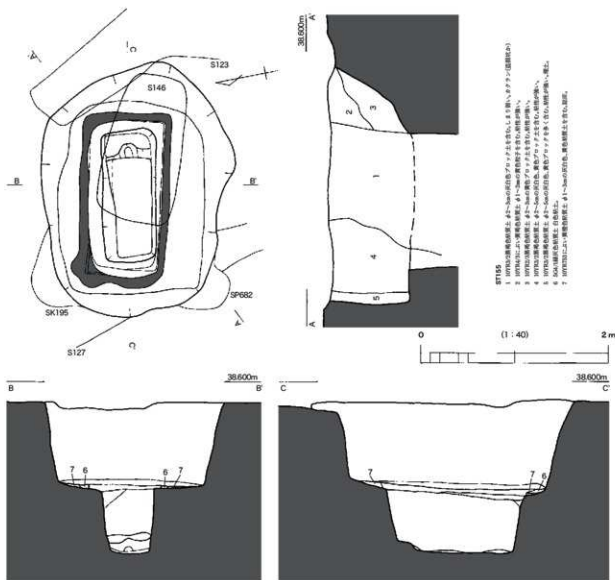
出土遺物

弥生土器 9は甕で、頸部に1条の沈線を施す。10は焼土である。

石製品 28は砂岩製の砥石で、一面はケズリによって断面が凸状である。29は砂岩製の粗砥石で、砥面は2面である。

SK145 (第49・53図 表5 図版14)

調査区G・H18で検出、平面形は隅丸方形である。上層をS131削平の影響を受ける。遺構の規模は上場が長軸2.05m×短軸1.87m、下場が長軸1.85m×短軸1.70m、深度0.65mを測る。埋土は大きく5層に分層が可能である。壁面に黄灰色粒子を斑状に含んだ粘質土、中心は径約45cmの黒褐色粘質土、床面に褐灰色粘質土が認められる。形状は上層が浅い掘方から、中心に径約0.90mの隅丸方形土坑を



第59図 ST155実測図

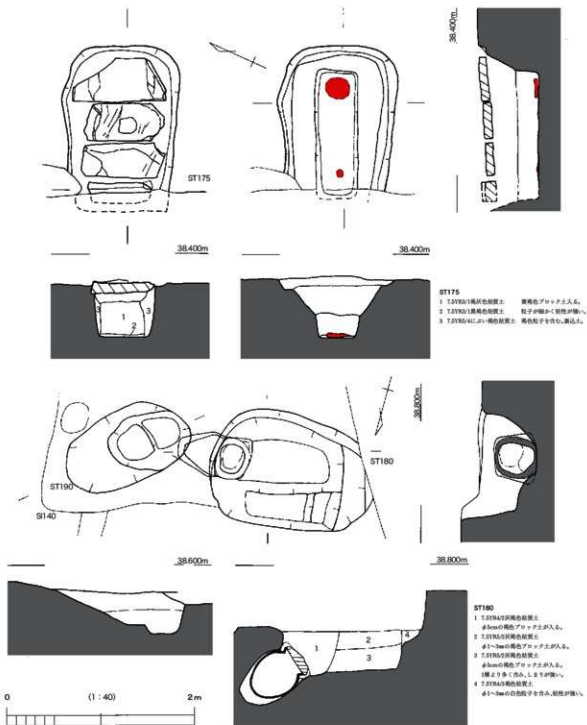
設ける。土坑の断面はフラスコ状に近い。底面の四隅に、径約15~20cmの小穴を設け、埋土は黒褐色粘質土である。出土した遺物は限られているが、土師器、黒色土器（内黒）片、弥生土器片である。時期は古代末と考えられる。

出土遺物

土師器 11は回転ナデ形成による甕で、口唇部が開き、底部の一部がわずかに残存する。12は口縁部から体部下半まで残存する甕で、口縁部は短く、体部外面はタタキ、内面はハケが施される。

SK195

調査区H19で検出した。遺構の大半は、ST155の削平の影響を受ける。残存長は長軸0.70mを測り、



第60図 ST175・180・190実測図

隅丸長方形の様相である。検出時の埋土は、茶褐色粘質土で単層である。遺物は確認できなかった。

SK200 (第23図 図版6)

調査区G17で検出した。S1170の北西に位置し、S113による削平の影響を受ける。平面形は楕円形である。遺構の規模は、上場が長軸0.60~0.65m、深度約0.50mを測る。埋土は5層に分層が可能である。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

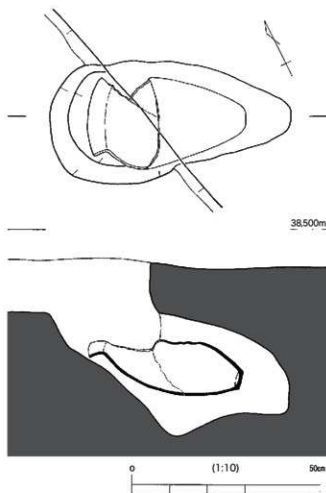
第5節 墓跡

ST36 (第56図 表5 図版14・15)

調査区D・E14で検出、平面形は隅丸長方形である。検出時、中央付近に隅丸方形の植物痕跡が認められたため、南北軸で半截を行ったが、植物痕は一部のみであった。断面の形状は逆凸状である。また、南西側に接するST37より新しい。遺構の規模は上場が長軸3.02m、短軸1.92m、主体部までの深度は0.16mを測る。主体部は中央より南位に位置し、N-55°-Eを測る。規模は長軸1.79m、短軸0.74m、深度0.54mを測る。出土した遺物は弥生土器片である。時期は弥生時代中期初頭と考えられる。

出土遺物

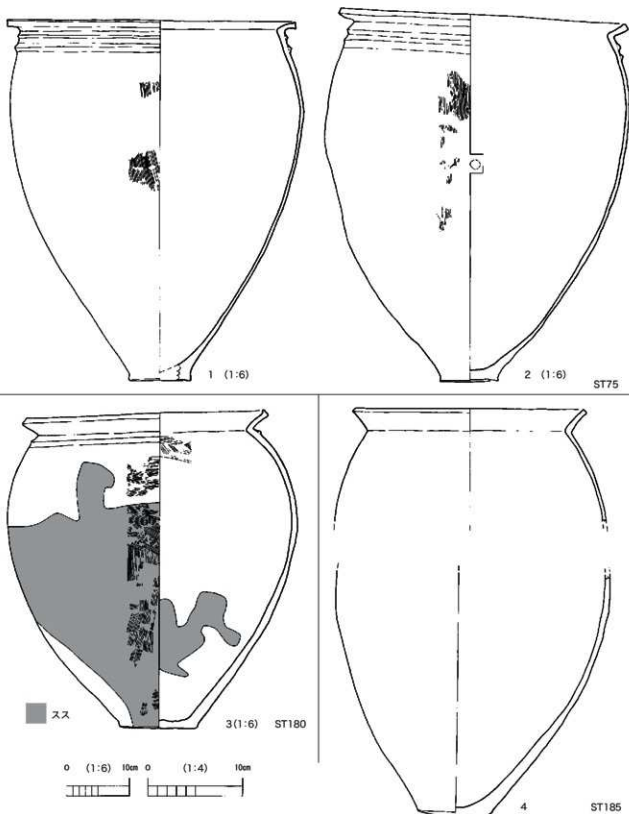
弥生土器 1は頸部から胴部上半と胴部下半が残存する壺で、同一個体と考えられる。頸部から胴部上半は、三角突帯1条と沈線1条の区画線を設け、無軸羽状文2段、半月の下弧状文、無軸羽状文1段と沈線2条に半月の上弧状文を施す。2は甕である。口縁部は如意形で、口縁部下に1条の沈線を施す。外底は上げ底で、厚い。4・5は底部で、外底は4が一部欠損するが、外底端の四隅が突出し、四脚である。5は平底である。



第61図 ST185実測図

ST37 (第56～58図 表5 図版15)

調査区D・E14で検出、平面形は隅丸長方形である。北東側で接するST36の後出で、一部削平と東側で地割れの影響を受ける。遺構の規模は上場が長軸4.12m、短軸2.48m、主体部までの深度は0.55mを測る。埋土は東西が西側へ斜めに入る状況である。南北の上面・北側は、径約0.40mの黒褐色・灰



第62図 ST75・180・185出土遺物実測図

褐色粘質土が楕円形の塊状である。主体部は中央より西位に位置し、N-50°-Wを測る。規模は長軸1.62m、短軸0.84m、深度0.37mを測る。出土した遺物は弥生土器片である。

出土遺物

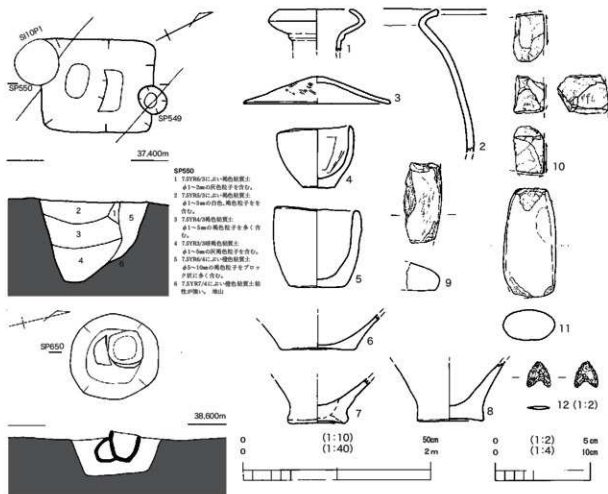
弥生土器 6から12は甕である。6から9は口縁部から体部が残存する。7・8は頸部に1条の沈線を施す。9は頸部下に円形の穿孔を施す。10から12は底部で、外底は10・12は上げ底、11が平底である。

ST75 (第56・57・62図 表5 図版15・16)

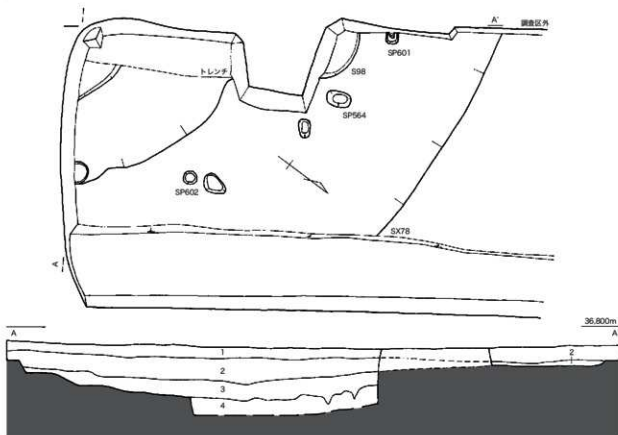
調査区D・E14で検出、ST37北西に位置する。遺構の上面は削平の影響を受ける。規模は長軸1.27m、短軸0.63mを測る。遺構はST37と接して構築されており、前後関係は明確ではない。小形の須玖式合口棺が埋置され、掘方は棺に合わせて掘削している。主軸はN-58°-W、埋置角度は5°を測り、北側を上甕として報告する。合口部分は、白色粘土で帯状に覆う。棺内の堆積は、削平土を除去した後、黒褐色粘質土が認められた。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

甕棺 1は上甕で、口唇部は低い跳ね上げ状、口縁部は「く」字形である。頸部下に断面が三角形の突帯を2条貼り付ける。最大径は胴部中位より上半に位置し、底部は一部削平の影響により残存しないが、上げ底と考えられる。2は下甕で、口唇部は低い跳ね上げ状である。口縁部は上甕より厚く、「く」字形である。頸部下に断面が三角形の突帯を2条貼り付ける。最大径は上甕より下がるが、胴部中位に位置する。また、円形の焼成前穿孔を1ヶ所施す。底部は上げ底である。



第63図 SP実測図・出土遺物実測図



SX78

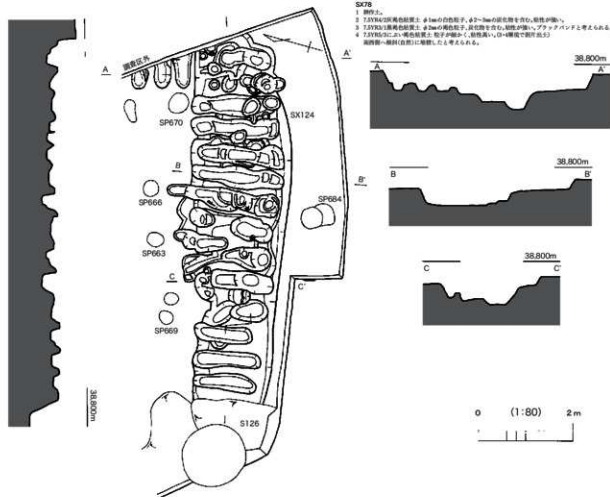
1 調査区外

2 7.3YR4.5/2.5 褐色粘土、 ϕ 1mm の白色砂子、 ϕ 2-3mm の鉄片等を含有、粘性が強い。

3 7.3YR5.1/3.5 褐色粘土、 ϕ 3mm の褐色砂子、灰色土から、鉄片が散見、フタコペンタと考えられる。

4 7.3YR5.5/2.5 褐色粘土、砂子が多く、粘性が強い、 ϕ 2-4mm 程度で鉄片が散見。

地層図-断面(自然)に参照したと考えられる。



第64図 SX78・124実測図

ST155 (第59図 図版16)

調査区H19で検出した土壌墓である。検出時の平面形は、S123の削平を受けて不整形に近い隅丸長方形である。中央付近で長軸1.56m、短軸0.80mの隅丸方形のS146を確認したため、半截を段掘まで行ったが、埋土の状況はしみがなく、地山の土色に類似する。このため、埋戻し土と捉えられ、盗掘坑と考えられる。遺構の規模は上場の最大が長軸2.62m、短軸2.05m、主体部までの深度は0.85mを測る。主体部は一段テラスを四周に設けるが、南側の幅が広い。テラスから主体部内法に、約5cmの掘り込み、白色粘土の縁と蓋材を掛ける段を設ける。また、西側に逆「L」字状の痕跡が認められ、蓋材の痕跡と考えられる。規模は長軸1.87m、短軸0.96m、深度0.73mを測る。東に地山削り出しの枕を設ける。埋土は単層で、灰褐色粘質土である。主軸はN-89°-Wを測る。出土した遺物は弥生土器片であるが、図示可能ではなかった。

ST175 (第60図 図版16・17)

調査区H18で検出、SI140炉跡除去後に確認した石蓋土壌墓である。検出時の平面形は、隅丸長方形を呈する。西側は調査区外へ延びる。遺構の規模は上場が長軸1.75m、短軸1.23m、主体部までの深度は深度0.66mを測る。石蓋は片岩4枚を用いる。主体部の規模は、長軸1.37m、短軸0.46m、深度0.25m、N-63°-Eを測る。主体部の堆積状況は凹状に黒褐色粘質土、下層にふい褐色粘質土の堆積が認められたため、主体部は棺を用いたと考えられる。また、幅は東側が西側に比べ広い。床面より1~2cm浮いた状況の東西で赤色顔料が出土した。赤色顔料は東側が大量、西側が少量である。土壌の幅と赤色顔料の出土位置から、頭位は東側と考えられる。遺物は弥生土器片が出土したが図示可能ではなかった。

ST180 (第60・62図 表5 図版16・17)

調査区H18で検出、SI140の北側の床面除去後に確認し検出した小形の甕棺墓である。検出した平面形は、隅丸長方形である。遺構の規模は上場が長軸1.72m×短軸1.25m、深度0.47mを測る。堆積状況の確認のため、十字に半截を行った。墓墳の北位は長軸1.28m、短軸0.41mの段状が築かれ、段の高低は1段が60cm、2段が4cmを測る。南位は長軸0.76m×短軸0.45mの隅丸長方形の土坑が築かれる。このため、北位は西位から段が設けられているため出入口の機能、南位は埋葬に伴う活動場と考えられる。甕棺の主軸はN-91°-Eで、埋置角度は37°を測る。甕棺の埋置に伴う掘方は、地山との間に隙間がない。甕棺を埋置後、方形の入口に合わせて長軸47cm、短軸38.5cm、厚さ13cmの花崗岩を蓋にして、白色粘土による目張りを実施。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

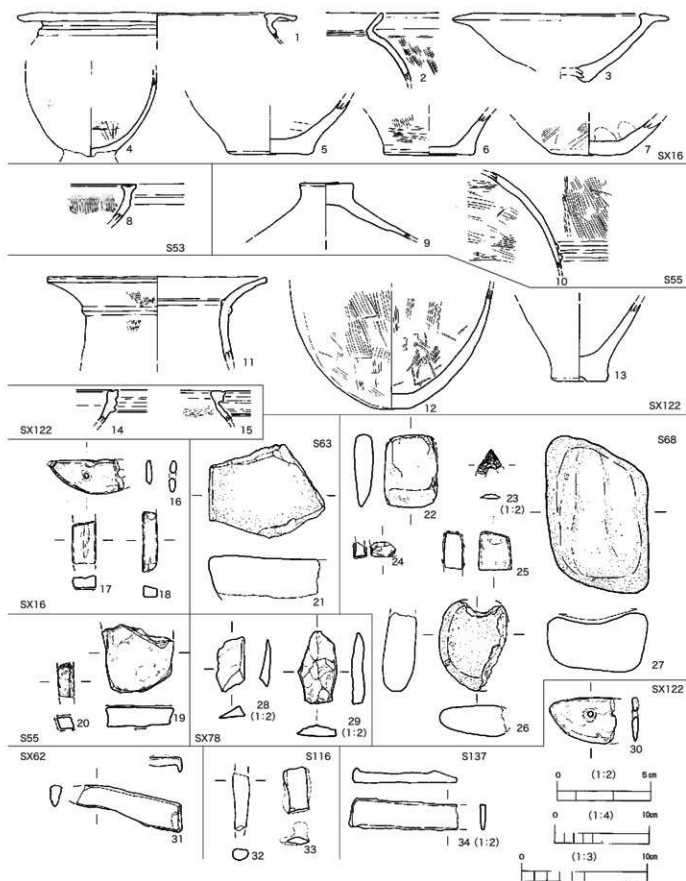
甕棺 3は口唇部に断面が三角形の粘土帯を貼り付けた跳ね上げで、口縁部は逆「L」字状である。口縁部から頸部は、傾きがきつい「く」字形である。頸部下に低い断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。肩部から胴部は丸味を帯び、胴部最大径は口縁部径より大きい。外底は平底である。外面はハケを施し、胴部から底部にかけて、黒斑が認められる。頸部内面は、ケズリに近い工具痕が認められる。

ST185 (第61・62図 表5 図版16~18)

調査区H18のSI140東側壁面で検出、削平の影響を受ける。遺構の規模は上場が長軸0.63m×短軸0.30m、掘方の深度は0.44mを測る。主軸はN-65°-Wで、埋置角度は50°を測る。検出時の埋土は、茶褐色粘質土の単層である。小形棺が出土したが、胴部中位を欠損しており、削平の影響を受けたと考えられる。時期は弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物

甕棺 4は胴部が欠損する甕で、口唇部はわずかに跳ね上げ状で、頸部は「く」字形である。底端部は丸味をおび、外底は平底である。口縁部と底部は、歪みが生じていると考えられる。



第65図 SX・包含層出土遺物実測図

ST190 (第60図 図版16)

調査区D・E14のSI140北側、ST180東側で検出した。SI140東側のベット状遺構によって一部、削平の影響を受ける。規模は長軸1.36m×短軸0.76m、下場が長軸0.50m×短軸0.37mを測る。検出時の埋土は、茶褐色粘質土の単層である。主軸はN-50°-Eで、埋置角度は70°を測る。遺構の形態と他墓跡が集中し、墓壇として掘削したものの使用されなかったと考えられる。出土した遺物は弥生土器片で図示可能ではなかった。

第6節 柱穴跡 (第63図 表4・5 図版18)

柱穴跡は総数673基確認できた。検出時に埋土の土質・土色・写真を記録後、掘削を行った。土質・土色は大きく3分類が可能で、黒褐色粘質土が主体である。出土遺物の大半は、弥生土器片である。図示可能な出土遺物を報告する。

出土遺物

弥生土器 1はSP137から出土した壺で、口縁部から頸部まで残存する複合口縁である。2はSP524から出土した甕で、口縁部から胴部まで残存する。3はSP426から出土した蓋で、頂部から口縁部の約半分ほど残存する。4・5はSP650から出土した鉢で、SB10P2の南東側で検出、直径0.23m、深度0.13mを測る。4・5は口縁部が厚く、完存ではあるが器面の剥離が著しい。4の厚さは整っていない。底部は平底である。6はSP99から出土した壺底部で、平底である。7・8は甕底部で、上げ底である。7はSP548、8はSP564から出土した。

石製品 9はSP187から出土した凝灰岩製の磨製石斧で、刃部・体部を欠損する。10はSP433から出土した片岩製の砥石で、砥面は2面である。11はSP548から出土した細粒砂岩製の磨製石斧である。12はSP73から出土した姫島産黒曜石製の小形の石鏃である。

第7節 性格不明遺構・包含層

SX16 (第65図 表5)

調査区B・C8で検出、南北5.9m、東西7.2mを測り、東側は調査区外へ延びるが隅丸長方形である。東側の調査区外境にトレンチを入れた結果、SI35とその上層に堆積した層に分層が可能であったため、SX16とした。埋土は灰褐色粘質土である。出土遺物は弥生土器片である。

出土遺物

弥生土器 2・4から7は壺である。4は胴部が残存する。底部中央に突出と接合痕が認められるため、脚付と考えられる。5から7は底部である。1は甕である。1は口縁部で、鋤先状である。頸部に断面が三角形の突帯を1条貼り付ける。2は口縁部から体部半ばまで残存する。口縁部は内湾し、頸部は「く」字形である。頸部内面は、ナデにより浅く凹む。3は高坏で、坏部が残存する。口縁部は外方へ垂下し、内面は突出する。

石製品 16は赤色泥岩製の石包丁で、刃部を再度、研いだ痕跡が認められる。17は細粒砂岩製の砥石で、砥面は4面で、1面は有溝が認められる。18は頁岩製の柱状片刃石斧で、刃部を欠損する。

SX62 (第65図 表5)

調査区A6で検出した。調査当初は、S62 (円形プラン)、その周囲にS68 (方形プラン)を検出、S62を先に掘削を進めていたが、S68へ入り込む堆積状況を確認したため、再検出および堆積状況を確認した結果、両遺構が同一であると確認した。堆積状況から、地層横転と考えられる。

出土遺物

石製品 22は頁岩製の磨製片刃石斧で、重量がある。24・25は砥石である。24は天草石製で残存が良好ではないが、砥面は3面認められる。25は天草石製で方形で、砥面は3面認められる。26は凝灰岩製の砥石である。27は凝灰岩製の砥石と考えられ、一面に「U」字形に擦り減った凹みが認められる。

鉄製品 31は鏃である。全長11.1cm、幅2.1cm、重さは60.2gを測る。切先を欠損する。

SX78 (第64・65図 表5)

調査区N27で検出、南側および西側の調査区外へ延びる。土層観察の結果、4層に分層が可能で、3層に黒色土が帯状に堆積していた。また、第65図29を確認したため、調査区南北方向にあわせてトレンチを設定し、堆積状況を確認したが、出土遺物はみられなかった。土質は、1層を除いて粘性が高い。限られていた調査範囲であるが南西方向への傾斜を確認、堆積した層と考えられる。出土遺物は弥生土器片、石製品、糸切の土師器皿片が出土したが、土器類は図示可能ではなかった。

出土遺物

石製品 28はサヌカイト製、29はメノウ製の剥片である。

SX122 (第65図 表5)

重機で耕作土を掘削後、主に調査区H18・19、I19・20で検出、地山の凹みに堆積した土である。遺物を包含していたため、包含層として扱う。

出土遺物

弥生土器 11は口縁部から頸部まで残存する弥生土器の甕である。口縁部外面の下および内面に、断面が三角形突帯を1条貼り付ける。12は底部が残存する弥生土器の甕である。外底の中心は、円形に削り込みが施される。13は底部から胴部下半が残存する弥生土器の甕である。底部は若干の平底が認められる。

陶器 14は口縁部から胴部上半が残存する陶器のすり鉢である。口縁部外面は、断面が3段に施される15は口縁部から胴部上半が残存する陶器の甕である。胴部内面に同心円文当て具痕が認められる。

石製品 30は凝灰岩製の石包丁である。

SX124 (第64図 表5 図版18)

調査区I20で検出、東西方向の路線幅及び一部南北方向へ延びる。また、西側は溜枿の削平の影響を受ける。東西方向堆積状況は上層が茶褐色粘質土、下層が灰色粘質土で、円形や楕円形を繋いだ瓢箪形の土坑を確認した。長軸は0.80～1.30m、幅0.30～0.50mである。土坑は連続し、東西方向は里道に並行する。また、全体的に深度が深く、道から0.20m落込み、断面は凹状である。一方、南北方向で確認した土坑は、東西方向で確認したものと形態や堆積状況に変化は見られない。深度は浅く、幅約0.30mと小さく、使用頻度が少なかったと考えられる。これらから、本遺構は牛馬歩行跡と考えられる。出土した遺物は近世期の磁器片等で、図示可能ではなかった。

その他の遺構 (第65図 表5)

図示可能な遺物を報告する。

弥生土器 9・10はS55から出土した。9は口縁部を欠損する蓋で、頂部は僅かに凹む。10は壺胴部で、胴部最大径の復元径は約20cmを測る。胴部中位に断面が三角形の突帯を2条貼り付ける。

石製品 19・20はS55から出土した。19は片岩製、20は砂岩製の砥石で、砥面は2面認められる。

鉄製品 32・33はS116から出土する。32は断面が楕円形を呈する茎である。33の断面は菱形である。34は断面の形状から刀子と考えられ、S137から出土する。

陶器 8はS53から出土した播鉢で、口縁部から体部まで残存する。口唇部は胎土目痕が残る。

第IV章 自然科学分析

第1節 上の原遺跡群5次調査で出土した赤色顔料について

九州国立博物館 志賀智史

1 はじめに

福岡県田川市にある上の原遺跡群5次調査で出土した赤色顔料について分析調査を行った。

考古学においては、墳墓内や墳墓出土土器、特殊な形態の土器等に赤彩が施されることが多いため、赤色は祭祀や儀礼と密接に関わる色と考えられている。この赤色は、赤色鉱物の粉末によるもので、考古資料としては赤色顔料と呼ばれる。古墳時代以前の赤色顔料は、これまでの調査によって水銀を主成分とする朱（化学組成はHgS、鉱物名称は辰砂（Cinnabar））と、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラ（化学組成は α -Fe₂O₃、鉱物名は赤鉄鉱（Hematite）等）の二種類が知られている。

2 調査資料

調査資料は石蓋土壇墓ST175から出土した赤色物である。棺内床面東部（頭部）、棺内床面西部（脚部）、石蓋上面の計3か所に認められたもので、いずれも赤色顔料である可能性が高いものとして取り上げられていた。遺構の時期は、弥生時代後期頃と考えられている。

3 調査方法

採取資料から土壌を含め20g前後ずつ提供を受け、分析調査を行った。

赤色顔料か否かを判断するために、実体顕微鏡観察、生物顕微鏡観察、蛍光X線分析を行った。より詳細な調査として、X線回折を行った。

（1）顕微鏡観察

顕微鏡観察は赤色物の有無、付着状況、二種類の赤色顔料や遺跡土壌の混在状況、粒子形態、有機物の有無等を知るために行った。調査前に資料を自然乾燥させた。

実体顕微鏡（7-100倍）では、白色光に近い光で資料を直接観察した。赤色顔料が塊状に遺存する場合、朱はショッキングピンク色～オレンジ色に、ベンガラは暗赤色等に見える。

生物顕微鏡（50-1000倍）では、サンプリングして合成樹脂オイキットを用いてプレパラートに封入した資料を、側射光及び透過光を用いて観察した。側射光では朱はルビー色の樹脂状光沢を持つ透き通った粒子に、ベンガラは暗赤色等の微粒子で、直径約1 μ mのパイプ状、螺旋状、不定形等の粒子が観察される。

（2）蛍光X線分析（XRF）

主成分元素を知るために行った。朱はHg（水銀）が、ベンガラはFe（鉄）が検出される。測定は、資料調整を行わずに行ったため、土壌や土器に含まれるFeも検出されている可能性がある。測定には、据置型のHORIBA XGT-5200（Rh,50kv,100s, SDD,測定径約100 μ m,検出器付近真空,検出元素Na-U）を用いた。

（3）X線回折（XRD）

結晶構造を知るために行った。朱は辰砂（Cinnabar,HgS）が、ベンガラは赤鉄鉱（Hematite, α -Fe₂O₃）他が同定される。測定は、資料調整を行わずに行ったため、土壌に含まれる鉱物も検出されている可能性がある。測定機器は、RIGAKU RINT Ultima III（Cu,40kV,40mA,平行法）を用いた。

4 調査結果のまとめと考察

調査結果を分析表1に示す。特徴的な写真とスペクトルを第1図に示す。

（1）赤色顔料の種類

3点の赤色物のうち資料1と2は、実体顕微鏡観察で遺跡土壌よりも明確に赤く（第1図1,3）、明らかに赤色顔料と判断できるものであった。赤色顔料の種類は、2点ともベンガラであった。この

分析表1 上の原遺跡群5次調査出土の赤色顔料分析結果一覧

No	遺構名	取上番号	各結果			赤色顔料の種類	観察所見、備考
			生物顕微鏡	蛍光X線分析	X線回折		
1	ST175	赤色顔料1(東側集中部)	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	ベンガラ小塊あり(最大径約2mm)。
2	ST175	赤色顔料2(西側集中部)	ベンガラ(P)	Fe	—	ベンガラ(P)	ベンガラ小塊なし。
3	ST175	赤色顔料3(棺外)	なし	Fe	—	なし	赤土。赤色顔料とは考えられない。 粒子は不定形。

うち資料1のX線回折では(第1図8)、ベンガラを構成する主要鉱物である赤鉄鉱(Hematite)を同定した。一緒に同定した石英(Quartz)は土壌由来と考えた。

資料3は実体顕微鏡観察で薄褐色を中心とし、所々にやや赤色部が見られるが、全体としてはいわゆる赤土と考えられ赤色顔料ではないと判断した。ただし、赤土を石室の被覆土等として意図的に用いているような古墳も認められることから、赤土選択の背景に赤色顔料と同じ意味合いがあった可能性もあったかもしれない。

(2) ベンガラの細分

今回検出したベンガラには、直径約1 μ mのパイプ状粒子が含まれていた(第1図5,6。以下ではこの粒子を含むベンガラを「ベンガラ(P)」とする。)。このパイプ状粒子は、湖沼等に棲む鉄細菌Leptothrixに由来するものと考えられており(岡田1997)、湖沼等からこれを含む黄褐色の沈殿物を採取、焼成、赤化したものがベンガラとして採用されたと想定される。日本列島では、ベンガラ(P)の採用が一般的で、縄文時代草創期から認められる。

一方、時期や地域によっては、不定形粒子だけで構成されるベンガラ(以下「ベンガラ(不定形)」)が採用されることがある。このベンガラ(不定形)は、鉄鉱石鉱山から採掘された鉄鉱石(褐鉄鉱、赤鉄鉱、磁赤鉄鉱、磁鉄鉱等)が原料となったと推定され、これをそのまま、もしくは焼成、赤化したものと想定される。

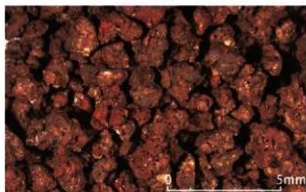
両ベンガラの地域ごとの採用状況と時間的変遷については、現在調査を進めている。田川市内では、弥生時代終末期～古墳時代中期の墳墓5基での調査の結果、古墳時代前期の位登古墳のみでベンガラ(P)が採用されており、その他はベンガラ(不定形)が採用されていた(志賀2021)。今回の調査結果を含めると、古墳時代前期以前には、ベンガラ(P)かベンガラ(不定形)のどちらかを採用する墳墓が混在すると思われる。熊本県での調査事例でも、古墳時代前期前半以前や後期後半以降にベンガラ(P)が採用されており(志賀2020)、類似した状況がうかがえる。

なお、九州北半の古墳時代中期を中心にベンガラ(不定形)が採用される背景には、その素材を産出する鉄鉱石鉱山の存在と、そこからの採掘、生産、流通が想定し易い。候補となる鉱山については、以前から指摘されている阿蘇の褐鉄鉱床が有力視されるであろう。

(3) 赤色顔料の遺存状態と遺構内分布

弥生時代から古墳時代の墳墓主体部では、埋葬施設にベンガラ、遺骸の頭胸部を中心に朱が施されることが一般的と考えられている(本田1988・1995)。

上の原遺跡例については、朱が認められず、ベンガラ(P)のみが認められた。棺内床面に2か所の赤色顔料集中部が見つかり、頭位が推定されている濃い赤色の東部集中部(資料1)には、最大径約2mmのベンガラ小塊(粉にされる前のベンガラの塊)が多数含まれていた(第1図1、2)。このようなベンガラ小塊は、墳墓出土品では一般的である。一方、脚部が推定されている薄い赤色の西部集中部(資料2)には、ベンガラ小塊が認められず、遺跡土壌とベンガラが混じった状態であった(第1図3、4)。これらの状況から、本遺構では朱が省略されていたか、ベンガラ(P)が朱の代用として遺骸頭部を中心に散布されていたかのどちらかの可能性が考えられる。



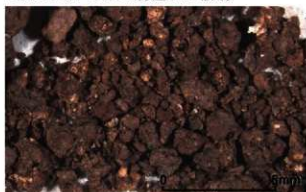
1.資料1の赤色顔料(60倍)

床面東側集中中部。ベンガラのみであった。素材の形状を残す最大径2mmのベンガラ小塊が見られた。このような完全に粉にされていないベンガラは、墳墓では一般的。



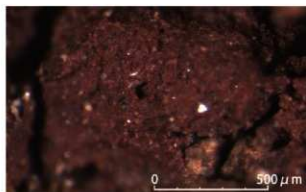
2.資料1のベンガラ小塊(60倍)

ベンガラ小塊の中には扁平なものが特徴的に見られた。ベンガラの種類は、ベンガラ(P)であった。



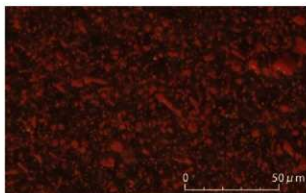
3.資料2の赤色顔料(60倍)

床面西側集中中部。土壌が薄すらい。ベンガラであった。



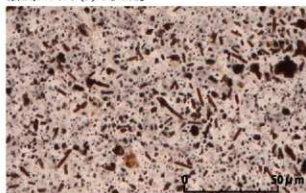
4.資料2のベンガラ(60倍)

赤色部分を拡大しても資料1のようなベンガラ小塊は確認できず、ベンガラが土壌に混じった状態であった。ベンガラの種類は、ベンガラ(P)であった。

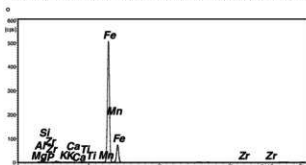


5.資料1のベンガラ(側射光500倍)

鉄細菌を起源とする直径約1 μmのパイプ状粒子を確認した

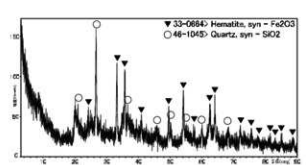


6.同左(透過光500倍)



7.資料1の蛍光X線スペクトル図

赤色顔料由来の元素として、鉄(Fe)を検出。



8.資料1のX線回折図

ベンガラ由来の鉱物として、赤鉄鉱(Hematite)を同定。

第1図 赤色顔料の調査結果

【謝辞】

本研究は、九州国立博物館が田川市教育委員会から依頼を受けた受託研究として行われました。研究を進めるにあたり、田川市教育委員会ならびに同所属の江上正高氏には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。また、本研究には、科研費21K00967基盤研究(C)「九州の古墳出土ベンガラの流通に関する実証的研究」の研究成果を含みます。

【引用・参考文献】

岡田文男 1997「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集』

日本文化財科学会

志賀智史 2020「熊本県の弥生時代～古墳時代の墳墓出土ベンガラの分類と変遷」『遺跡学研究の地平』吉留秀敏氏追悼論文集刊行会

志賀智史 2021「猫追1号墳及び周辺遺跡から出土した赤色顔料について」『田川市内埋蔵文化財調査・確認・発掘調査報告書(2)』田川市教育委員会

本田光子 1988「弥生時代の墳墓出土赤色顔料―北九州地方にみられる使用と変遷―」『九州考古学』62,九州考古学会

本田光子 1995「古墳時代の赤色顔料」『考古学と自然科学』第31・32号(合併号),日本文化財科学会

第2節 上の原遺跡群5次自然科学分析業務報告

株式会社 古環境研究所

1 自然科学分析の概要

今回の分析調査では、田川市轄に所在する上の原遺跡群5次調査の弥生時代後期頃および古墳時代前期後半頃の堅穴住居跡から出土した炭化材と炭化種実を同定し、当時の植物利用について検討する。

なお、炭化種実とは田川市教育委員会がフローテーションを実施し、確認した炭化種実である。

2 樹種同定

(1) 試料

試料は、SI10・15・45・70・80・95・100・140、SK145から出土した炭化材9試料である。

(2) 分析方法

炭化材の同定は、以下の方法で行った。まず、炭化材を自然乾燥させた後、横断面(木口)・放射断面(柾目)・接線断面(板目)の3断面の断面図を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(3) 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹9分類群(コナラ属アカガシ亜属、クリ、シャシヤンボ、イボタノキ属、クスノキ科、ブナ科、ツツジ属、ムクロジ、サカキ)に同定された。なお、SI10には複数片の2分類群、SI80には2種類の炭化材が認められた。一方、SI70は炭質物であり、植物組織が観察できる炭化物が全く認められなかったため、由来等は不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科

放射孔材。道管は単独で放射方向に配列する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものとの複合放射組織とがある。

- ・クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科クリ属

環孔材。大型の道管が配列する孔圏部は3～4列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち、小径の道管が多数集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

- ・シャシヤンボ *Vaccinium bracteatum* Thunb. ツツジ科スノキ属

散孔材。道管はほぼ単独で年輪界に一樣に散在する。道管の穿孔板は単穿孔板および階段穿孔板となる。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列で8細胞高前後のものとの5～7細胞幅、30～60細胞高のものがある。放射組織には鞘細胞が認められる。

- ・イボタノキ属 *Ligustrum* モクセイ科

散孔材。道管は単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。

- ・クスノキ科 *Lauraceae*

散孔材。道管は単独または2個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。

- ・ブナ科 *Fagaceae*

節部分の破片で年輪界は含まれていないため、道管配列は不明。小型の道管が単独で散在する。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。道管径が小さいことから、環孔材のクリ、クヌギ節、コナラ節、環孔性放射孔材のシ属のいずれかと考えられる。

- ・ツツジ属 *Rhododendron* ツツジ科

散孔材。小径の道管が散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は階段穿孔板、壁孔は対列～階段状となる。道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～3列、1～30細胞高。

- ・ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科ムクロジ属

環孔材。孔圏部は1～3列、孔圏外でやや急激に道管径を減じたのち、塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状となる。小雨計の道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

- ・サカキ *Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.

サカキ科サカキ属散孔材。小径の道管が単独または2～3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管の穿孔板は階段穿孔板、壁孔は対列～階段状となる。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

分析表2 樹種同定結果

番号	遺構	位置	層位	時期	形状	樹種
S10	S110	炉跡直上	13層	古墳時代前期後半頃	ミカン割状	シャシヤンボ
					ミカン割状	クリ
S15	S115	南側ベット状床面	7層	古墳時代前期後半頃	柘目状	イボタノキ属
S45	S145	床面直上	4層	弥生時代中期前半頃	柘目状	コナラ属アカガシ属
S70	S170	屋内土坑	2層	弥生時代中期後半頃	—	炭質物
S80	S180	床面		古墳時代前期後半頃	破片	コナラ属アカガシ属
					分割状	ツツジ属
S95	S195	床面		古墳時代前期後半頃	破片	サカキ
S100	S1100	床面			破片	クスノキ科
S140	S1140	炉跡		古墳時代前期後半頃	破片	ムクロジ
S145	SK145		7層	古代	節破片	ブナ科

(4) 考察

試料のうち、炭質物であったSI70を除く8試料には、合計9種類が認められた。各種類の材質をみると、アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林(照葉樹林)の主要な構成種となる常緑高木である。木材は重硬で強度が高い。クリは、二次林等に生育する落葉高木である。木材は重硬で強度と耐朽性が高い。シャシャンボは、山地・丘陵地等に生育する常緑小高木である。イボタノキ属は、山地・丘陵地に生育する落葉または常緑の低木～小高木である。シャシャンボ・イボタノキ属は、木材は比較的重硬な部類に入る。

時期別・遺構別にみると、弥生時代中期前半頃とされるSI45の炭化材は、床面直上から出土している。炭化材は柎目板状の破片であるが、元の形状・木取りは不明である。アカガシ亜属に同定され、暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木であり、木材は重硬で強度が高い。また、同じく弥生時代中期後半頃とされるSI70の炭化物は屋内土坑の炭化物集層から採取されている。微細な炭化粒子が固結した状態の炭質物である。炭化していることから、何らかの有機物に由来し、火を受けたことが推定される。クスノキ科には多くの種類が含まれる。常緑広葉樹が多いが、落葉広葉樹も含まれる。高木から低木まで含まれており、材質もやや重硬なもののから軽軟なものまで幅広い。ブナ科は、組織の特徴からクヌギ節、コナラ節、クリ、シイ属のいずれかの節部分と考えられる。シイ属はアカガシ亜属と共に暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種となる常緑高木、クヌギ節、コナラ節、クリは二次林等に生育する落葉高木である。木材は、いずれも重硬で強度が高い部類に入る。ツツジ属は、山地・丘陵地に生育する常緑あるいは落葉低木～高木である。木材は比較的重硬・緻密な部類に入る。ムクロジは、山地等に生育する落葉高木であり、木材は比較的重硬な部類に入る。サカキは、暖温帯性常緑広葉樹林内に生育する常緑小高木であり、木材は重硬・緻密で強度が高い。

古墳時代前期後半頃とされるSI10の炭化材は、炉跡直上から出土している。炭化材は複数片の破片があり、クリとシャシャンボが認められたことから、少なくとも2種類が混在して利用されたと推定される。同じく古墳時代前期後半頃とされるSI15の炭化材は、南側ベット状床面から出土している。柎目板状を呈するが、小片であり、元の形状と木取りは不明である。イボタノキ属に同定され、小径木の利用が推定される。SI80では少なくとも2種類が利用されたことが推定される。また、SI140の試料は炉跡からの出土であり、燃料材の可能性もあるが、他の遺構と同様に強度の高い木材が利用されている。

これらの種類は、現植生を考慮すれば、周辺に生育し、入手可能であったと考えられる。遺跡全体で9種類が確認されたことになる。点数に対して種類数が多く、木材利用の背景となる周辺の古植生を考える上で興味深い結果といえる。

【引用文献】

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,444p.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊

3 種実同定

(1) 試料

試料は、SI5東側、SK22の4層と5層、SK42の7層から出土した炭化種実4試料である。

(2) 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

分析表3 種実同定結果

分類群		部位	SK5	SK22		SK42	備考
学名	和名		東側	4層	5層		
Arbor	樹木						
<i>Aphananthe aspera</i> Planch.	ムクノキ	炭化核	1				変形
<i>Rhus</i>	ウルシ属	炭化種子			5		
Herb	草本						
<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	炭化果実				2	未成熟
<i>Gramineae</i>	イネ科	炭化果実				1	
<i>Vigna</i>	ササゲ属	炭化種子		8			未成熟
		炭化子葉破片		7			
<i>Glycin</i>	ダイズ属	炭化子葉		1			未成熟
Unknown	不明	炭化種実			13		
		炭化種実破片			10		
Total		合計	1	16	28	3	

(3) 結果

1) 分類群

樹木2、草本4の計6分類群が同定された。学名、和名および粒数を表2に示し、主要な分類群の写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

[木本]

- ・ムクノキ *Aphananthe aspera* Planch. 炭化核(内果皮) ニレ科

黒色で広倒卵形を呈し、一側面は狭倒卵形で厚く、他方は稜になって薄い。果実は食用となる。

- ・ウルシ属 *Rhus* 炭化種子 ウルシ科

黒色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様があり、断面は扁平である。炭化して劣化し変形しているため詳細な種の同定まで至らないが、ヤマハゼに似る。

[草本]

- ・イネ *Oryza sativa* L. 炭化果実 イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。未成熟の果実であり小さい。

- ・イネ科 *Gramineae* 果実

炭化した果実で、長楕円形を呈し、イネ(コメ)、ムギ類、雑穀類の栽培植物とは異なる。

- ・ササゲ属 *Vigna* 炭化種子・子葉(破片) マメ科

黒色で楕円形を呈し小型である。へそは縦に細長が保存が悪い。やや小型で、保存が悪く、細分類は難しいがアズキの仲間とされるササゲ属より小型であるため未成熟である可能性がある。破片はへそが脱落している。

- ・ダイズ属 *Glycin* 炭化子葉 マメ科

黒色で扁平で楕円体を呈する。種皮のとれた子葉である。へそが欠ける。小型のため未成熟も

しくは野生であるが細分はできない。

・不明種実 Unknown (完形・破片)

炭化しており黒色で変形し楕円形や円形を呈する種実である。種実であるが表面が欠落し模様等は確認できない。

2) 種実群集の特徴

SK5 東側 樹木のムクノキ炭化核が同定された。

SK22 4層 ササゲ属炭化種子8、子葉破片7、ダイズ属炭化子葉1が同定された。

5層 ウルシ属炭化種子5、不明炭化種実13、破片10が同定された。

SK42 7層 イネ炭化果実(炭化米)2、イネ科炭化果実1が同定された。

(4) 所見と考察

上の原遺跡群5次調査で出土した種実はいずれも炭化していた。木本のムクノキ、ウルシ属の種実、草本のイネ、イネ科、ササゲ属、ダイズ属が同定された。いずれも利用されたかまたは未成熟なものが燃やされ炭化したと考えられる。SK5東側で出土した種実はムクノキの炭化核であり、果実は食用となる。SK22の4層の種実は、ササゲ属、ダイズ属の炭化した種子または種皮の欠落した子葉であり、いずれも小さく未成熟であることから、選別され投棄された後に燃やされたと推定される。同5層からはウルシ属炭化種子と不明炭化種実が検出された。ウルシ属は、ヤマハゼの可能性があり利用され投棄されたと推定される。不明炭化種実も同様の可能性がある。SK42の7層ではイネ炭化果実(炭化米)が同定されたが、いずれも未成熟であることから、投棄され焼かれた可能性がある。

ムクノキは落葉樹で温帯下部の暖温帯の谷あいなどの適潤地に普通に生育する高木である。ウルシ属は温帯に広く分布する常緑または落葉の低木～高木または藤本であるが、ウルシは樹液が漆として利用され、ヤマハゼは和紙の原料にもなる。イネ、ササゲ属、ダイズ属は食用になり、イネは栽培植物であるが、ササゲ属とダイズ属は栽培植物と野生とがある。

【参考文献】

笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.

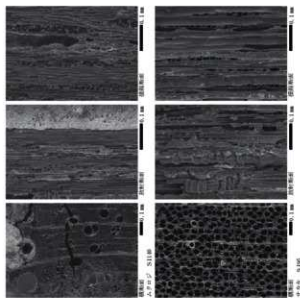
笠原安夫(1988)作物および田畑雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p.131-139.

佐藤敏也(1988)弥生のイネ. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣出版株式会社, p.97-111.

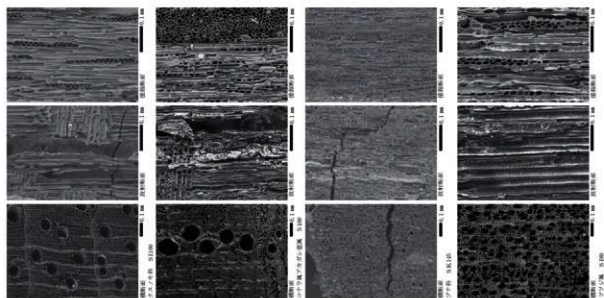
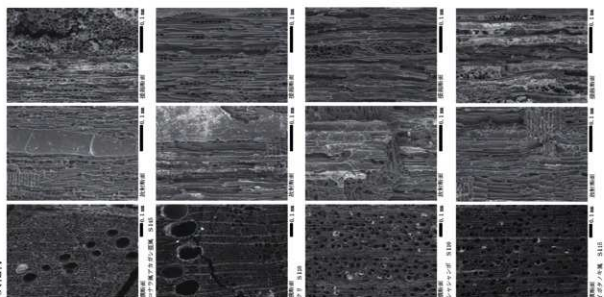
南木睦彦(1991)栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通1, 雄山閣出版株式会社, p.165-174.

南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.

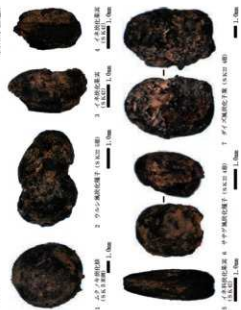
分析図版 1 炭化物、種子図版



炭化材



種実



第V章 まとめ

第1節 遺構と時期について

今次の調査で得た成果は、弥生時代・古墳時代の掘立柱建物跡・竪穴建物跡・溝跡・土坑跡・墓跡・柱穴跡、古代の溝跡・土坑跡、近世・近代の溝跡・性格不明遺構等である。遺構ごとにまとめる。

(1) 掘立柱建物跡 (SB)

確認した11基のうち桁行×梁間と基数は、1間×1間が2基、1間×2間が1基、2間×1間が5基、3間×2間が1基である。SB10・11は調査区外へ延びるため桁行×梁間は不明である。軸を合わせるとⅢ分類ができ、Ⅰ類がSB3・5・8、Ⅱ類がSB4・6・9、Ⅲ類がSB1・2である。掘立柱建物跡から出土した遺物は限られるため、遺構の新旧関係から時期を判断した。新旧関係が掴めるのはSB3・4・8・9の4基である。SB3はSI20より新しいため、古墳時代前期後半頃と考えられる。SB6はSI10より後出で、SI70より新しく古墳時代前期後半頃と考えられる。SB8はSI115と新旧関係より弥生時代後期前半頃となる。SB9はST155より古い。SB10は北東方向へ二段のスロープの掘方で、規模は長軸約2.00～2.30m、最大深度0.68mを測り、大形の掘立柱建物跡が想定される。

(2) 竪穴建物跡 (SI)

竪穴建物跡の平面形は円形・長方形・隅丸方形の3種類に分かれ、主柱穴跡は円形が多主柱穴跡、長方形が2本・無柱、隅丸方形が2・4本である。

円形はSI35・65・115の3基で、SI115は擾乱の影響を受けているため平面形は楕円形に近い。このうちSI65・115は、中央土坑の左右に柱穴跡と多主柱の松菊里類型住居である。SI35も同様の構造と考えられる。時期は、SI35が弥生時代前期末から中期初頭、SI65が中期前半、SI115が中期中頃である。

長方形はSI70・150で、主柱穴は2本柱である。SI70は小形で、中央土坑の左右に小穴を備える松菊里型住居である。時期はSI170が弥生時代中期後半頃、SI150が古墳時代前期後半頃である。

隅丸方形はSI10・15・20・140で、主柱穴は2・4本柱となる。本次では東西の両辺に、ベツ状遺構と中央に炉跡を備える。時期は古墳時代前期後半頃である。同じく隅丸方形のSI25・40・50・80・95・100・160・170は調査区外へ遺構が延びる、もしくは削平の影響を受ける。このため、内部の構造は不明な点が多い。遺構の新旧関係または出土遺物より、SI40・45は弥生時代中期前半、70・115は弥生時代中期後半頃、SI80・95は古墳時代前期後半頃である。

また、SI10・65・70は重複し、新旧関係と平面形は(旧) SI65 (円形) → 70 (長方形) → 10 (方形) (新)の変遷は辿れることができ、今後、調査事例を重ねて検討を深めたい。

(3) 墓跡 (ST)

墓跡は土壇墓3基 (ST36・37・155)、石蓋土壇墓1基 (ST175)、甕棺墓3基 (小形2基 (ST75・180・185)、石蓋1基 (ST180) と未埋葬と考えられる1基 (ST195) の8基を確認した。

土壇墓ST36・37は、掘方と主体部が隅丸長方形の二段である。新旧関係はST37が新しく、規模もST37がST36より一回り大きく、深度も深い。配置は「L」状に配する。ST37の北西側に接してST75が位置する。ST75は須玖式の合口の小形棺であるが、ST37との新旧関係はST75が新しい。ST36・37出土遺物は、掘方埋土から弥生時代中期前半頃の土器が出土しており、新旧関係は(旧) ST36→ST37→ST75 (新) となる。土壇墓ST155は掘方・墓壇共に深度が深い。掘方は楕円形に近い隅丸長方形である。掘方床面と墓壇上端はテラスを設けるが、北側の幅が南側に比べ広く、作業場を確保している。墓壇は長方形で、上端の周囲に約5cmの段を設ける。墓壇の堆積状況からは検出できなかったが、木蓋を想定している。地山削り出しの枕を東位に設ける。埋葬施設は、丁寧な造りである。削り出し枕は福智町伊方石丸遺跡で類例が見られ、弥生時代中期後半頃と考えられる。

SI140下で確認した墓は3基になる。まず石蓋土壇墓ST175は、蓋材に片岩4枚を並べる。土壇墓の内法の壁面と床面の堆積状況は凹状を呈していたことと、赤色顔料を床面から浮いた状況で確認したことから、棺を用いたことが想定される。ST180は小形の甕棺で、花崗岩で蓋をした後、白色粘土の目張りを施す。ST185はSI140東側壁面構築の削平の影響を受けている。遺構は弥生時代中期後半頃と考え

られる。

これまで本遺跡群での墓跡は4次SK1土壌墓のみであったが、今次の調査で遺跡群の南西側と台地の縁辺2ヶ所に集中することが明らかとなった。また、ST155・175・180・185の集中する区域から、本遺跡群西側が墓域として利用したと考える。

(4) 溝跡(SD)

① 溝跡

SD13は調査区西側へ延びるため全容は不明であるが、平面は逆「L」字形に近く検出した。残存状況は良好で上場は最大幅3.10m、下場は最大幅0.54m、深度は1.77mを測り、断面は逆台形を呈する。堆積状況は自然堆積を示す。調査区西側の展開が想定される。遺物は中層から糸切土師器小片や丸瓦片、上層から須恵器が出土するが限られる。何れも埋没過程から出土した遺物であるため、今後の調査にも拠るが、旧豊前国では糸切土師器の出現が10世紀頃からと考えられており、古代期の溝跡と捉えられる。

② 方形区画溝跡

SD90は東西方向と南北方向で検出、両者とも直線を意識して構築される。南北方向の北側で隅丸の角部分を確認でき、東方向へ直線に延びると考えられる。残存状況は南北が東西より良好である。検出した長さは南北が約31m、東西は約25m、幅3.0～3.40m、深度約0.45～0.80mを測り、断面は逆台形を呈する。これらを基に復元すると、東西と南北の1辺の推定長は約42m以上を測り、平面形は若干傾いた方形区画が想定される。出土遺物は古墳時代前期と幅と広いが、後半頃に集中する。

③ 布掘溝跡

SD86・87・99・110・134は上場は幅0.20～0.40m、深度10～25cmを測り、埋土もそれぞれ類似し、底面は小穴(柱穴)が部分的に認められる。いずれも直線を意識して構築されているが、このうちSD87とSD110は角部を確認できた。SD87の角部は、南西へ100°と鈍角に広がる。SD110は南北16.0mを測り、西側へ直角に近く曲がり調査区外へ延びる。SD110の北側はSD99が並行、SP109が角部に位置し、南東側へ7°の角度で延びる。一方、南側はSP108で95°の角度で西側へ延びる。SD87・110の平面形は、平行四辺形に近い形態が想定される。SD134はSD90に並行して築かれ、付随する溝跡と考えられる。SD90の内部は北西側にSB10、SD134はSD90(南北)の東側に位置する。SB10は南西角を調査したと捉えており、両者の軸の値が近似する点や後述する大分県小部遺跡との類似性から、同時期の遺構と考えられる。

これらの溝跡は構築技法より布掘溝跡と捉えられ、底面の形状から柵列跡が考えられる。出土遺物が限られるため時期の特定は困難であるものの、形態から古墳時代前期に位置付けられよう。

(5) 土坑跡(SK)

本次の土坑跡は廃棄土坑であり、出土した遺物より弥生時代前期末から中期後半まで確認できる。平面形は円・楕円形が12基、隅丸長方形が18基、方形等が4基、細長・不整形が3基に分かれ、円・楕円形が隅丸長方形・方形等の約1/2の基数となる。時期は円形のSK39が弥生時代前期後半に位置付けられる。前期末から中期前半になると基数が増加し、中期後半に減少する。このため、貯蔵形態は弥生時代中期中頃には土坑跡から、掘立柱建物跡へ移行したと捉えられる。また、SK7より出土した丹塗壺や器台等が多く出土した。本遺跡群からは、丹塗の器台形土器が採集されており、本次調査でも追認できた。

また、SK145は上層が隅丸方形の段と、中心部を隅丸方形の土坑を設ける。底面は四隅に小穴を穿つ構造は、他の土坑跡と相違が見られるものの用途は不明である。遺物は1層から土師器埴・甕が出土しており、古代の土坑と考えられる。

(6) 性格不明遺構など

SX124は東西方向の畑道に沿うのと、南北方向へ確認できる。平面形が瓢箪形の形状と灰色粘質土の堆積から、牛馬歩行跡と考えられる。断面は東西方向が幅及び深度があるので、使用頻度が高かったと捉えられる。道とSX124底面との比高差は約0.8mを測り、里道から牛馬を引いたと考えられる。

なお、SX124西側は、上の原台地から麓へ下る道があり、近世より使用されていたと考えられる。

第2節 上の原遺跡群における遺構の時期別変遷 (第66図 表2)

上の原遺跡群はこれまで研究者や住民の認識のもと、把握されていた遺跡であるが、5次にわたる調査^(注)を行ってきた。これまでの調査内容を表2にまとめた。

表2 上の原遺跡群遺構時期別表

調査区	時代	時期	弥生時代					古墳		古代
			前期後半	前期末～中期初頭	中期前半～中葉	中期後半	後期後半～末	前期後半		
形式	敷付日	敷付日	敷付日		遺構		遺構		B C / 敷付日	
			敷付日		遺構		遺構		B C / 敷付日	
1次	敷付日	敷付日	A地点 P1・P2 B地点 P1・P2・P3		SH・2SK6		SC9		B C / 敷付日	
			SK2・4		SK1・7・8・9		SC1		B C / 敷付日	
2次	SK2・4	SK1・7・8・9	SC2		SC4		SC1		B C / 敷付日	
			SK1		SK4		SC1		B C / 敷付日	
3次	SK2	SK1	SK1・8・11・12		SC5		SC5		B C / 敷付日	
			SK1		SC5		SC5		B C / 敷付日	
4次	SK1	SK2・4	SH9・45・65		SH9・70・115		SH2・40・45・50・55		SH9・115・20・80・95・140・150	
			SK1・5・6・11・21・22・28・30・34・38・40・44・47・52・60・67・126・135・141・125・130		SK2・61・125		SK4		SH6・87・90・99・110・134	
5次	SK1・5・6・11・21・22・28・30・34・38・40・44・47・52・60・67・126・135・141・125・130	SK2・61・125	SK76・92		SK75・180・185 982		SK4		SK13 SK145	
			SK76・92		SK75・180・185 982		SK4		SK13 SK145	

凡例：SB：竪立柱建物跡 SC：穴建物跡 SD：溝跡 SK：土坑跡 ST：土壇跡

1次調査は本遺跡群の北側に位置し、限られた調査範囲であったが弥生時代前期末から中期初頭頃の土坑跡を確認した。2次調査は本遺跡群の東側に位置し、市道新設であったため、南北に縦断する調査範囲である。弥生時代前期後半の土坑跡と、中期初頭から後期にわたる堅穴遺構・土坑跡・柱穴跡を確認できた。また、南東に位置する6世紀末～7世紀初頭頃の上の原古墳周溝を確認している。3・4次調査は本遺跡群の中央に位置する。3次調査は弥生時代前期頃や古墳時代前期の堅穴建物跡を確認し、本遺跡群の時期が古墳時代まで下がることを確認した。4次調査は弥生時代の土壇墓や土坑跡等を確認した。5次調査では新たに弥生時代の墓域、古墳時代の方形区画溝や布掘溝跡、古代以降の遺構・遺物を確認、遺跡群の時期が近世・近代まで下がることを確認した。

これまでの調査から、本遺跡群が立地する上の原台地は、筑豊地域特有の石炭産業による鉱害復旧(盛土・土取り等)の影響を受けていない稀な台地である。集落は弥生時代前期末から中期初頭に定住がおこなわれ、中期後半頃に一度途切れ、後期後半と古墳時代前期後半頃に再度、集落が築かれることが読み取れる。

前述したが、3次調査で古墳時代前期の集落跡を確認し、5次調査で集落跡の展開が確認でき、新たに方形区画溝跡、布掘溝跡を確認した。さらに、古代の遺構も確認した。これらについてまとめた。

(1) 古墳時代について

本遺跡群SD90は南北と東西を延ばすと推定約42m以上を測る。内部施設のSD134は幅0.6m測り、小柱穴は櫛列状が考えられる。また、SB10やSI150が構築される。また、SD99等の布掘溝跡の方形区画を確認した。時期幅がみられるが、古墳時代前期後半頃に位置付けられる。

方形区画溝跡の事例では、規模に差異がみられるが、溝断面は「U」または「V」字形や逆台形で、概ね北側に陸橋部を設ける。溝跡で空間を区画し、内部は削平等の影響を受けている事例が多いが、布掘溝跡の櫛列による別空間を意識する目的や祭祀的空間であったと捉えられる。

この中で方形区画溝跡内部を布掘溝跡で区画する事例は、大分県小迫辻原遺跡1・2号方形環濠建物や、長崎県竜王遺跡が挙げられる。小迫辻原遺跡は環濠が3つあるが、方形区画溝跡内部の施設は、1号方形環濠建物が3間×2間以上の総柱建物1棟や堅穴建物跡2棟を南西側に、2号方形環濠建物は総柱建物2棟を西側に建立する。方形環濠建物は、祭祀的な空間と捉えられている。

環濠内に布掘溝跡を備える大分県小迫辻原遺跡は、環濠に突出部を2箇所確認できる。布掘溝跡は東西37m、南北50mの長方形に区画し、大形掘立柱建物跡SB-01が総束柱建物が築かれる。これらは豪族居館と呼ばれる建物として認識されているが、墓との対応は約4km東の駅館川の右岸台地に築かれた

赤塚古墳との関係が捉えられている。これらの遺跡・遺構から出土する遺物は、畿内系や山陰系土器などの遺物が出土することも特徴の一つである。

一方、本遺跡群SD90出土遺物の構成は、在地系土器で日常的な器種のみであり、祭祀用はみられない。区画内部はSB10やSI150、SD134が築かれるものの全容は不明である。SB10は北西側の配置も他の方形区画溝跡と相違が見られるものの掘方は、小部遺跡SB-01と類似する。墓との対応は、南東へ約1.4kmに弥生時代終末～古墳時代前期頃の夫婦塚古墳が築かれる。詳細は不明であるが、列石で区画した内部に箱式石棺が数基築かれる特定個人墓である。また、SD87・99・110の布掘溝跡は、方形区画溝跡の外部に築かれるものの方を意識した配置である。このように、本遺跡群の在り方は、他遺跡と比較すると相違がみられる。

なお、SD87・99・110は現市道に沿った配置が読み取れる。参考として、第5図では本遺跡群が立地する台地に南から上がり、鍵状に右折しながら中央を直線状に北進、寺の上遺跡の台地へ向かう。本遺跡群南側の地形は崖を呈しており、上の原古墳東側の道は現代に新設された道である。土地規制に即した道が、現代まで通じるものと捉えられる。

(2) 古代について

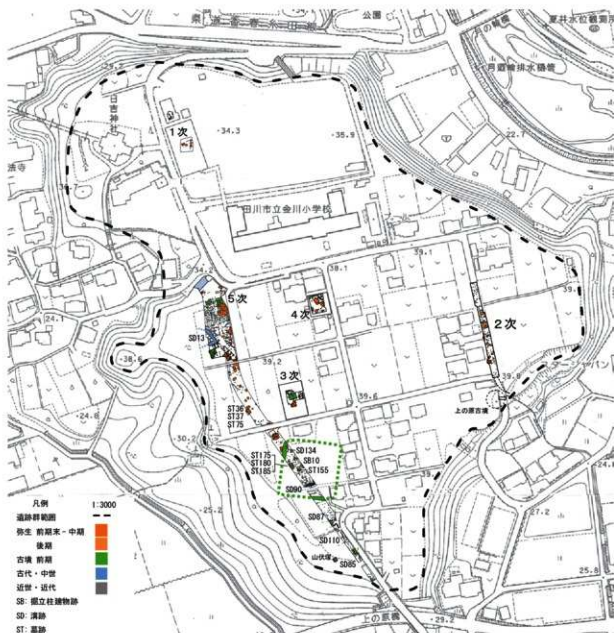
古代の遺構は出土資料に限られるが、SD13とSK145から出土する土師器壺や甕、第27図28・29の土師器壺である。本遺跡群周辺では、南へ約1kmに所在する倉ヶ原遺跡で、田河道に関わる掘立柱建物跡が確認されている。これまで周辺の遺跡で確認できなかったが、今次の調査で確認できたことにより、本遺跡群の丘陵上にも展開する可能性が高いことが想定される。

5次調査の遺構・遺物の展開から、本遺跡群が複合遺跡であることが確認できた。特に古墳時代前期は、貴重な資料となることが窺えた。今後は、上の原遺跡群を含めた「下伊田丘陵上や周囲に展開する遺跡群との関係の調査を進め、全体像の把握に努めたい。

【註】

- (1) 伊藤寿紀・永井幸幸・藤山誠一 1999「松菊里型住居」の受容と展開－日韓の比較から－『愛知県埋蔵文化財センター 年報10』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
坂元雄紀 2006「遠賀川流域以東地域における弥生集落の成立と展開」『弥生集落の成立と展開』第55回埋蔵文化財研究集会
柴尾俊介 2006「松菊里型住居をめぐる」『研究紀要 第20号』財団法人北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室
中間研志 1987「松菊里型住居－我国稲作農耕受容期における堅穴住居の研究－」『東アジアの考古と歴史 中 岡崎敬先生退官記念論集』同朋社
- (2) 牛馬歩行跡は、永見秀徳氏よりご教示を賜った。なお、以下の文献を参考にした。
東和幸 2003「波板状凹凸面牛馬歩行痕跡再論」『研究紀要 縄文の森から 創刊号』鹿児島県埋蔵文化財センター
山村信崇 2020「牛の歩行痕跡に関する調査研究」『遺跡学研究の地平』吉留秀敏氏追悼論文集刊行会
- (3) 田川市教育委員会 2021「『欄・上の原遺跡』田川市文化財調査報告書第7集」
田川市教育委員会 2021「田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書(2)」『田川市文化財調査報告書第18集』
- (4) 方形区画溝跡に関する参考文献は、次のとおりである。
甲斐安寿生 2020「小部遺跡Ⅱ」『市内遺跡発掘調査報告書第12集』宇佐市教育委員会
久住猛雄 2003「北部九州における弥生時代の特定環溝区画と大形建物の展開」『日本考古学協会2003年滋賀大会資料』日本考古学協会2003年滋賀大会実行委員会
佐藤良二郎編 2004「小部遺跡」『宇佐地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』宇佐市教育委員会
秦 憲二 2015「矢留堂ノ前遺跡」『東九州自動車関係埋蔵文化財調査報告書第19集』九州歴史資料館
武末純一 2000「居館」『古墳発生前後の社会像』九州古文化研究会

- 田中裕介編 1999「小迫辻原遺跡1」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書10』大分県教育委員会
- 辻田直人編 2008「龍王遺跡」『雲仙市文化財調査報告書第3集』雲仙市教育委員会
- 渡邊隆行編 2011「史跡小迫辻原遺跡 保存管理計画」日田市教育委員会
- (5) 宇野慎敏 2000「豊前北部・筑豊地域の墳墓について」『古墳発生期前後の社会像』九州古文化研究会
- 高倉洋彰 1973「墳墓からみた弥生時代社会の発展過程」『考古学研究』第20巻第2号 考古学研究会
- (6) 遺跡台帳には、倉ヶ原遺跡として登録している。
- 田川市教育委員会 1992『田川市遺跡等分布地図』
- 田川市教育委員会 1988「下伊田遺跡群」『田川市文化財調査報告書第4集』



第 66 図 上の原遺跡群調査分布図

遺構・遺物觀察表

表3 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	グライット	土質・土色・前後関係・性格	出土遺物
1	SK1	F15	10YR4/1 黒灰色粘質土 長方形土坑 (Ⅱ) SK1 → S2 (新) 南側市道下に入る	弥生土器片、石製品
2		F15	10YR6/2 灰黄褐色粘質土 ホクラン 木堀る	
3		F15	10YR6/2 灰黄褐色粘質土 カクラン 木堀る	
4		B5	7.5YR4/2 灰褐色粘質土 黒色粒が入る 単層 たまり	弥生土器片
5	SK5	B4・5	方形土坑	弥生土器片、石製品
6	SK6	C10	方形土坑 (Ⅱ) SP34・56 → SK6 (新)	土層・紐付口縁部、石製品
7	SK7	A5	方形土坑 調査区外へ延び、半蔵のみ (Ⅱ) SK18・19 → SK7 (新)	弥生土器片、石製品
8	SB1P6	C10	(Ⅱ) SK8 → S30 → S25 (新) SP54へ番号変更、SB1構成柱穴跡	弥生土器片
9		C10	10YR3/1 黒褐色粘質土 粘性高い 長方形 単層	弥生土器片
10	SI10	B5・6	方形竪穴 (Ⅱ) SI70 → SI10 → SP473 (新)	弥生土器片、古式土師器、石製品
11	SK11	B・C・9	長方形土坑	弥生土器片
12		A5	7.5YR4/1 黒灰色粘質土 カクラン 樹木痕	弥生土器片、陶器 (磁鉢片)
13	SD13	A8,B8・9	溝 (Ⅱ) SD13 → SD14 (新)	東縁系磁鉢片・龍泉橋1段、浪忠路器、土師器、丸瓦、弥生土器片、磨製石斧片
14	SD14	A・B8	溝 (Ⅱ) SD13 → SD14 (新) たまり	弥生土器片、土師器片
15	SI15	A6	長方形竪穴	弥生土器片、石製品 (石椁丁、磨製石斧片)
16	SK16	B・C8	7.5YR 4/2 灰褐色粘質土 φ2 ~ 3mm炭化物・褐色粒を含む、粘性が高い (Ⅱ) SK16 → SK16 (新) たまり	弥生土器片、石製品 (磨製石斧片)
17		B・C8	7.5YR6/2 灰褐色粘質土 φ1 ~ 2mmの白・黄色粒をわずかに含む、粘性が高い (Ⅱ) S17 → SK16 (新) 包含層	弥生土器片
18		B・C7,B・C8	7.5YR4/2 灰褐色粘質土 (Ⅱ) S18 → SK7 (新)	弥生土器片
19		A5	7.5YR3/2 黒褐色粘質土	弥生土器片
20	SI20	B10	方形竪穴 4本柱、ベト (Ⅱ) SI20 → SB3P4 (新)	弥生土器片、石製品、古式土師器
21	SK21	B・C8	円形土坑 1層・褐色土 2層・炭化物・焼土含 (Ⅱ) SP20 → SK21 (新)	弥生土器片、石製品
22	SK22	C11・12、D11・12	方形土坑 1層・褐色土	弥生土器片、石製品
23		C11	7.5YR5/1 黒灰色粘質土 単層 たまり (Ⅱ) SK41・P542 → S45 → P526 → S26 → S24 → S23	弥生土器片
24		C11	7.5YR3/2 黒褐色粘質土 単層 地山部目	弥生土器片
25	SI25	B・C10	方形竪穴 (Ⅱ) SB1P6 → SK30 → SI25 (新)	弥生土器片
26		C11	7.5YR5/2 灰褐色粘質土 単層 たまり	弥生土器片
27	SK27	C11	7.5YR3/2 黒褐色粘質土 包含層 (Ⅱ) SK29 → SK28 → SK27 (新) SK28と同一遺構	石製品 (石椁丁)
28	SK28	C11	(Ⅱ) SK29 → SK28 → SK27 (新)	弥生土器片、土器片、鉄製品
29	SK29	C11	(Ⅱ) SK29 → SK28 → SK27 (新)	弥生土器片
30	SK30	C10	長方形土坑 (Ⅱ) SB1P6 → SK30 → SI25 (新)	弥生土器片
31	SK31	D12	隅丸方形	弥生土器片
32	SK32	D12	7.5YR4/1 黒灰色粘質土 φ1 ~ 3mmの炭化物・黄色粒を含む 単層	弥生土器片、石製品
33	SK33	D12	円形土坑	弥生土器片
34	SK34	D・E13	円形土坑 (Ⅱ) SP29 → SK34 (新)	弥生土器片、石製品
35	SI35	C8	円形竪穴 (Ⅱ) SI35 → SK16 (新)	弥生土器片、石製品
36	ST36	D・E14	方形土坑 (Ⅱ) ST37 → ST36 (新) 土壌墓	弥生土器片
37	ST37	D・E14	隅丸方形 (Ⅱ) ST37 → ST36 (新) 土壌墓	弥生土器片
38	SK38	E15	7.5YR2/1 黒褐色粘質土 φ1 ~ 3mmの黄色粒を少量含む 隅丸方形	弥生土器片
39	SK39	E14	円形土坑	弥生土器片、an 製片、赤チャート石核
40	SI40	C10・11	(Ⅱ) SI40 → SK42 (新)	弥生土器片、焼土、石製品
41	SK41	C11	円形土坑 (Ⅱ) SK41 → S23 (新)	弥生土器片、石製品
42	SK42	C10	隅丸方形土坑 (Ⅱ) SI40 → SK42 (新)	弥生土器片
43	SK43	C10	円形土坑	弥生土器片、花崗岩片
44	SK44	C9	円形土坑	弥生土器、石製品
45	SI45	B・C6、B・C7	方形竪穴 (Ⅱ) SI45 → SI50 (新)	弥生土器片、石製品 (石椁丁)
46		C10	焼土 (Ⅱ) SI40 → SK42 → S46 (新)	
47	SK47	C8	細長方形土坑	弥生土器片
48	SK48	C8	7.5YR4/1 黒灰色粘質土 φ2 ~ 3mmの褐色・炭化物を含む 円形土坑 (Ⅱ) SP126 → SK48 → SX16 (新)	弥生土器片
49	SK49	C8	7.5YR4/1 黒灰色粘質土 φ2 ~ 3mmの褐色・炭化物を含む 円形土坑 (Ⅱ) SK48 → SX16 (新) 単層	弥生土器片
50	SI50	B・C6	(Ⅱ) SI45・SK41 → SI50 → S43 (新)	弥生土器片、石製品
51	SK51	C7	(Ⅱ) SP177・SP178 → SK51 → SP148 (新)	弥生土器片
52	SK52	B7	円形土坑	弥生土器片、砂岩片
53		C10・11	(Ⅱ) SP235 → S53 (新) 樹木痕 カクラン	弥生土器片、陶器片
54		A8	(Ⅱ) SP294 → S54 (新) たまり	弥生土器片
55		B7	7.5YR4/1 黒灰色粘質土 隅丸方形 (Ⅱ) SP208 → 221・232・233・251・252・323・339 → S55 単層 たまり	
56		A7	7.5YR5/1 黒灰色粘質土 たまり	弥生土器片

S-番号	遺構 番号	グリット	土質・土色・前後関係・特徴	出土遺物
57		A7	7.5YR5/1 褐色粘質土 たまり	弥生土器片
58		A6・7	7.5YR5/1 褐色粘質土 たまり	弥生土器片
59		A・B6	7.5YR5/1 褐色粘質土 たまり (II) S68 → S59・S502 (新)	弥生土器片
60	SK60	B・C6	褐色方形状 (II) SK60 → S45・SK61 → S150 (新)	弥生土器片
61	SK61	B6	(II) SK61 → S150 (新)	弥生土器片、石製品
62	SK62	A6	不定形 (II) S68 → S502 (新)	弥生土器片、鉄製品 (刀子・土層出土)
63		B・C6	(II) S45 → SK60・SK61・S70 → S150 → SK60 → S63 (新) 包含層	弥生土器片、砥石片
64	SK64	B10	7.5YR4/4 褐色粘質土 φ1～2mmの白色粒子を含む 土坑 (不定形)	ササカイト製瓦片石葺 竪穴前
65	SK65	B・C6	円形竪穴 (II) S45 → SK60 → SK61 → S63 (新)	弥生土器片、花崗岩片、須恵器 (土層)
66		A6	(II) SP447 → S115 → S66 (新) たまり	弥生土器片
67	SK67	E13	此方形状土坑 (II) SP71 → SK67 (新)	弥生土器片
68		A6,B6・7	(II) S68 → S502 (新) 包含層	弥生土器片 (矢筈根状)、砥石
69		B6	7.5YR4/2 灰褐色粘質土 φ1～5mmの白色、黄色、黒色粒子を含む。(II) S45 → S69 → S140 (新) 包含層 S68と同一遺構	弥生土器片、砥石
70	SI70	B6	方形竪穴 (II) S45 → S170 → S110 (新)	弥生土器片
71		E13	四角・堆積 (II) S71 → SK67 (新)	弥生土器片
72	SK72	A4・5,B4	7.5YR3/1 褐色粘質土 φ1～2mmの白色・黄色粒子を含む。粘性が高い 包含層	土師器 (赤切) 皿片
73			穴跡	
74			穴跡	
75	SI75	D14	小形竪穴 (II)	横穴式
76			穴跡	
77		C9 E・D12・I20	地山開れ目 (II) SP546 → S77 (新)	
78	SK78	N27	1: 黄土、2: 黒褐色土、3: 茶褐色土 堆積層 南西方向の傾斜地	弥生土器片、土師器蓋 (赤切) 片、メノウ製刮片
79		J22	カクラン 重機片跡	磁器片、弥生土器片
80	SI80	M25	方形竪穴 粘土床有 (II) SI95 → SI80 (新)	土師器片
81		J22	カクラン 重機片跡	近代陶器片、弥生土器片
82		J22	カクラン 重機片跡	
83		J21・22,K22	カクラン 重機片跡	弥生土器片
84		J21	カクラン 重機片跡	
85	SD85	M25	7.5YR4/1 褐色粘質土 溝跡	弥生土器片、弥生土器片
86	SD86	M25	7.5YR5/1 褐色粘質土 (II) SI95 → SD86 (新) 溝跡	土器片
87	SD87	K22・23	(II) SP615 → SD87 (新) 溝跡 SD87 同一遺構	弥生土器片
88	SD88	K23	7.5YR4/1 褐色粘質土 φ1～2mmの白色・黄色粒子、ブロック状に堆積、粘性高い 溝跡 (II) SK93 → S88	弥生土器片
89	SD89	K23	7.5YR4/2 褐色粘質土 φ1～2mmの白色粒子を含む、粘性高い 溝跡 (II) SP607 → SD89・91 (新)	弥生土器片
90	SD90	J21	溝跡 (区画溝) 東西と南北分けて遺物出土	土師器 (小形丸底碗)、鉄製品、弥生土器片、近世陶磁器片
91	SD91	K23	溝跡 (II) SP607 → SD91 (新)	弥生土器片
92	SD92	K23・L24	10YR4/1 褐色粘質土 溝跡	近代陶器片、漆器片
93		K23	10YR3/1 褐色粘質土 (II) S93 → SD88 (新)	弥生土器片
94		I21	カクラン	
95	SI95	M25	方形竪穴 (II) SI95 → SI80 (新)	弥生土器片
96		K・L24	(II) SP568 → S96 (新) S97と同一包含層	
97		L24	(II) S97 → SD110 (新) S96と同一包含層	弥生土器片、お 割片
98		N24	溝跡 (II) S98 → SX78 (新)	弥生土器片
99	SD99	K23	溝跡 (II) SD99 → SD110 (新)	弥生土器片
100	SI100	J22,K22・23,L24	方形竪穴	弥生土器片
101		K23,L24	カクラン 侵入口	
102		L24	カクラン 重機片跡	
103		I21	7.5YR4/4 褐色粘質土 (II) SP614 → SI93 (新) 落ち	
104		F16	カクラン	高麗青磁器片、陶器片、弥生土器片
105	SK105	K23	土坑	弥生土器片
106		F16	カクラン	陶器 (厚鉢) 片
107		F16	カクラン	弥生土器片
108		L24	7.5YR4/2 灰褐色粘質土 φ1～5mmの褐色ブロック土を含む (II) SD110 → SI98 (新) SD110に付随する柱穴か?	
109		K23	(II) SD110 → SI98 (新) SD110に付随する柱穴か?	
110	SD110	L23・L24	方形溝跡 (II) SD99 → SI18 (新)	弥生土器片、古式土師器、鉄製品
111		F16	カクラン 跡跡	弥生土器片
112		F16・17,G17	カクラン 跡跡	弥生土器片

S-番号	遺構 番号	グロット	土質・土色・前後関係・特徴	出土遺物
113		F15・16、 G16～18	カクラン 竪溝	弥生土器片
114		F16～18	カクラン 竪溝 S21と同一遺構	弥生土器片
115	SI115	F・G16	方形型穴 中央部側 2 基柱穴 (Ⅱ) SI115 → SK144 → S116 (新)	磁石 3 点、藤島産 ob
116		F・G16	カクラン	弥生土器片、陶器片、豆炭
117		G17	カクラン (Ⅱ) SK130 → SD90 (南北) → S137 → S117 → 122 (新)	弥生土器片、奈良家青磁碗 1 個、陶器片 シンバー・ウィスキー皿、富士通 Nozel 乾電池 (昭和 42 ～ 50 年)
118		F16	カクラン	弥生土器片
119		G16	カクラン	弥生土器片
120	SK120	G16	7.5YR3/2 黒褐色粘質土、φ 1 ～ 2 mm の白色砂子を含む 土坑	弥生土器片
121		G16 ～ 18	カクラン 竪溝 S144 と同一遺構	陶器片
122	SX122	調査区	耕作土	弥生土器片、石製品 (石甕丁、耶麻産 ob 剥片)、土師器片、須恵焼片、奈良焼片、白磁碗 IV 類片、陶器片、欠損品
123		G17	耕作土堆積 (Ⅱ) SC170 → S123 (新)	弥生土器片
124	SX124	I20	1 層 7.5YR6/1 褐色粘質土、φ 1 ～ 5 mm の炭化物を少量含む 2 層 7.5YR4/2 灰褐色粘質土 1 層面じむ (Ⅱ) SP617・SP684 → SX124 (新) 牛馬歩行跡	近世磁器片 奈良家煎茶碗、弥生土器片
125	SK125	G17	円形土坑	弥生土器片、石製品、藤島 ob 剥片
126		I20	カクラン 溝跡	現代陶器片、弥生土器片
127		H18 ～ 20	カクラン 竪溝 S142 と同一遺構、S127 として扱う	弥生土器片
128		H17 ～ 19	カクラン 竪溝 (Ⅱ) SK135・SP630 → S128 (新)	
129		G17・H18	カクラン 竪溝 S138 と同一遺構、S138 として扱う	弥生土器片
130	SK130	G17	土坑 (Ⅱ) SK130 → SD90 (南北) → S137 → S117 → 122 (新)	弥生土器片
131		G17・18、H18	カクラン 竪溝	近世磁器片、弥生土器片
132		G18	灰褐色土 たまり	弥生土器片
133		G17	褐色土 (Ⅱ) S133 → S129 (新) たまり	弥生土器片
134	SD134	G14	褐色土 溝跡	弥生土器片
135	SK135	H17	方形土坑 1 層 灰褐色土 (Ⅱ) SK135・SP620 → S128 (新)	鉄製品
136		G18	(Ⅱ) S90 (南北) → S136 (新) たまり	弥生土器片、サメカイト製剥片
137		G17	(Ⅱ) S90 (南北) → S137 (新) カクラン	須恵磁片、弥生土器片、近代磁器片
138		G17・H18	カクラン 竪溝 S129 と同一遺構、S138 として扱う	弥生土器片
139		H18	確認調査坑 T4	近世磁器片
140	SI140	G18、H18・19	方形型穴	弥生土器片
141		F16	(Ⅱ) SI115 → S141 → S116 (新) 溝跡	弥生土器片
142		H18	カクラン 竪溝	弥生土器片
143	SB10P1	H18	円形土坑	弥生土器片
144	SK144	F・G16	土坑 (Ⅱ) SI115 → SK144 (新)	弥生土器片、石製品
145	SK145	G・H18	円形土坑 IV 溝小柱穴跡 7.5YR3/1 黒褐色粘質土	陶、土師器、褐色土器内黒
146		H19	隅丸方形 (Ⅱ) ST155 → S146 → S123 (新) ST155 盗掘坑か	
147 ～ 149 欠番				
150	SI150	H18・19、 I18・19	方形型穴 2 本柱か	弥生土器片、an 剥片、藤島産 ob 石甕、 1 層陶器片
151 ～ 154 欠番				
155	ST155	H19	方形土壇基 粘土層 削出状 (Ⅱ) SK195・SP682 → ST155 → S146 → S123 (新)	弥生土器片
156 ～ 159 欠番				
160	SI160	H19	方形型穴	弥生土器片、耶麻産 ob 剥片
161 ～ 164 欠番				
165	SB10P2	H18	方形土坑	
166 ～ 169 欠番				
170	SI170	G17	方形型穴	
171 ～ 174 欠番				
175	ST175	H18	石甕土壇基 (Ⅱ) ST175 → SI140 (新)	弥生土器片、赤色顔料
176 ～ 179 欠番				
180	ST180	G18	石甕土壇基 花崗岩製石甕 (Ⅱ) ST180 → SI140 (新)	須玖式
181 ～ 184 欠番				
185	ST185	H18	小形棺基 (Ⅱ) ST185 → SI140 (新)	須玖式
186 ～ 189 欠番				
190	ST190	G18	土坑 (Ⅱ) ST190 → SI140 (新)	弥生土器片
191 ～ 194 欠番				

S-番号	遺構番号	グロット	土質・土色・前後関係・特徴	出土遺物
195	SK195	H19	(Ⅲ) SK195 → ST155 (新)	
196 ~ 199	欠番			
200	SK200	G17	土坑 (Ⅲ) SK200 → SI170 (新)	弥生土器片

表4 柱穴跡一覧表

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP1	B・C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	SI25 内 (Ⅲ) SI25 → SP1 (新)
SP2	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP9	C11	10YR4/1 黄褐色粘質土	弥生土器片
SP4	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP5	C12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP6	C12	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP7	E15	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP8	D12	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP9	E15	10YR3/1 黒褐色粘質土	(Ⅲ) SP10 → SP9 (新)
SP10	E15	10YR3/1 黒褐色粘質土	(Ⅲ) SP10 → SP9 (新)
SP11	F15	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP12	F15	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP13	F15	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP14	D14	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP15	C12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP16	C12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP17	D12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP18	D11	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP19	D11	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP20	D11	10YR3/1 黒褐色粘質土	(Ⅲ) SP20 → SK21 (新)
SP21	D11	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP22	E13	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP23	D11	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP24	D12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP25	D12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP26	D12	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP27	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP28	C12	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP29	E13	10YR3/1 黒褐色粘質土	(Ⅲ) SP29 → SK34 (新)
SP30	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB1P3
SP31	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB1P2 (Ⅲ) SP31 → SP38 (新)
SP32	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB1P1
SP33	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB1P7
SP34	C10	SB1P5 (Ⅲ) SP34 → SK6 (新)	
SP35	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP36	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP37	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP38	C9・10	10YR3/1 黒褐色粘質土	(Ⅲ) SP31 → SP38 (新)
SP39	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP40	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SI2P4 (Ⅲ) SP63 → SP40 (新)
SP41	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP42	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP43	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP44	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP45	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB2P1
SP46	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB2P2
SP47	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	SI2
SP48	欠番		
SP49	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB2P3
SP50	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP51	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	SB1
SP52	C9	明跡	

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP53	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP54	B4・5	SB1P6 SK8 より遺構番号変更	
SP55	C9・10	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP55 → SK6 (新)	弥生土器片
SP56	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP56 → SK6 (新)	弥生土器片 (腰底部)
SP57	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (鉢口縁)
SP58	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP59	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP60	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP61	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP61 → SK47 (新)	弥生土器片
SP62	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP63	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP46 → SP63 (新)	弥生土器片
SP64	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP65	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP66	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP67	B9		
SP68	C8	10YR4/1 褐色粘質土	弥生土器片
SP69	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP70	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP71	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP72	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP73	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片、彫角皮 ab 石鏝
SP74	穴番		
SP75	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP76	穴番		
SP77	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片、甕口縁
SP78	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP79	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP80	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP80 → SP81 (新)	弥生土器片
SP81	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP80 → SP81 (新)	弥生土器片
SP82	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP83	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP84	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP85	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP86	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP87	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP88	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP88 → SK47 (新)	弥生土器片
SP89	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP90 → SP89 (新)	弥生土器片
SP90	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP90 → SP89 (新)	弥生土器片
SP91	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP92	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP93	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP98・99 → SK47 (新)	
SP94	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP95	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP96	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP97	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP97 → SX16 (新)	弥生土器片
SP98	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP99	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP99 → SX16 (新)	弥生土器片 (丹波側近部)
SP100	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP100 → SX16 (新)	弥生土器片 (丹波側近部)
SP101	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP101 → SX16 (新)	
SP102	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP103	B・C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP103 → SX16 (新)	
SP104	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP105	B・C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP106	C7・8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP107	C7・8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP108	B・C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) S17 → SP108 (新)	弥生土器片
SP109	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP110	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P4 柱礎有	弥生土器片
SP111	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP112	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P9	

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP113	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP113 → SX16 (新)	弥生土器片
SP114	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP115	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP116	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SD5 → SP116 (新) 凹み	
SP117	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP117 → SX16 (新)	
SP118	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP119	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP120	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP121	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP122	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP123	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP124	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP125	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP126	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP126 → SK48 → SX16 (新)	
SP127	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP128	B5・6	SB6P3 (H) SP128 → S110 (新)	
SP129	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SD5 内	弥生土器片
SP130	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP131	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP132	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) S17 → SP132 (新)	弥生土器片
SP133	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP134	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP134 → S17 (新)	
SP135	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) S17 → SP135 (新)	弥生土器片 (腰口縁、底部)
SP136	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP136 → S17 (新)	弥生土器片 (腰口縁)
SP137	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP137 → S17 (新)	弥生土器片 (丹塗模合口縁部)
SP138	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP138 → S17 (新)	
SP139	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP139 → S17 (新)	弥生土器片
SP140	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP140 → SK51 (新)	弥生土器片
SP141	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP141 → SK51 (新)	弥生土器片
SP142	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP143	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP144	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP145	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP146	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP147	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (高坏脚部)
SP148	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SK51 → SP148 (新)	
SP149	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP150	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁)
SP151	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB7P2	弥生土器片 (三角尖部)
SP152	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP153	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP154	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁、丹塗底部)
SP155	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP156	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP157	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP158	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP159	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁)
SP160	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP161	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP162	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP163	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP164	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP164 → SP165 (新)	
SP165	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP164 → SP165 (新)	弥生土器片
SP166	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP167	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP168	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁、底部)
SP169	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP170	C8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP171	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP172	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP173	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP174	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP175	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP176	B + C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP177	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP177・SP178 → SK31 → SP148 (新)	弥生土器片
SP178	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP179	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP180	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP181	C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP182	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP183	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁)
SP184	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片, 磨製石斧
SP185	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP186	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP187	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (磨製石斧)
SP188	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP189	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP190	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (磨製部)
SP191	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP192	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP193	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP194	B + C7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP195	B 7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP196	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP197	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (磨製部, 丹徒瓦環脚部)
SP198	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP199	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP200	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP201	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP202	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	サメオイト製銅片
SP203	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP204	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (底部)
SP205	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP205 → SP206 (新)	弥生土器片
SP206	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP205 → SP206 (新)	弥生土器片 (底部片)
SP207	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP208	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP208 → S55 (新)	弥生土器片 (磨製部)
SP209	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP209 → S55 (新)	弥生土器片
SP210	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP210 → S55 (新)	弥生土器片
SP211	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP211 → S55 (新)	弥生土器片
SP212	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP212 → S55 (新)	弥生土器片
SP213	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP213 → S55 (新)	弥生土器片
SP214	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP214 → S55 (新)	弥生土器片
SP215	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP215 → S55 (新)	弥生土器片
SP216	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP216 → S55 (新)	弥生土器片
SP217	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP217 → S55 (新)	弥生土器片
SP218	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP218 → S55 (新)	弥生土器片
SP219	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP219 → S55 (新)	
SP220	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP220 → S55 (新)	
SP221	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP221 → S55 (新)	弥生土器片
SP222	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP223	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP224	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP225	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP226	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP227	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP228	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP229	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP230	B7		
SP231	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP232	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅲ) SP232 → S55 (新)	弥生土器片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP233	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP232 → SP235 (新)	弥生土器片 (腰口縁)
SP234	B7		弥生土器片
SP235	A7	(III) SP381 → SP235 (新)	
SP236	A9	10YR4/1 褐灰色粘質土	弥生土器片
SP237	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP238	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP239	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP240	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P1	弥生土器片
SP241	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P2	弥生土器片
SP242	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P3	弥生土器片
SP243	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P6	弥生土器片
SP244	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P5	弥生土器片
SP245	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土 SB3P4 (III) SP20 → SP245 (新)	弥生土器片
SP246	B9	7.5YR3/1 黒褐色粘質土	
SP247	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP248	A9	10YR4/1 褐灰色粘質土	
SP249	B9	10YR4/1 褐灰色粘質土	
SP250	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P10 (III) SP250 → SD14 (新)	
SP251	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P9	
SP252	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P8 (III) SP252 → SP254 (新)	
SP253	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P7	
SP254	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P1	
SP255	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB4P2	
SP256	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP256 → SD14 (新)	弥生土器片
SP257	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP258	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP254 → SP258 (新)	
SP259	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP260	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP261	A8・9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP262	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP263	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP264	A9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP265	A8・9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP266	A8・9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP267	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP268	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP269	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP270	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP271	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP272	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP273	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP274	B8	10YR4/1 褐灰色粘質土 (III) SP251・252 → SP274 (新)	弥生土器片
SP275	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP276	A・B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP277	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP278	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP279	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SD14 → SP179 (新)	
SP280	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP281	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP282	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP283	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP284	A8	10YR4/1 褐灰色粘質土	
SP285	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP286	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP287	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP288	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP289	A8	10YR4/1 褐灰色粘質土 (III) SD14 → SP289 (新)	弥生土器片
SP290	A8	10YR4/1 褐灰色粘質土	
SP291	A8	10YR4/1 褐灰色粘質土	
SP292	B9	10YR4/1 褐灰色粘質土 SB7P4	弥生土器片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP293	B9	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP294	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	(II) SP294 → S54 (新)
SP295	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP296	A7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP297	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP298	A7	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP299	A7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP300	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP301	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	SP357 → SP301
SP302	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP303	A・B8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP304	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP305	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP306	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP307	B5・6	(II) SP307 → SI10 (新)	
SP308	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP309	A8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP310	B8	7.5YR3/2 黒褐色粘質土	原生土露片
SP311	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	SB4P6
SP312	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP313	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP314	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP315	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	SB4P5
SP316	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP317	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP318	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP319	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片 (盛ヶ谷ミ)
SP320	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片
SP321	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP322	B8	10YR4/1 褐色色粘質土	原生土露片 (三角尖帯片)
SP323	B7	(II) SP323 → S55 (新)	原生土露片 (三角尖帯片)
SP324	B7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP325	B7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP326	B7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP327	B7	10YR4/1 褐色色粘質土	
SP328	穴番		
SP329	穴番		
SP330	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片 (断部片)
SP331	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP332	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP333	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	(II) SP333 → S55 (新)
SP334	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片 (2条三角尖帯)
SP335	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP336	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP337	穴番		
SP338	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP339	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	(II) SP339 → S55 (新)
SP340	A9		
SP341	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSP5
SP342	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP343	穴番		
SP344	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP345	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP346	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP347	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	原生土露片
SP348	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP349	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSP4
SP350	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP351	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP352	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSP1

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP353	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSF6
SP354	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSF2
SP355	欠番		
SP356	欠番		
SP357	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP357 → SP301 (新)	弥生土銅片
SP358	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP358 → SP322 (新)	弥生土銅片
SP359	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP360	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP361	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SP357 → SP301
SP362	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SP342 と同一
SP363	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	ob 銅片
SP364	A8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP365	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片 (歯痕部片)
SP366	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片 (鎌口縁)
SP367	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP368	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP369	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP370	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP371	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP372	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP373	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP374	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP375	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) SP375 → S56 (新)	弥生土銅片
SP376	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP377	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP378	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片 (鎌口縁・底部片)
SP379	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP380	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP381	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	SBSF3 (Ⅱ) SP381 → SP235 (新)
SP382	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片 (鎌口縁)
SP383	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP384	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP385	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP386	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片, 短角産 ob 銅片
SP387	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP388	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片 (鎌口縁)
SP389	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP390	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP391	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP391 (新)	弥生土銅片
SP392	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP392 (新)	弥生土銅片 (丹雲銅片)
SP393	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP393 (新)	弥生土銅片
SP394	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP395	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP395 (新)	弥生土銅片
SP396	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP396 (新)	
SP397	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP397 (新)	弥生土銅片
SP398	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP398 (新)	
SP399	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP400	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP400 (新)	
SP401	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP401 (新)	弥生土銅片
SP402	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP402 (新)	弥生土銅片
SP403	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP403 (新)	弥生土銅片
SP404	欠番		
SP405	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP405 (新)	弥生土銅片
SP406	A6・7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP406 (新)	
SP407	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP407 (新)	弥生土銅片
SP408	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP408 (新)	弥生土銅片
SP409	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP409 (新)	弥生土銅片
SP410	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP410 (新)	弥生土銅片
SP411	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP507 → SP411 (新)	
SP412	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (Ⅱ) S68 → SP507 → SP412 (新)	弥生土銅片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP413	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S59 → SP412 (新)	弥生土器片
SP414	A6・7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP414 → S59 (新)	弥生土器片
SP415	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP415 → S59 (新)	弥生土器片
SP416	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP416 (新)	
SP417	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP417 (新)	弥生土器片
SP418	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP418 (新)	弥生土器片
SP419	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP419 (新)	
SP420	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP420 → SP421 (新)	弥生土器片 (遺底部)
SP421	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP420 → SP421 (新)	
SP422	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP422 (新)	弥生土器片
SP423	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP423 (新)	弥生土器片
SP424	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP424 (新)	弥生土器片
SP425	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP425 (新)	弥生土器片
SP426	A6・7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP427 (新)	弥生土器片 (遺)
SP427	A・B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP427 (新)	弥生土器片
SP428	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP428 (新)	
SP429	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP429 (新)	弥生土器片
SP430	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB6P4	弥生土器片、柱状片万石岸
SP431	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP432	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP433	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP433 (新)	弥生土器片、硝石
SP434	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP434 (新)	弥生土器片 (遺底部)
SP435	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP435 (新)	弥生土器片
SP436	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP436 (新)	弥生土器片
SP437	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP438	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP439	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP439 (新)	弥生土器片
SP440	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP440 (新)	弥生土器片
SP441	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP441 (新)	
SP442	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SX62 → SP442 (新)	弥生土器片 (遺底部)
SP443	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP443 (新)	弥生土器片
SP444	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) S68 → SP444 (新)	
SP445	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (腰口縁)
SP446	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP447	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SP447 → SI15 → S66 (新)	弥生土器片
SP448	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP449	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP450	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP451	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP452	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP453	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片 (胴上口縁)
SP454	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP455	A・B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片、石片
SP456	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP457	A・B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB6P1	
SP458	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP459	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP460	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB6P2	弥生土器片
SP461	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP462	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP463	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → S63 → SP463 (新)	弥生土器片 (底部片)
SP464	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → S63 → SP464 (新)	
SP465	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → S63 → SP465 (新)	
SP466	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB6P6 (III) SI70 → SP466 (新)	弥生土器片 (柱状片万石岸)
SP467	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → SP467 (新)	弥生土器片
SP468	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → SP468 (新)	弥生土器片 (胴上口縁)
SP469	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (III) SI70 → SP469 (新)	弥生土器片
SP470	B6	SB6P5 (III) SP470 → SP464 (新)	
SP471	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP472	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土	

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP473	文番		
SP474	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP474 → S66 (新)	弥生土器片
SP475	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP476	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP477	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP478	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP479	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) S63・68 → SP479 (新)	
SP480	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) S68 → SP480 (新)	弥生土器片 (底部片)
SP481	C10	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP40 → SP481 (新)	弥生土器片
SP482	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP483	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP484	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP485	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP486	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP487	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP488	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP489	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP70 → SP489 (新)	
SP490	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP491	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP492	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP493	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP494	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP495	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土 SP71	弥生土器片
SP496	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP497	B9	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP498	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP499	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP500	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP501	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP502	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP503	B10	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP504	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP504 → SP252 (新)	
SP505	文番		
SP506	A7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP506 → SP407・408 → S68 (新)	弥生土器片
SP507	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP507 → SP411 → S68 (新)	弥生土器片 (底部片)
SP508	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP508 → S68 (新)	弥生土器片
SP509	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP509 → S68 (新)	弥生土器片
SP510	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP510 → S68 (新)	弥生土器片 (底部片)
SP511	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP511 → S68 (新)	
SP512	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP512 → S68 (新)	弥生土器片
SP513	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP513 → S68 (新)	弥生土器片
SP514	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP514 → S68 (新)	弥生土器片
SP515	文番		
SP516	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP516 → S68 (新)	弥生土器片
SP517	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP517 → S68 (新)	
SP518	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP518 → S68 (新)	弥生土器片
SP519	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP519 → S68 (新)	弥生土器片
SP520	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 柱礎・(H) SP520 → S68 (新)	弥生土器片
SP521	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP521 → S68 (新)	弥生土器片
SP522	B6	S70 内	
SP523	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP523 → S68 (新)	弥生土器片 (底部部片)
SP524	B7	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP524 → S68 (新)	弥生土器片
SP525	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP525 → S68 (新)	弥生土器片 (底部縁・胴部)
SP526	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP526 → S68 (新)	弥生土器片
SP527	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP527 → S68 (新)	弥生土器片
SP528	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (H) SP70 → SP528 (新)	弥生土器片
SP529	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP530	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP531	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP532	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP533	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP534	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP535	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP536	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP536 → S68 (新)	弥生土器片 (腰口縁)
SP537	A5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP538	Z5	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP538 → SX72 (新)	弥生土器片 (縁口縁)
SP539	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP539 → SI15 (新)	
SP540	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP540 → SI50 (新)	
SP541	A6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP541 → SI10 (新)	
SP542	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP542 → P526 → S26 → S24 → S23 (新)	
SP543	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP543 → P526 → S26 → S24 → S23 (新)	
SP544	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP544 → P526 → S26 → S24 → S23 (新)	
SP545	C11	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP545 → P526 → S26 → S24 → S23 (新)	
SP546	C9	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP546 → S77 (新)	
SP547	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP547 → SI10 (新)	
SP548	B6	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP548 → SI70 (新)	弥生土器片 (腰底部), 磨製石斧
SP549	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP550	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP550 → SK49 → SI10 (新)	
SP551	B8	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP551 → SX16 (新)	弥生土器片
SP552	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP553	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP554	B5	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP555	L25	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP556	L25	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP557	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	
SP558	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP559	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 柱礎: 灰褐色粘質土	弥生土器片
SP560	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP561	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP561 → カクラン	弥生土器片
SP562	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP562 → カクラン	弥生土器片
SP563	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP564	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP565	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP566	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP567	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP568	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP569	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	サメカイト製銅片
SP570	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP571	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP572	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP573	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SK3 → SP573 (新)	弥生土器片
SP574	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP575	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP576	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP577	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP578	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP578 → カクラン	弥生土器片
SP579	J22	黒褐色粘質土 (II) SP579 → SK2 (新)	弥生土器片
SP580	J22	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP580 → S79 (新)	弥生土器片
SP581	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP582	L24	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) S96 → SP582 (新)	弥生土器片
SP583	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP583 → SP585 (新)	弥生土器片
SP584	J22	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP584 → S79 (新)	弥生土器片
SP585	I20	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB11P1 (II) SP585 → SP585 (新)	弥生土器片
SP586	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP587	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP588	K22	10YR4/1 褐色粘質土 (II) SP588 → S96 (新)	
SP589	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP590	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB11P2	弥生土器片
SP591	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土器片
SP592	K23	10YR4/1 褐色粘質土	弥生土器片

番号	グロット	土質・土色	出土遺物
SP593	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP594	N27	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP594 → SX78 (新)	弥生土銅片
SP595	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP583 → SP595 (新)	弥生土銅片
SP596	L34	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP597	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP598	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP598 → SD110 (新)	弥生土銅片
SP599	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP600	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP601	N27	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP601 → SX78 (新)	弥生土銅片
SP602	N27	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP602 → SX78 (新)	弥生土銅片
SP603	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP603 → SX78 (新)	弥生土銅片
SP604	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP605	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP606	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP607	K23	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP607 → S81・SD91 (新)	弥生土銅片
SP608	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP607 → SD89 (新)	弥生土銅片
SP609	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP610	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP611	J20	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP612	J21	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP612 → S103 (新)	弥生土銅片
SP613	K・L22	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP614	I21	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP614 → S103 (新)	弥生土銅片
SP615	K22	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP615 → SK87 (新)	弥生土銅片
SP616	F17	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP617 → S112 (新)	弥生土銅片
SP617	I20	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP617 → SX124 (新)	弥生土銅片
SP618	G17	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP617 → SD134 (新)	弥生土銅片
SP619	G18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP620	H17	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) S135・SP620 → S128 (新)	弥生土銅片
SP621	F16	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP621 → S119P2 (新)	弥生土銅片
SP622	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP623	G17	10YR3/1 黒褐色粘質土 S1179 内	弥生土銅片
SP624	F16	10YR3/1 黒褐色粘質土 S1115 中央土坑内	弥生土銅片
SP625	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP626	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP627	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP628	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP629	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP630	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP631	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片、隕土
SP632	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP633	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP634	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP635	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP636	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP636 → S123 (新)	弥生土銅片
SP637	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB8P1 (II) SP637 → S123 (新)	弥生土銅片
SP638	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP638 → S123 (新)	弥生土銅片
SP639	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB9P2	弥生土銅片
SP640	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP640 → S123 (新)	弥生土銅片
SP641	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB8P4 (II) SP641 → S123 (新)	弥生土銅片
SP642	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP642 → S123 (新)	弥生土銅片
SP643	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP644	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP644 → S123 (新)	弥生土銅片
SP645	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB8P6 (II) SP645 → S123 (新)	弥生土銅片
SP646	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片
SP647	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 SB8P4 (II) SP647 → S123 (新)	弥生土銅片
SP648	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP648 → S123 (新)	弥生土銅片
SP649	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP649 → S123 (新)	弥生土銅片
SP650	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP650 → S123 (新)	弥生土銅 (小遺2点)
SP651	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土 (II) SP651 → S123 (新)	弥生土銅片
SP652		10YR3/1 黒褐色粘質土	弥生土銅片

番号	グロット	土質・土色		出土遺物	
SP653	119	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP654	119	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP654 → S123 (新)	弥生土器片	
SP655	119	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP655 → S123 (新)	弥生土器片	
SP656	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP656 → S123 (新)	弥生土器片	
SP657	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP657 → S123 (新)	弥生土器片	
SP658	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP658 → S123 (新)	弥生土器片	
SP659	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP659 → S123 (新)	弥生土器片	
SP660	119	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP660 → S123 (新)	弥生土器片	
SP661	119	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP661 → S123 (新)	弥生土器片	
SP662	119	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP663	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP663 → S123 (新)	弥生土器片	
SP664	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP664 → S123 (新)	弥生土器片	
SP665	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP665 → S123 (新)	弥生土器片	
SP666	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP666 → S123 (新)	弥生土器片	
SP667	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP667 → S123 (新)	弥生土器片	
SP668	119	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP669	120	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP670	120	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP671	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP671 → S123 (新)	弥生土器片	
SP672	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP672 → S123 (新)	弥生土器片	
SP673	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP674	H18	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP674 → S123 (新)	弥生土器片	
SP675	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP675 → S123 (新)	弥生土器片	
SP676	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP676 → S123 (新)	弥生土器片	
SP677	120	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP678	120	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP679	119	10YR3/1 黒褐色粘質土		弥生土器片	
SP680	F16		S18P2	弥生土器片	
SP681	F16		S18P1	弥生土器片 (胴上口縁)	
SP682	H19	10YR3/1 黒褐色粘質土	S18P5 (H) SP682 → ST155 (新)		
SP683	F16		S18P3	弥生土器片	
SP684	120	10YR3/1 黒褐色粘質土	(H) SP684 → SX124 (新)		
SP685	F16		S18 S115P2 遺物取上	弥生土器片	
SP686	F16		S18 S115P3 遺物取上	弥生土器片	

表5 遺物観察表

出土遺物	検出番号	採取番号	層位	種類	素材	質量 cm (最大径)		色調		胎土・構成	成形・調整技法	備考
						口径	底径	内径	外径			
SBI	第1005-1	3	弥生土層	罌		13.2		7.5YR3/3 暗褐色 5YR5.6 暗赤褐色		φ1~3mmの炭粒、石灰を含む	ハタ、メノフ	P6
	第1005-2	3	弥生土層	罌		9.8	6.0	5YR5/8 暗赤褐色 5YR5.2 灰褐色		φ1~3mmの炭粒、石灰を含む	ナデ、メノフ、高岡江原田ナデ	P6
	第1005-3	2	弥生土層	罌		10.4	8.0	5YR5/8 褐色 5YR6/8 褐色		φ1~3mmの炭粒、石灰を含む	ナデ、ハタ、メノフ	P6
	第1005-4	2	弥生土層	罌		18.4	8.2	7.5YR6/4 に近い褐色 7.5YR6/4 に近い褐色		φ1~2mmの炭粒、石灰を含む	ナデ、ハタ、メノフ	P6

SBI	第1005-7	P4	石製品	柱状片、方石片		6.0	1.55	1.5	18	灰泥		
	第1005-8	P6	石製品	柱状片、方石片		(4.0)	(1.45)	(0.8)	(9.0)	細粒砂岩		

検出 番号	採取 番号	層位	種類	器種	質量・寸法 (最大径)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	高さ 内径				
SBI10	第1005-5		弥生土層	罎	(8.6)	12.0	4.3	7.5YR6/3 に近い褐色 10YR5/2 灰黄褐色	φ1~4mmの炭粒、石灰、炭 灰、炭屑石を含む	ナデ、メノフ、高岡	
	検出 番号	採取 番号	層位	器種	質量・寸法 (最大径)			重量 (g)	石種	備考	
	第1005-9	2層	石製品	砥石	最大径	底径	最大径				
						6.0	3.0	1.2	39	砂岩	P1

押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (換尺目)			色調	粘土/焼成	成形・調整技法	備考	
					口径	高さ	底径					内: 外:
5310	第13図-1	3-並	2	土師器	甕	(14.0)	8.7	5YR6/8 5YR6/8	褐色	φ1~4mmの長石、石炭、雲母を含む/瓦	ナデ、ハテ、ハテ後ナデ	
	第13図-2	3-並	12	土師器	腰付鉢	(13.8)	8.9	7.5YR6/6 7.5YR6/6	褐色	φ1~5mmの長石、石炭を含む/瓦	ナデ、ハテ、マメツ黒底	
	第13図-3	3-並	5	土師器	小瓶	(11.0)	7.8	7.5YR6/6 7.5YR6/2	褐色 灰褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む/瓦	ナデ、工具ナデ	
	第13図-4		2	土師器	甕		5.8	7.5YR6/6 7.5YR6/8	褐色	φ1mmの長石、石炭、内陶石を含む/瓦	マメツ	
	第13図-5			土師器	甕	(10.6)	6.1	10YR5/2 10YR5/2	灰黄褐色 灰黄褐色	φ1~2mmの長石を含む/瓦	ナデ、黒底、黒後ナデ	
	第13図-6			土師器	小瓶		2.7	2.8	7.5YR7/6 7.5YR6/8	褐色	φ1~2mmの長石、石炭、内陶石を含む/瓦	ナデ
	第13図-7	3	弥生土器	甕			2.7	2.8	5YR6/6 5YR6/6	褐色	φ1~2mmの長石、石炭、内陶石を含む/瓦	ナデ、工具ナデ
押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (換尺目)			重量 (g)	石種	備考		
					最大径	最大高	最大厚					
第18図-1	1-2	石製品	石磨		2.75	1.5	3.5	1.7	安山岩			
第18図-2	1-2	石製品	石包丁		11.3	5.0	6.5	49.8	赤褐色花崗岩	穿孔2mm		
第18図-3	床面	石製品	石磨		10.6	4.1	1.2	50.3	凝灰岩			
第18図-4	P1	石製品	石斧		9.2	5.1	1.5	109.8	凝灰岩			
第18図-5	1-2	石製品	片刃石斧		6.8	3.9	0.9	42.3	凝灰岩			
第18図-6	1-2	石製品	砥石		4.6	3.2	1.2	32.6	砂岩			
第18図-7	P1	石製品	台石		12.7	12.7	6.0	1,550	凝灰岩	赤褐色みられる		

押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (換尺目)			色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	高さ	底径				
5315	第13図-8	7	古式土師器	丸底甕	(13.6)	12.1		7.5YR7/4 にぶい褐色 7.5YR7/4 にぶい褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	ナデ、ナデ後ハテ、黒底	
	第13図-9	7	古式土師器	甕	(12.0)	5.4		7.5YR7/3 にぶい褐色 7.5YR7/3 にぶい褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	ハテ、マメツ	
	第13図-10	7	古式土師器	甕		7.8	(3.4)	2.5YR6/6 褐色 7.5YR5/2 灰褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	ナデ、マメツ、黒底、オナエ	
	第13図-11	2	古式土師器	甕		7.0	2.2	2.5YR6/6 褐色 7.5YR6/8 褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	マメツ、黒底	
	第13図-12	1	古式土師器	磨鉢	(13.6)	17.8	(22.0)	7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/8 褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	ナデ、マメツ、ハテ後マメツ	
押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (換尺目)			重量 (g)	石種	備考	
					最大径	最大径	最大径				
第18図-8	1	石製品	砥石		10.2	14.9	4.2	920	砂岩		

押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (寛文期)			色調	粘土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	高さ	底径				
5320	第13図-13	2	古式土師器	甕	(14.5)	5.2		7.5YR7/6 7.5YR6/8	褐色 褐色	φ1~3mmの長石、石炭、 雲母を含む/瓦	マメツ
	第13図-14	1	弥生土器	甕			4.5	7.5YR6/6 7.5YR4/2	褐色 灰褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む/瓦	マメツ、厚文
押込 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (寛文期)			重量 (g)	石種	備考	
第18図-9	2	石製品	石包丁		8.9	4.6	0.8	44	凝灰岩		
第18図-10	3-並	3	石製品	砥石	25.0	9.3	3.3	987	凝灰岩	南郷遺跡付出土	

押附 番号	図版 番号	単位	種類	器種	質量 cm (寛文目)			色調	粘土/焼成	成形・調整技法	備考	
					口径	高さ	底径					
5325	第13図-15	2	弥生土器	甕		7.3		10YR6/3 10YR4/1	にぶい黄褐色 灰褐色	φ1~4mmの長石、石炭を含む 瓦	ナデ、ハテ	
	第13図-16	2	弥生土器	甕		5.0		10YR7/6 10YR6/3	明黄褐色 にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石、石炭、 内陶石を含む切欠	ナデ	
	第13図-17	4-並	2	弥生土器	甕		5.6	7.5YR6/6 10YR5/3	黄褐色 灰褐色	φ1~3mmの長石、石炭を含む 瓦	ナデ	表面 6.3a
	第13図-18		弥生土器	甕		5.8	5.2	2.5YR6/6 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~3mmの長石、石炭、 雲母を含む切欠	ナデ、ハテ	
	第13図-19	2	弥生土器	甕		6.5	(6.6)	5YR6/6 3.5YR6/6	褐色 褐色	φ1~3mmの長石、石炭、 雲母を含む切欠	ナデ、ハテ、ミギキ	
	第13図-20		弥生土器			5.8	6.3	7.5YR3/4 3.5YR7/3	灰黄褐色 にぶい褐色	φ1~2mmの長石、石炭、 雲母を含む切欠	ナデ	
	第13図-21	トレン チ	弥生土器	甕		9.4	6.5	5YR6/4 7.5YR6/2	黄褐色 灰褐色	φ1~2mmの長石、石炭、 雲母を含む切欠	ナデ、ハテ、マメツ	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			色調	鉱土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	最高	底径				
535	第17図-1		弥生土層	罎		3.8	5.6	10YR6/8 黄褐色 10YR6/2 灰黄褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/流	ナデ、ハケ	
	第17図-2		弥生土層	磨台		7.7	(8.6)	7.5YR7/8 褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1mmの長石、石英を含む/流	ナデ、メシフ	
	採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			重さ (g)	石種	備考
第18図-11		1	石製品	碇石		23.1	9.0	7.0	2,574	砂岩	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			色調	鉱土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	最高	底径				
536	第17図-3	東西 トレンチ	弥生土層	倉		3.3	7.0	10YR6/8 黄褐色 7.5YR6/8 黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ、メシフ	
	第17図-4	1	弥生土層	罎		6.8	6.8	7.5YR4/1 黄褐色 5YR4/8 黄褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/流	ナデ、刷、ハケ	
	第17図-5	1	弥生土層	罎		7.6	6.8	7.5YR4/4 に近い黄褐色 7.5YR3/1 黒褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/流	ナデ、ハケ、磨ナデ	
	第17図-6	1	弥生土層	罎		2.8	6.5	5YR3/1 黒褐色 7.5YR6/3 に近い褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/流	ハケ	
	採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			重さ (g)	石種	備考
第17図-7			土製品	土罎		1.8	2.9	1.7	104YR7/6 黄褐色(黒褐色)	重36.9g	
第18図-12			石製品	磨蝕石		12.7	5.6	2.5	275	蛇紋岩	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			色調	鉱土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	最高	底径				
5345	第17図-8	1	弥生土層	罎		7.5		7.5YR7/4 に近い黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ	図18 番号 5345 土
	第17図-9	3	弥生土層	罎		8.0		7.5YR6/3 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ、ハケ、メシフ	
	第17図-10	1	弥生土層	磨		8.4	9.4	10YR6/4 浅黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ、ハケ	
	第17図-11	1	弥生土層	罎		3.5	6.3	7.5YR6/3 浅黄褐色 7.5YR6/3 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ、刷、内磨り	
	第17図-12	1	弥生土層	罎		7.1	6.4	7.5YR7/6 褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ、ハケ	
	第17図-13	3	弥生土層	罎		8.7	5.5	7.5YR7/3 に近い黄褐色 10YR7/2 に近い黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ、ハケ	図18 番号 5345 土
	第17図-14	1	弥生土層	磨台		5.0	10.8	10YR6/4 浅黄褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ、ハケ	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			色調	鉱土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	最高	底径				
5350	第17図-15	2	弥生土層	倉		1.8		7.5YR7/4 に近い黄褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ	
	第17図-16	2	弥生土層	罎		3.7		7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR7/8 黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ	
	第17図-17	2	弥生土層	罎		1.9	(6.4)	10YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ	
第18図-13	採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			重さ (g)	石種	備考
	第18図-13		西側土層	石製品	石砂	9.0	8.0	5.7	539	凝灰砂岩	
	第18図-14	1	石製品	碇石		5.8	4.8	1.0	49.4	凝灰砂岩	
	第18図-15	3	石製品	碇石		5.2	5.0	0.9	29.7	凝灰砂岩	
	第18図-16	2	石製品	碇石		3.5	5.0	1.3	37.8	砂岩	
	第18図-17	1	石製品	碇石		5.1	4.7	2.5	45	凝灰砂岩	
	第18図-18	3	石製品	碇石		15.4	7.8	1.3	224	砂岩	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	形態	径長 cm (実径)			色調	鉱土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	最高	底径				
5365	第17図-18	7	弥生土層	罎		3.7		7.5YR6/4 に近い黄褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ	
	第17図-19		弥生土層	罎		3.7		10YR7/4 に近い黄褐色 7.5YR6/6 浅黄褐色	φ1mmの長石、石英、雲母、角閃石を含む/流	ナデ	
	第17図-20		弥生土層	罎		8.8		5YR6/6 褐色 5YR6/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、雲母を含む/流	ナデ、刷、磨	

第1702-21	8	非生土層	産	4.8	(9.6)	10YR7/4 に、20-Y黄褐色 5YR7/6 褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ、マメツ
第1702-22	5	非生土層	産	5.1	3.8	10YR7/3 に、20-Y黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナゲ、黒炭
第1702-23		非生土層	産	4.8	6.9	7.5YR7/8 に、20-Y褐色 7.5YR7/6 褐色	6.1-2mmの長石、石英を含む/ 頁	ナゲ、マメツ

採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
S170	第2202-1	5-②	3	非生土層	産	23.8	26.2	5.5	10YR7/3 に、20-Y黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ、ハナ
	第2202-2		2	非生土層	産	4.0	6.5		10YR8/4 浅黄褐色 10YR8/3 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ
	第2202-3		1	非生土層	産		5.1	6.0	10YR6/5 浅黄褐色 7.5YR6/6 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ
採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			重さ (g)	石種	備考	
					最大長	最大幅	最大厚				
第2202-17		1	石製品	石磨	12.0	11.3	2.5	555.0	安山岩		

採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
S180	第2202-4		2	土師器	産	(10.2)	4.4		5YR6/6 褐色 5YR6/5 褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナゲ
	第2202-5		2	土師器	産	(16.8)	9.3		10YR7/4 に、20-Y黄褐色 10YR7/6 明黄褐色	6.1-5mmの長石、石英を含む/ 頁	ナゲ、マメツ
	第2202-6		2	土師器	産	(16.6)	8.3		7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/6 褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ
	第2202-7		2	土師器	高坪	(34.0)	4.6		5YR5/8 明赤褐色 7.5YR4/7 褐色	6.1-5mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁	ナゲ、ハナ

採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
S1115	第2202-8		非生土層	産	(18.8)	8.2		7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR7/8 に、20-Y褐色	6.1-2mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁	ナゲ、ハナ	
	第2202-9		非生土層	産	(7.8)	3.7		7.5YR6/4 浅黄褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ	
	第2202-10		非生土層	産		16.2		7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR7/8 黄褐色	6.1-4mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ、ハナ、マメツ	
	第2202-11		非生土層	産	4.8	(7.5)		5YR6/8 褐色 5YR6/6 褐色	6.1mmの長石、珪を含む/ 頁	マメツ	
	採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			重さ (g)	石種	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
第2202-18			石製品	—		5.7	4.7	3.0	118	凝灰岩	不明製品
第2202-19	5-②		石製品	碇石	22.8	7.7	1.85	429	凝灰		
第2202-20	5-②		石製品	碇石	19.4	7.8	7.0	1085	凝灰		
第2202-21	5-②		石製品	碇石	15.2	10.3	3.1	577	凝灰岩		
第2202-22			石製品	石磨	6.4	4.3	0.8	17	凝灰岩		

採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
S1140	第2202-12		1	非生土層	産		3.9		10YR7/4 に、20-Y黄褐色 10YR7/4 に、20-Y黄褐色	6.1mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナゲ
	第2202-13		非生土層	産		3.1		5YR6/6 褐色 10YR6/4 に、20-Y黄褐色	6.1mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナゲ	土坑
	第2202-14		14	非生土層	産		3.9		10YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪を含む/頁	マメツ
	第2202-15		非生土層	産		2.7	(7.8)		10YR6/8 明黄褐色 10YR7/4 に、20-Y黄褐色	6.1-2mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナゲ、マメツ

採出 番号	図版 番号	単位	種類	図様	法量 cm (復元値)			色調	胎土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
S1250	第2202-16	6-②	土師器	細付鉢	(14.5)	8.6		7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR7/8 黄褐色	6.1-5mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナゲ	
	採出 番号	図版 番号	種類	図様	法量 cm (復元値)			重さ (g)	石種	備考	
					最大長	最大幅	最大厚				
第2202-23			石製品	石磨	2.9	2.0	0.45	1.8	黒曜石	磨台産	

採掘 番号	採掘 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (実光源)			色調	鉱土構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	高さ				
SD13	第24段-1	7	土師器	竈		4.3		7.5YR6/1 褐色色 7.5YR6/1 褐色色	φ1~2mmの長石、石英、 母を含む/貝	回転ナデ	
	第24段-2	3+4	土師器	甕		2.1		2.5Y4/3 黄褐色 2.5Y4/2 黄褐色	φ1mm以下の砂粒を少し含む/貝	回転ナデ	
	第24段-3	3+4	磁器	磁器製茶 黄緑色		2.7		5Y Y6/1 オリーブ灰色 5Y Y6/1 オリーブ灰色	貝/貝	陶輪	
	第24段-4	5-6	陶器	磁鉢		4.5		10YR8/2 灰白色 10YR7/3 にじみ黄褐色	貝/貝		
	第24段-5	3+4	陶器	磁鉢		3.4		5YR6/8 赤褐色 5YR6/8 褐色	φ1mm以下の砂粒を少し含む/貝		
採掘 番号	採掘 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (実光源)			色調	鉱土構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	高さ				
	第24段-6	7-③	5	瓦	瓦瓦		10.7	10YR7/1 灰白色 2.5Y7/1 灰白色	φ1mm以下の砂粒を少し含む/貝		
採掘 番号	採掘 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (実光源)			色調	鉱土構成	成形・調整技法	備考
					最大径	最大幅	最大厚	重さ(g)			
	第28段-3	1	石製品	碇石	9.2	14.1	2.2	511	砂岩		
	第28段-2	1	石製品	碇石	10.7	3.3	1.1	49	花崗		

採掘 番号	採掘 番号	層位	種類	器種	径長 cm (実光源)			色調	鉱土構成	成形・調整技法	備考	
					口径	底径	高さ					
SD90	第27段-1	6-⑤	1	古式土師器	甕	(17.8)	11.0	2.5YR 5/8 暗赤褐色 5YR1.7/1 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	タタキ、ナデ、ネズリ、ナデ、ナデ、ナデ		
	第27段-2	6-⑤	南北 3	古式土師器	甕	(13.0)	5.6	10YR8/4 浅黄褐色 10YR7/4 にじみ黄褐色	φ1mmの長石、石英を含む/貝	マメツ		
	第27段-3	6-⑤	1	古式土師器	甕	(10.0)	6.1	7.5YR6/9 褐色 7.5YR6/9 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	ハナ、ナデ、ナズリ		
	第27段-4	6-⑤	1	古式土師器	小型丸底甕	(7.2)	6.2	5YR4/8 赤褐色 5YR4/8 赤褐色	φ1mmの長石、石英を含む/貝	ナデ		
	第27段-5	南北 4	古式土師器	甕		4.9		10YR7/4 にじみ黄褐色 7.5YR7/2 灰褐色	φ1~3mmの長石、石英、 陶石を含む/貝	ナデ、エダナデ		
	第27段-6	南北 4	古式土師器	甕		9.8	(4.6)	7.5YR6/4 浅黄褐色 10YR6/2 灰白色	φ1~3mmの長石、石英、 母、角陶石を含む/貝	ハナ、ナデ		
	第27段-7	南北 2	古式土師器	長頸甕		6.3		2.5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母を含む/貝	ハナ、ナデ		
	第27段-8	南北 4	古式土師器	甕		2.8		7.5YR7/6 褐色 5YR6/8 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	ナデ		
	第27段-9	1	古式土師器	甕		3.7		5YR5/8 明赤褐色 5YR5/8 明赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	ナデ、陶輪、直線ナデ		
	第27段-10	南北 4	古式土師器	甕	(14.4)	5.0		7.5YR6/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~3mmの長石を含む/貝	ナデ		
	第27段-11	南北 4	古式土師器	甕	(11.4)			2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR5/4 にじみ黄褐色	φ1mm以下の砂粒を含む/貝	マメツ		
	第27段-12	南北 4	古式土師器	甕	(13.6)	3.0		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 陶石を含む/貝	ハナ、ナデ		
	第27段-13	南北 4	古式土師器	甕	(14.2)	5.8		10YR7/4 にじみ黄褐色 7.5YR5/4 にじみ黄褐色	φ1mmの長石、石英、 母を含む/貝	マメツ		
	第27段-14	南北 4	古式土師器	甕		9.8		5YR5/6 明赤褐色 5YR4/6 にじみ赤褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む/貝	ハナ、黒炭	最大径 13.0cm	
	第27段-15	南北 3	古式土師器	甕		11.2		5YR5/8 明赤褐色 5YR5/8 明赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	ハナ、ナデ、ナズリ	最大径 15.5cm	
	第27段-16	古式土師器	皿、タ	(14.0)	3.7			7.5YR5/9 褐色 7.5YR5/9 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母を含む/貝	ナデ、ナズリ	最大径 12.5cm	
	第27段-17	南北 4	古式土師器	高杯		5.7		7.5YR7/4 にじみ黄褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 母、角陶石を含む/貝	マメツ		
	第27段-18	6-⑤	2	古式土師器	甕	10.0	8.2	8.8	10YR7/4 にじみ黄褐色 10YR7/4 にじみ黄褐色	φ1~3mmの砂粒を多く含む/貝	マメツ	
	第27段-19	6-⑤	南北 4	古式土師器	鉢	11.1	6.9		2.5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母、角陶石を含む/貝	タタキ、エダナデ	
	第27段-20	南北 2	古式土師器	甕		5.8			2.5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/貝	ハナ、ナデ	
	第27段-21	南北 2	古式土師器	手捏土師 土師	4.2	3.0	0.7		10YR8/3 浅黄褐色 10YR8/3 浅黄褐色	φ1mmの長石、石英、 母、角陶石を含む/貝	マメツ	
	第27段-22	南北 1	古式土師器	鉢	(8.0)	3.9		7.5YR6/4 浅黄褐色 10YR4/1 褐色	φ1~2mmの砂粒を少し含む/貝	マメツ		
	第27段-23	南北 1	古式土師器	鉢	(7.2)	3.0		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~3mmの砂粒を少し含む/貝	マメツ		
	第27段-24	1	古式土師器	鉢		0.6	(6.4)		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	細かい砂粒を少量含む/貝	焼成前穿孔	
採掘 番号	採掘 番号	層位	種類	器種	径長 cm (実光源)			色調	鉱土構成	備考		
					最大径	最大幅	厚さ	内径				
	第27段-25	南北 2		土製品	4.3	3.6	1.45		10YR7/4 にじみ黄褐色 10YR7/4 にじみ黄褐色	φ1mmの長石、石英、 母を含む/貝	手捏 土師	

採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
第27図-06	南北 1	古式土師器	甕			3.6	0.6	10YR5/6 10YR5/6 黄褐色 黄褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母を含む/瓦	ナデ、マメツ、片瓦	
第27図-07	南北 2	弥生土器	甕		7.3	2.4		10YR6/4 10YR6/4 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母を含む/瓦	ナデ	
第27図-08	1	土師器	甕		(9.6)	2.5	4.8	7.5YR2/8 5YR6/4 褐色 褐色	細かい砂粒を少量含む/瓦	ナデ、黒瓦	
第27図-09	南北 1	土師器	甕		4.8	2.5	(5.6)	5YR6/4 5YR6/4 にぶい褐色 褐色	砂粒を含む/瓦	回転ナデ、回転ヘタ削り	
第27図-09	南北 4	弥生土器	甕					10YR6/4 10YR6/2 浅黄褐色 灰黄褐色	φ1mmの長石、石英、 母を含む/瓦		
採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			重量 (g)	石種	備考	
第27図-31	南北 3	鉄製品	刀子		3.7	1.5	0.5	7.9	—		
第28図-3	南北 3	石製品	砥石		5.2	3.0	1.25	31.6	砂岩		
第28図-4	南北 3	石製品	石包丁		5.1	8.9	0.7	39.7	花崗岩	ベルト	
第28図-5	南北 5	石製品	石包丁		3.7	4.6	0.6	7.4	花崗岩		
第28図-6		石製品	石磨		8.5	3.4	1.3	40	凝灰岩		
第28図-7	南北 4	石製品	石杵		13.6	5.1	3.7	327	花崗岩		
第28図-8	南北 1	石製品	石磨		1.8	1.6	1.0	0.3	花崗岩	磨石	
第28図-9	南北 1	石製品	石磨		2.3	2.3	7.0	0.7	花崗岩	磨石	
第28図-10	南北 4	石製品	石磨		2.2	1.7	4.0	0.4	花崗岩	磨石	

採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
51110	第30図-1	古式土師器	甕		3.8			2.5YR6/8 2.5YR6/8 褐色 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 角閃石を含む/瓦	ハテ、マメツ	
	第30図-2	古式土師器	甕		3.2			2.5YR6/8 2.5YR6/8 褐色 褐色	φ1~3mmの長石を含む/瓦	ハテ、マメツ	
	第30図-3	古式土師器	高杯		3.4			10YR6/8 2.5YR7/2 赤褐色 明赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/瓦	ナデ、ハナテ	
	第30図-4	弥生土器	高杯		8.7			7.5YR6/8 10YR5/4 赤褐色 赤褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/瓦	ナデ、マメツ	
採出 番号	採出 番号	種類	図様	質量 cm (変換部)			重量 (g)	備考			
第30図-5		鉄製品	磨	4.9/2.9	2.2/1.0		8.7/2.0				
第30図-6		鉄製品	刀子	(11.6)	3.2		4.33				
採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
503	第32図-1	1	弥生土器	甕	10.0			10YR7/4 7.5YR6/8 にぶい黄褐色 褐色	φ1~2mmの長石、石英を多 く含む/瓦	ハテ、ナデ、両押りと削	
	第32図-2	1-2	弥生土器	甕			8.5	10YR5/5 10YR6/4 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 母を含む/瓦	ナデ、ハテ、黒瓦	断面 5.5mm
	第32図-3	1-2	弥生土器	甕	5.4	(3.0)		7.5YR7/4 7.5YR6/3 にぶい褐色 にぶい褐色	φ1mmの長石、角閃石を含む/瓦	ナデ、ハテ、黒瓦	
	第32図-4	1-2	弥生土器	甕	4.9	7.6		5YR7/6 5YR7/6 褐色 褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母を含む/瓦	ナデ、ハテ、黒ナデ	
	第32図-5	1-2	弥生土器	甕	8.7	7.2		5YR6/4 7.5YR6/4 にぶい褐色 にぶい褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母、角閃石を含む/瓦	ハテ、ナデ	
採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			重量 (g)	石種	備考	
第34図-1	1	石製品	砥石		6.6	9.5	3.6	259	片岩		

採出 番号	採出 番号	単位	種類	図様	質量 cm (変換部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
505	第32図-6	黄銅	弥生土器	甕	(20.4)	11.8		7.5YR6/4 7.5YR6/4 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/瓦	マメツ、ナデ	
	第32図-7	1	弥生土器	甕	12.7			7.5YR6/3 7.5YR2/1 にぶい褐色 黒褐色	φ1~3mmの砂粒、黒母、 角閃石を含む/瓦	ナデ、黒瓦、貝状瓦	
	第32図-8		弥生土器	甕	14.4			7.5YR4/3 7.5YR4/3 黄褐色 黄褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/瓦	ナデ、黒瓦	断面 54.5mm

第32図-9	東照	巻生土層	面	10.2	7.5YR7/6 10YR7/3	褐色 にぶい黄褐色	φ1~2mmの頁石,石葉を含む/頁	ナメ		
第32図-10	東照	巻生土層	面	11.5	7.5YR5/3 7.5YR5/2	にぶい褐色 にぶい褐色	φ1~3mmの頁石,石葉を含む/頁	マメツ,胎胞近縁,科状文		
第32図-11	2	巻生土層	裏 (22.8)	15.5	7.5YR7/6 5YR7/5	褐色 褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハク,不明瞭		
第32図-12	2	巻生土層	裏 (11.6)	18.0	7.5YR6/5 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~4mmの頁石,石葉を含む/頁	縦ハク後ナメ,ナメ黒斑		
第32図-13	東照	巻生土層	裏	6.4	5YR6/5 5YR6/6	褐色 褐色	φ1~5mmの頁石,石葉を含む/頁	マメツ		
第32図-14	巻生土層	裏		9.3	5YR5/4 5YR6/4	にぶい赤褐色 にぶい褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	ミダキ,ハク		
第32図-15	巻生土層	裏		6.3	7.5YR7/4 7.5YR7/4	にぶい褐色 にぶい褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	ハク,ナメ,エ基ナメ縦ハク		
第32図-16	巻生土層	面		6.7	2.5YR5/4 2.5Y4/3	にぶい赤褐色 黄褐色	φ3mmの頁石,石葉を含む/頁	ミダキ,ナメ,ハナツ,黒斑		
第32図-17	東照	巻生土層	面	6.9	5YR6/5 7.5YR6/4	褐色 にぶい褐色	φ5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ナメ,マメツ		
第32図-18	巻生土層	面		3.7	7.5YR7/4 N1.5/ 黒色	にぶい褐色 黒色	φ3mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	ナメ,ミダキ		
第32図-19	4	巻生土層	裏	5.1	7.5YR3/3 7.5YR4/4	浅黄褐色 浅黄褐色	φ5mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	ナメ黒斑		
第32図-20	2	巻生土層	裏	7.2	5YR6/5 7.5YR4/2	褐色 灰褐色	φ5mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	ナメ,ハク		
第32図-21	1	巻生土層	裏	8.0	4.5 5YR6/5	褐色 褐色	φ5mmの頁石,石葉を含む/頁	ハナツ		
第32図-22	巻生土層	裏		10.1	10YR5/5 7.5YR7/6	赤色 褐色	φ5mmの頁石,石葉,葉肉を含む/頁	ハナツ,ナメ		
第32図-23	巻生土層	斜	11.3	0.7	7.5YR6/4 7.5YR7/4	浅黄褐色 にぶい褐色	φ2~3mmの頁石,石葉を含む/頁	ハナツ,ナメ,ハナツ後ミダキ		
浮選番号	図説番号	層位	種類	用途	質量 cm (置元置)	重量 (g)	色調	胎元構成	備考	
					最大長	最大幅	最大厚			
第32図-24	東照	巻土	土	3.5	2.7	24.1	7.5YR7/8 7.5YR7/8	黄褐色 黄褐色	φ1mmの白色砂子を含む/頁	
浮選番号	図説番号	層位	種類	用途	質量 cm (置元置)	重量 (g)	石種	備考		
					最大長	最大幅	最大厚			
第54図-2	1	石製品	石器	石	5.2	5.1	0.5	19.2	粗砂岩	
第54図-3		石製品	硯石	硯	12.6	9.2	3.6	593.9	砂岩	
第54図-4		石製品	硯石	硯	14.2	9.0	4.4	655.9	砂岩	粒子が大きい

浮選 番号	図説 番号	層位	種類	用途	質量 cm (置元置)			色調	胎元/構成	成形・調整技法	備考	
					口径	底面	底径					
SK8	第33図-1	9-④	4-5	巻生土層	面	27.8	12.6	7.5YR7/6 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ミダキ,ナメ,マメツ	
	第33図-2	9-④	4-5	巻生土層	面	32.3	15.9	7.5YR7/6 7.5R4/6	褐色 赤褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	マメツ,ナメ	
	第33図-3	6-7	巻生土層	面	(16.2)	9.3	5YR6/4 5YR6/4	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉を含む/頁	ナメ,ミダキ		
	第33図-4	4-5	巻生土層	面	6.3	7.9	10YR8/4 10YR6/1	浅黄褐色 黄褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉を含む/頁	胎元近縁		
	第33図-5	3~7	巻生土層	面	7.4	8.4	2.5YR6/4 7.5YR6/4	にぶい褐色 にぶい褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	胎元近縁,ミダキ,ハナツ		
	第33図-6	9-④	4-5	巻生土層	裏	16.1	24.3	5YR6/5 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	黒斑,ハナツ,ナメ,マメツ	
	第33図-7	6-7	巻生土層	裏	(21.0)	25.4	6.6	7.5YR7/3 10YR8/3	にぶい褐色 浅黄褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハナツ,ナメ	
	第33図-8	6-7	巻生土層	裏	(19.2)	30.2		10YR6/3 10YR6/4	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	横ハナツ,縦ハナツ,ナメ,黒斑,黒斑	
	第33図-9	4-5	巻生土層	裏	(25.4)	9.0		5YR6/5 5YR7/8	褐色 褐色	φ5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハナツ,ナメ	
	第33図-10	1~3	巻生土層	裏	(26.0)	12.5		5YR6/8 10YR7/8	黄褐色 黄褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,角石を含む/頁	マメツ	
	第33図-11	6-7	巻生土層	裏		5.9		7.5YR5/2 7.5YR5/2	灰褐色 灰褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,角石,角石を含む/頁	縦ハナツ,ナメ	
	第33図-12		巻生土層	裏		5.1		7.5YR7/6 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~2mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	縦ハナツ後ナメ,ナメ	
	第33図-13	4-5	巻生土層	裏		16.1	7.2	7.5YR6/3 7.5YR6/3	浅黄褐色 浅黄褐色	φ1~5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハナツ,ナメ	
	第33図-14	1~3	巻生土層	裏		11.0	5.8	2.5YR6/5 10YR6/2	褐色 灰褐色	φ1~4mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	横ハナツ等,ハナツ,ナメ,ハナツ	
	第33図-15	4-5	巻生土層	裏		8.2	6.1	2.5YR6/5 7.5YR6/9	褐色 にぶい褐色	φ5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハナツ,ナメ	
	第33図-16	6-7	巻生土層	裏		5.8	5.6	2.5YR7/8 7.5YR6/3	褐色 にぶい褐色	φ5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ナメ,ハナツ,ハナツ	
	第33図-17	4-5	巻生土層	裏		3.5	7.4	2.5YR7/8 7.5YR5/3	褐色 にぶい褐色	φ1~4mmの頁石,石葉,葉肉,角石,角石を含む/頁	ハナツ,ナメ	
	第33図-18	9-④	1~3	巻生土層	斜付硯	(18.8)	17.5	7.6	7.5YR7/3 7.5YR7/3	にぶい褐色 にぶい褐色	φ1~3mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	縦ミダキ,ナメ,胎元近縁,ナメ
	第33図-19	4-5	巻生土層	斜	(16.0)	7.4		7.5YR7/6 7.5YR7/6	褐色 褐色	φ1~5mmの頁石,石葉,葉肉,角石を含む/頁	ハナツ後,ナメ	

第3305-20	1-3	非生土層	砂		11.0	7.5YR6/4 7.5YR3/1	にじい・褐色 黒褐色	φ1-4mmの長石、石英を含む 丸	マメツ	
採取 番号	図版 番号	層位	種類	図様	径長 最大長	最大短	最大厚	重量 (g)	石種	備考
第3405-5	1-3	石製品	碇石		6.4	5.8	3.9	128.7	砂岩類	
第3405-6	1-3	石製品	碇石	(7.5)	5.7	6.3		429	凝灰岩等	
第3405-7	3-4	石製品	碇石		15.5	14.6	5.1	1935	安山岩	登良山遺跡
第3405-8	1-3	石製品	碇石		8.5	7.6	0.8	101.4	粘板岩	

採取 番号	図版 番号	層位	種類	図様	径長 最大長	最大短	最大厚	重量 (g)	石種	備考
第3405-1	9-②	6-8	非生土層	面	(14.0)	39.5		5YR7/6 褐色 7.5YR7/3 にじい・褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ナヅ、ハナ、マメツ
第3405-2		6-8	非生土層	面	(7.3)	11.0		5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1-4mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ナヅ、ハナ、マメツ
第3405-3		6-8	非生土層	面	(10.4)	3.2		2.5YR6/8 褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1mmの長石、石英を含む/丸	横成後砂岩、マメツ
第3405-4	9-②	6-8	非生土層	面	12.0	12.5	5.0	7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR5/1 黄褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	横成後砂岩、マメツ
第3405-5	9-②	6-8	非生土層	面	(9.2)	(16.7)	5.0	7.5YR5/8 明赤褐色 7.5YR7/4 にじい・褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	マメツ、ナヅ
第3405-6	9-②	6-8	非生土層	面	23.0	11.8		10R4/6 赤色 5YR7/8 褐色	φ1-3mmの長石、石英、 母を含む/丸	ハナ、ナヅ、角閃岩
第3405-7	9-③	6-8	非生土層	面		5.1	(8.0)	7.5YR7/4 にじい・褐色 7.5YR8/3 黄褐色	φ1-3mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ハナ、ナヅ
第3405-8		6-8	非生土層	面	4.2	(11.0)		5YR7/4 にじい・褐色 7.5YR5/1 黄褐色	φ1-5mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	マメツ、ナヅ
第3405-9		6-8	非生土層	面	(26.0)	14.0		7.5YR6/4 浅黄褐色 7.5YR4/2 黄褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ナヅ
第3405-10		6-8	非生土層	面	(25.6)	8.0		10YR8/2 灰白色 10YR8/2 灰白色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ハナ、ナヅ
第3405-11		6-8	非生土層	面		12.9		7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/6 褐色	φ1-3mmの長石、石英、 母を含む/丸	ナヅ
第3405-12		6-8	非生土層	面		6.7		7.5YR6/4 浅黄褐色 7.5YR4/4 黄褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ナヅ
第3405-13		6-8	非生土層	面	(24.0)	2.8		2.5YR5/8 明赤褐色 5YR7/8 褐色	φ1-3mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ナヅ
第3405-14		6-8	非生土層	面		5.0	7.0	5YR8/4 黄褐色 5YR8/2 灰白色	φ1-3mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ハナ、ナヅ
第3405-15		6-8	非生土層	面		4.6		2.5YR5/8 明黄褐色 2.5YR5/8 明黄褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	
第3405-16		6-8	非生土層	面		2.2		5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1-4mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ハナ、ナヅ
第3405-17		6-8	非生土層	高坪	(26.0)	15.0		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1-5mmの長石、石英、 母を含む/丸	ハナ、ナヅ
第3405-18		6-8	非生土層	高坪		11.3		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ハナ、ナヅ、タシラ、マメツ
第3405-19		6-8	非生土層	高坪	(17.6)	17.0		10R5/6 赤色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1-4mmの長石、石英、 母を含む/丸	ハナ、ナヅ、角閃岩
第3405-20 10-②		6-8	非生土層	高坪	(20.0)	(15.5)	(13.1)	7.5YR7/4 にじい・褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1-5mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	黒河、不明砂、ナヅ
第3405-21		6-8	非生土層	高坪		9.2	(14.2)	7.5YR8/1 灰白色 7.5YR8/1 灰白色	φ1-2mmの長石、石英、 母を含む/丸	マメツ、ナヅ
第3405-22		6-8	非生土層	高坪		16.2	(14.2)	10YR8/2 灰白色 10YR8/2 灰白色	φ1-4mmの長石、石英を多 く含む/丸	タシラ、ナヅ
第3405-23		6-8	非生土層	高坪		8.3		2.5YR5/8 明赤褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	黒河、ナヅ、ハナ、マメツ、シ ズリ
第3405-24		6-8	非生土層	砂	6.4	4.9	2.6	7.5YR7/4 にじい・褐色 7.5YR7/4 にじい・褐色	φ1-3mmの長石、石英、 角閃石を含む/丸	ナヅ、角閃岩ナヅ
第3405-25		6-8	非生土層	砂		3.2		2.5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1-2mmの黒色砂子を含む/丸	
第3405-26		6-8	非生土層	砂		3.8		2.5YR5/8 明赤褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	φ1mmの長石、石英を含む/丸	
第3405-27		6-8	非生土層	面付	(11.2)	8.4		10R5/8 赤色 5YR6/8 褐色	φ1-3mmの長石、石英を含む/丸	ナヅ、ナヅ、後米
第3405-28		6-8	非生土層	面付		18.7		10R5/8 赤色 5YR6/8 褐色	φ1-3mmの長石、石英、 母を含む/丸	シズリ、後米ナヅ、後米
第3405-29		6-8	非生土層	面付		6.2		2.5YR5/8 明黄褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1-4mmの長石、石英を含む/丸	ナヅ
採取 番号	図版 番号	層位	種類	図様	径長 最大長	最大短	最大厚	重量 (g)	石種	備考
第3405-9	4-5	石製品	石包丁		(3.9)	4.2	0.6	14.3	砂岩	
第3405-10	1-3	石製品	碇石		35.4	21.8	10.4	5.079	砂岩	

採石場番号	採出番号	採出位置	種類	用途	仕様 cm (寸法)				色調	鉱土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	高さ	底径	外: 内:				
SK11	第30回-1	2	砂生土層	壁	(27.2)	15.4		5Y6B/8 5Y6B/8	褐色 褐色	φ1-1.5mの最良石灰蒸 母を均等に含むもの	ナダハク、マメタ	
	第30回-2	2	砂生土層	壁		6.7		10Y8B/4 10Y8B/8	暗黄褐色 黄褐色	φ1-1.5mの最良石灰蒸 母を含有したもの	ナダハク	

探出 番号	探出 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (寛x縦)			内: 外:	色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
					口径	底高	底径					
3521	第39段-1	2	赤生土層	底	(23.4)	5.7		5YR6/8 7.5YR6/8	褐色 褐色	赤1-5mmの鉄石,石莖を含む 瓦	マメツ	
	第39段-2	1	赤生土層	底		6.9	9.7	2.5YR6/9 10YR6/1	褐色 褐色/灰色	赤1-2mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ハク,ナデ	
	第39段-3	2	赤生土層	底		5.0	(7.3)	7.5YR7/3 7.5YR6/2	じいじい・褐色 灰褐色	赤1-2mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ナデ	
	第39段-4	3	赤生土層	腰	(34.0)	9.9		7.5YR7/4 7.5YR7/4	じいじい・褐色 じいじい・褐色	赤1-2mmの鉄石,石莖を含む 瓦	ハク,ハク焼ナデ,正具ナデ	
	第39段-5		赤生土層	腰	(35.2)	12.0		10YR6/6 10YR6/6	暗黄褐色 暗黄褐色	赤1-2mmの鉄石,石莖を含む 瓦	ナデ,ハナツ,マメツ	
	第39段-6	2	赤生土層	腰		8.7		10YR6/6 10YR6/6	暗黄褐色 暗黄褐色	赤1-3mmの鉄石,石莖を含む 瓦	ナデ,ハナツ,マメツ	
	第39段-7	2	赤生土層	腰		15.6		7.5YR6/8 7.5YR6/8	褐色 褐色	赤1-2mmの鉄石,石莖を含む 瓦	黒肌ハナツ,ナデ,マメツ	
	第39段-8	2	赤生土層	腰		12.1		7.5YR6/2 7.5YR6/2	灰褐色 灰褐色	赤1-3mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ハク,ナデ	
	第39段-9	3	赤生土層	腰		9.2	(7.8)	10YR7/3 10YR5/2	じいじい・黄褐色 灰黄褐色	赤1-2mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ハク,ナデ	
	第39段-10	3	赤生土層	腰		8.4	7.2	10YR7/4 10YR7/6	じいじい・黄褐色 暗黄褐色	赤1-4mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ハク,ナデ	
	第39段-11	3	赤生土層	腰		7.7	7.2	5YR6/8 7.5YR6/8	褐色 褐色	赤1-3mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ナデ	
	第39段-12	2	赤生土層	腰		7.3	7.0	7.5YR7/4 7.5YR6/1	じいじい・褐色 褐色/灰色	赤1-2mmの鉄石,石莖,炭角屑を含む瓦	ハク,ナデ	
探出 番号	探出 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (寛x縦)			内: 外:	色調	胎土・焼成	成形・調整技法	備考
最大径	最大径	最大径	最大厚	重 (g)								
第39段-13	2	焼土		9.2	6.2	152.2	5YR6/8 5YR6/8	褐色 褐色	赤1-5mmの鉄石,石莖を含む 瓦			最大径 4.1m
探出 番号	探出 番号	層位	種類	岩種	径長 cm (寛x縦)			重 (g)	石種	備考		
最大径	最大径	最大径	最大厚	最大厚								
第543段-11		石製品	片方石弁	3.8	3.5	0.8	21		片岩			
第543段-12	3	石製品	鉋石	8.3	7.0	6.3	390		瀬灰岩			
第543段-13	2	石製品	磨製石弁	14.95	7.8	4.0	810		安山岩	流紋岩が磨しい		

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	位置 cm (貫入深)			色調	粘土構成	成形・調整技法	備考	
					口徑	底径	底径 内: 外:					
3822	第41図-1	10-④	2	粘土土層	炭	(31.2)	14.6	7.5YR6/9 7.5YR6/9	浅黄褐色 黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ハケ、メダシ	
	第41図-2	3	粘土土層	炭			4.9	7.5YR6/2 7.5YR6/3	灰褐色 じい・褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油		
	第41図-3	4	粘土土層	炭			12.4	7.5YR7/3 7.5YR7/4	じい・褐色 じい・褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ナデ、ミダシ、メダシ、ナデ、 指のナデ、メダシ	
	第41図-4	3	粘土土層	炭			9.5	7.5YR7/2 10YR7/2	黄褐色 じい・黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ハケナデ、ミダシ、メダシ、 炭屑	
	第41図-5	5	粘土土層	炭			(8.7)	7.5YR6/6 7.5YR6/6	浅黄褐色 浅黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ナデ	
	第41図-6	3	粘土土層	炭			5.2	2.5Y4/1 10YR7/4	黄褐色 じい・黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ナデ	
	第41図-7	2	粘土土層	炭			4.6	2.5Y6/2 10YR7/3	灰黄色 じい・黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	穿孔ナデ	
採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	位置 cm (貫入深)			色調	粘土構成	成形・調整技法	備考	
口徑	底径	底径 内: 外:										
第41図-8	10-④	3	粘土土層	炭	25.8	14.6	7.4	2.5YR7/4 7.5YR6/3	黄赤褐色 浅黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ナデ、炭屑	
採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	位置 cm (貫入深)			色調	粘土構成	成形・調整技法	備考	
口徑	底径	底径 内: 外:										
第41図-9		5	粘土土層	炭	(35.4)	12.0		5YR6/6 5YR6/6	褐色 褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	ハケ、ナデ、ナデ・機械ナデ、ハケ	
第41図-10		3+4	粘土土層	炭		7.0	7.0	10YR7/6 7.5YR7/6	暗黄褐色 黄褐色	①1-2mmの長石・石英 母を含む/油	メダシ	

第41図-11	5	非生土層	壁		5.9	5.0	2.5YR6/6 褐色 5YR5/6 明赤褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ	
第41図-12	4	非生土層	壁		6.5	7.0	5YR6/8 褐色 5YR5/8 明赤褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ハケ、ナデ、掘削	
第41図-13	4	非生土層	壁		6.5	7.6	2.5YR7/8 褐色 5YR5/1 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナデ	
押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			重量 (g)	土質	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
第54図-14	3	石製品	石斧		7.9	4.6	1.4	64	笠山岩	
第54図-15	3	石製品	投石		4.0	3.4	3.1	62	瀬戸岩	
第54図-16	2	石製品	碇石		14.8	14.5	8.4	2486	砂岩	

押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			色調	土質・構成	成形・調整技法	備考
					口幅	底幅	底径	内: 外:			
5828	第41図-14	2	非生土層	壁	(31.6)	4.8		10YR7/4 に上・黄褐色 10YR7/4 に上・黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	マメツ	
	第41図-15	2	非生土層	壁		4.7		5YR6/8 褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ハケ、ナデ	ペル ト
	第41図-16	2	非生土層	壁		17.6		10YR6/3 浅黄褐色 10YR5/3 浅黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナデ、ハケ、洋明	
	第41図-17	2	非生土層	壁	(17.0)	6.5		7.5YR7/8 褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ハケ、ナデ	ペル ト
	第41図-18		非生土層	壁		13.0		7.5YR6/4 に上・褐色 7.5YR6/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	掘削	
	第41図-19	3	非生土層	壁		7.7		5YR6/1 灰色 7.5YR7/8 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む /頁	ハケ、ナデ	
	第41図-20		非生土層	壁	(15.2)	10.5		7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR4/2 灰褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む /頁	掘削、工及ナデ、ハケ	
	第41図-21	2	非生土層	壁		9.5		7.5YR7/4 に上・褐色 7.5YR7/3 に上・褐色	φ1mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ハケ、ナデ	
	第41図-22	2	非生土層	壁		3.2		7.5YR4/2 灰褐色 7.5YR4/2 灰褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ	
	第41図-23		非生土層	壁		5.4		7.5YR6/6 褐色 5YR6/6 褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ	
押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			色調	土質・構成	備考	
					口幅	底幅	底径	内: 外:			
	第41図-24		土		7.2	6.2	125	10YR6/3 浅黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	φ1mmの長石、石英を少量 含む/頁	最大厚4.3	
押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			色調	土質・構成	成形・調整技法	備考
					口幅	底幅	底径	内: 外:			
	第42図-25	2	非生土層	壁		11.1	(9.6)	5YR5/6 明赤褐色 5YR6/8 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ	
	第42図-26	3	非生土層	壁		7.5	11.3	10YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪を含む/頁	マメツ	
	第42図-27		非生土層	壁		7.6	4.9	2.5YR5/6 明赤褐色 7.5YR6/4 に上・褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ、ハケ	ペル ト出 品
	第42図-28	3	非生土層	壁		16.5	6.1	5YR7/8 褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナデ、ハケ	
	第42図-29	2	非生土層	壁		6.2	8.1	7.5YR7/8 褐色 7.5YR6/2 灰褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む /頁	ナデ、掘削後ナデ	
	第42図-30	3	非生土層	壁		3.7	(8.4)	10YR7/4 に上・黄褐色 10YR7/3 に上・黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ハケ、ナデ	
押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			色調	土質・構成	備考	
					口幅	底幅	底径	内: 外:			
	第54図-17	1	石製品	片刃打石	6.1	3.6	0.7	27.5			
	第54図-18	1	石製品	石斧	7.9	3.2	0.6	21.5	砂岩		
	第54図-19	2	石製品	碇石	8.6	6.7	6.7	408.0	砂岩		
	第54図-20	1	石製品	不明製品	3.7	3.8	0.5	33.0	—		

押込 番号	図版 番号	層位	種類	図種	法量 cm (覆尺)			色調	土質・構成	成形・調整技法	備考
					口幅	底幅	底径	内: 外:			
5830	第42図-31	1	非生土層	壁		6.1		7.5YR8/4 浅黄褐色 7.5YR8/3 浅黄褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/頁	ナデ	
	第42図-32		非生土層	壁		3.0	(5.9)	5YR7/8 褐色 7.5YR7/3 に上・褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪を含む/頁	ナデ	トリ ンチ 出土
	第42図-33	1	非生土層	壁		2.7	(8.4)	7.5YR7/6 褐色 7.5YR4/1 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪を含む/頁	マメツ、ナデ	

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK31	第42図-34	1	非生土層	炭	(21.8)	7.3		10YR5/6 黄褐色 10YR5/6 黄褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む	メッシュ	
	第42図-35		非生土層	炭		4.8	6.8	10R6/8 赤褐色 5YR5/3 に近い赤褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母を含む	ナデ	
	第42図-36	1	非生土層	炭		7.3	6.9	7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母、角閃石を含む	ナデ	

採掘 番号	図例 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK32	第42図-37		非生土層	炭		11.5		10YR7/4 に近い黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 角閃石を含む	指図圧縮、横ハテ、ナデ、メ ッシュ	
	第42図-38		非生土層	炭		10.1	6.8	2.5YR6/5 褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~4mmの長石、石英、 母を含む	ナデ、メッシュ	
採掘 番号	図例 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	石種	備考	
					最大径	最大幅	最大厚				
第50図-21			石製品	打石	23.9	25.0	7.7	5.062		砂岩	

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK33	第42図-39		非生土層	炭		24.0	23.3	7.5YR6/4 に近い褐色 7.5YR6/4 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英、 角閃石を含む	ナデ、ハテ、ナデ、決定	
	第42図-40		非生土層	炭	(18.6)	15.7		5YR5/6 明赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	φ1mmの長石、石英を含む		

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石/構成	成形・調整技法	備考	
					口径	断面	底径					
SK34	第42図-41	8~10	非生土層	炭	(25.2)	19.5		7.5YR6/4 7.5YR6/6	に近い褐色 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母、角閃石を含む	ナデ、横ハテ、断面	
	第42図-42	11	非生土層	炭		15.0		7.5YR6/6 5YR6/4	褐色 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母、角閃石を含む	ナデ、ハテ	
	第42図-43	11	非生土層	炭		9.7		7.5YR7/6 7.5YR7/8	黄褐色 黄褐色	φ1mmの長石、石英を含む	ハテ、工具ナデ、指図圧縮、メ ッシュ	
	第42図-44	11	非生土層	炭		9.3	8.5	7.5YR6/4 7.5YR6/4	褐色 に近い褐色	φ1~4mmの長石、石英、 角閃石を含む	ハテ、ナデ	
	第42図-45	8~10	非生土層	炭		20.8	7.2	5YR4/6 5YR4/6	赤褐色 赤褐色	φ1~4mmの長石、石英、 角閃石を含む	ナデ、ハテ、横ナデ	
	第42図-46	11	非生土層	炭		8.4	7.6	10YR6/4 10YR4/1	に近い黄褐色 黄褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む	ナデ	
採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			重量 (g)	石種	備考		
					最大径	最大幅	最大厚					
第50図-22	1	石製品	柱状片 打石		5.1	5.1	1.0	9.3	頁岩			
第50図-23	6	石製品	碇石		14.0	4.0	1.3	140	砂岩	砂岩		

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK35	第43図-1		非生土層	炭		8.8		2.5Y7/3 浅黄褐色 2.5Y7/3 浅黄褐色	φ1~5mmの長石、石英、 母を含む	ハテ、メッシュ、ハテ、横ハテ	
	第43図-2		非生土層	炭	(20.8)	11.0		7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/6 褐色	φ1~7mmの長石、石英を含む	メッシュ、ナデ、横ハテ、 斜ハテ	
	第43図-3		非生土層	炭		8.5	6.1	5YR5/6 明赤褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む	断面、ハテ、ナデ、メッシュ	

採掘 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫入部)			色調	鉱石構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK36	第43図-4	3	非生土層	小砂	(9.2)	(14.1)	6.1	7.5YR5/3 に近い褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1~5mmの長石、石英を含む	メッシュ、指図圧縮、メ ッシュ	
	第43図-5	11~15	3	非生土層	炭	(25.2)	24.1	7.0	7.5YR7/6 褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 母、角閃石を含む	メッシュ、ナデ
	第43図-6	1	非生土層	炭	(30.2)	18.3		7.5YR6/4 に近い褐色 7.5YR6/4 褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む	ナデ、ハテ、メッシュ	
	第43図-7	3	非生土層	炭		9.2		7.5YR7/6 褐色 2.5YR6/6 褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む	ハテ、ナデ	
	第43図-8	1	非生土層	炭		28.3	9.1	7.5YR6/6 黄褐色 10YR7/6 明黄褐色	φ1~5mmの長石、石英を含む	ナデ、断面	
	第43図-9	3	非生土層	炭		28.5	10.2	10YR7/6 明黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1~5mmの長石、石英、 角閃石を含む	メッシュ、ナデ、断面	
	第43図-10	1	非生土層	炭		6.0	6.4	5YR6/8 褐色 7.5YR6/6 明黄褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む	ハテ、メッシュ	

第43図-11	1	非生土層	壁		8.2	6.7	2.5YR6/8 褐色 7.5YR6/4 に近い褐色	φ1～5mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	マメツ、ナツ、黒炭	
第43図-12	11⑤	3	非生土層	炭 (19.2)	11.2		10YR5/2 灰褐色 10YR5/2 灰褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭	ハケ、ナツ、ハキ、炭ミダキ	黒炭 5.8g
第43図-13	3	非生土層	炭		6.2		7.5YR6/8 浅黄褐色 7.5YR3/1 黒褐色	φ1～2mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ナツ	黒炭 5.8g

探検 番号	図版 番号	層位	種類	距離	法量 cm (復元図)			色調	粘土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	底径				
SK41	第43図-14	12⑤	非生土層	源石	(11.7)	17.9	(14.4)	2.5YR7/8 褐色 10YR5/8 黄褐色	φ1～5mmの炭石、石炭、角閃石を含む/炭	マメツ	
	図版 番号	図版 番号	層位	種類	距離	法量 cm (復元図)		重量 (g)	石種	備考	
	第43図-14		非生土層	白行	16.2	16.8	6.3	2.790	砂岩		

探検 番号	図版 番号	層位	種類	距離	法量 cm (復元図)			色調	粘土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	底径				
SK42	第44図-1	5-8	非生土層	炭	7.2			2.5YR5/8 明赤褐色 7.5YR6/8 褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	黒炭	
	第44図-2	12⑤	4	非生土層	炭 (17.2)	18.2	5.0	5YR6/8 褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	ハケ、ナツ	
	第44図-3	12⑤	8	非生土層	炭 (22.0)	27.6	6.9	7.5YR6/8 浅黄褐色 7.5YR7/8 褐色	φ1～2mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	黒炭	
	第44図-4	8	非生土層	炭	11.2			10YR5/1 黄褐色 7.5YR7/8 に近い褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	ハケ、ナツ、黒炭、ナツミダキ	
	第44図-5	8	非生土層	炭	12.3	8.2		7.5YR7/8 褐色 10YR5/8 浅黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ナツ、ミダキ	
	第44図-6	8	非生土層	炭	5.9	9.2		2.5Y/2 暗灰黄色 2.5Y/1 黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ハケ、炭ミダキ、ナツ	
	第44図-7	8	非生土層	炭	7.5	6.2		10YR5/2 に近い黄褐色 10YR5/2 に近い黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	ハケ、ナツ、黒炭	
	第44図-8	8	非生土層	炭	7.3	(12.4)		10YR5/2 に近い黄褐色 10YR5/2 浅黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ハケ、ナツ	
	第44図-9	4	非生土層	炭	6.9	6.7		10YR5/8 浅黄褐色 10YR5/3 黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ハケ、ナツ、マメツ、工具ナツ	
	図版 番号	図版 番号	層位	種類	法量 cm (復元図)		重量 (g)	色調	粘土・構成	備考	
	第44図-10		8	焼土	9.4	7.1	407.0	7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭		

探検 番号	図版 番号	層位	種類	距離	法量 cm (復元図)			色調	粘土・構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径	底径				
SK43	第45図-1	12⑤	中	非生土層	炭 (25.3)	42.7	(10.6)	7.5YR5/6 明黄褐色 7.5YR2/3 黒褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭	キザミ、ナツ、ミダキ、羽状文、黒炭	
	第45図-2		上・中・下	非生土層	炭 (24.2)	45.0	11.0	2.5YR5/8 明赤褐色 2.5YR5/8 明赤褐色	φ1～4mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	黒炭、ミダキ、ナツ、ハケ	
	第46図-3	中	非生土層	炭 (17.8)	9.8			10YR5/4 浅黄褐色 10YR7/3 に近い黄褐色	φ1～4mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ナツ	
	第46図-4	上	非生土層	炭 (10.8)	27.4			5YR5/2 灰褐色 7.5YR6/2 灰褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭	ハケ、ナツ、黒炭	
	第46図-5	12⑤	中	非生土層	炭	23.1	7.2	2.5YR6/8 褐色 5YR7/6 褐色	φ1～2mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ハケ、ナツ	
	第46図-6	中	非生土層	炭	12.1			10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/4 に近い黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭	ナツ、マメツ、ハケ	
	第46図-7	中	非生土層	炭	16.0			10YR5/4 浅黄褐色 10YR5/4 浅黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭を含む/炭	ハケ	
	第46図-8	中	非生土層	炭	14.7			10YR4/2 灰黄褐色 10YR6/2 に近い黄褐色	φ1mmの炭石、石炭を含む/炭	ミダキ、ナツ、ハケ	
	第46図-9	中	非生土層	炭	8.1	5.0		5YR6/6 褐色 5YR6/6 褐色	φ1mmの炭石、石炭を含む/炭	ナツ、ハケ、マメツ	
	第46図-10	中	非生土層	炭	18.4	8.0		10YR5/8 黄褐色 10YR5/8 黄褐色	φ1～5mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	ハケ、ミダキ	
	第46図-11	上	非生土層	炭	13.4	10.8		10YR5/2 灰白色 10YR5/2 灰白色	φ1～3mmの炭石、石炭、角閃石を含む/炭	ミダキ、ハケ	
	第46図-12	中	非生土層	炭	14.8	8.9		10YR5/4 に近い黄褐色 10YR5/2 に近い黄褐色	φ1～4mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	黒、ハケ	
	第46図-13	上	非生土層	炭	13.9	10.4		10YR6/2 に近い黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1～3mmの炭石、石炭、炭母、角閃石を含む/炭	ナツ、ナツ	
	第46図-14	上	非生土層	高圧層部	6.3	5.8		7.5YR6/2 浅黄褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1～2mmの炭石、石炭、炭母を含む/炭	ナツ、ミダキ	
	図版 番号	図版 番号	層位	種類	法量 cm (復元図)		重量 (g)	色調	粘土・構成	備考	
	第46図-15		中	焼土	6.1	4.6	53.0	7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	最大厚2.6cm		

採出 番号	採取 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			重量 (g)	石種	備考
					最大径	最大幅	最大厚			
第55図-25		中	石製品	磁石	5.3	3.75	0.95	30	細粒砂岩	
第55図-26		中	石製品	すり石	9.9	9.4	6.7	654	安山岩	

採出 番号	図版 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)		色調	胎土構成	成形・調整技法	備考
					口径	底径				
SK44	第47図-1	9	弥生土層	産	17.0		7.5YR6/4 にじい・褐色 2.5Y3/1 黒褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 角石を含む/法	ミダテ, 筒状文・メダツ	
	第47図-2	9	弥生土層	産	20.0	11.6	10YR7/6 明赤褐色 5Y10/6 褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ハタ・ナデ・キザ・黒炭	
	第47図-3	9	弥生土層	産	17.6		10YR6/4 にじい・黄褐色 10YR6/4 にじい・黄褐色	φ1~2mmの砂粒・厚母を 多く含む/法	ハタ・ミダテ・ナデ・黒炭	
	第47図-4	4~7	弥生土層	産	17.1		10YR8/5 浅黄褐色 10YR8/5 浅黄褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母・角石を含む/法	ミダテ, 筒状文・メダツ	最大径 34.6mm
	第47図-5	9	弥生土層	関	(30.4)	21.5	7.5YR7/6 褐色 7.5YR6/6 浅黄褐色	φ1~2mmの長石・石英を含む /法	ハタ・メダツ	
	第47図-6	9	弥生土層	関		7.5	7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/6 褐色	φ1~2mmの長石・石英を含む /法	メダツ	
	第47図-7	9	弥生土層	関	30.0		7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/6 褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母・角石を含む/法	ハタ	
	第47図-8	9	弥生土層	関	6.4	6.6	5YR6/6 褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ナデ	
	第47図-9	2~4	弥生土層	関	6.4	6.3	7.5YR7/4 にじい・褐色 2.5YR6/6 褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母・角石を含む/法	ナデ	
	第47図-10	9	弥生土層	関	13.2	6.8	7.5YR7/6 褐色 7.5YR5/6 褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母・角石を含む/法	ハタ・ナデ・黒炭	

採出 番号	図版 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	底高	底径				
SK47	第50図-1	1	弥生土層	産	4.9	7.5YR5/3 7.5YR6/6	にじい・褐色 褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ナデ・ハタ・キザ・ハタリ		
	第50図-2	2~3	弥生土層	関	9.4	10YR7/3 10YR7/4	黒褐色 にじい・黄褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ハタ・ナデ		
	第50図-3	2~3	弥生土層	産	4.8	5YR5/6 10YR6/6	明赤褐色 黄褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母・角石を含む/法	ナデ・ハタ・ハタリ		

採出 番号	図面 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	径高	底径				
SK52	第50図-4	1	弥生土層	関	26.9	8.93		7.5YR6/9 7.5YR7/4	褐色 にじい・褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ハタ
	第50図-5	1	弥生土層	産	7.4	13.7	(10.7)	7.5YR7/3 7.5YR6/3	にじい・褐色 浅黄褐色	φ1~2mmの長石・石英・ 母を含む/法	ナデ
	第50図-6	1	弥生土層	産	5.0	9.0		7.5YR7/4 7.5YR6/2	にじい・褐色 褐色	φ1mmの長石・石英・ 母を含む/法	ハタ・ナデ

採出 番号	図面 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			色調	胎土構成	成形・調整技法	備考
					口径	径高	底径				
SK60	第50図-7	弥生土層	産	2.4	7.5YR7/6 7.5YR7/6	褐色 褐色		φ1~2mmの長石・石英を含む/法	ナデ		
	第50図-8	弥生土層	産	2.2	7.5YR8/3 7.5YR8/3	灰白色 浅黄褐色		φ1mmの長石・石英・母を含む/法	ナデ		
	第50図-9	弥生土層	産	6.6 (8.8)	7.5YR7/6 10YR7/4	褐色 にじい・黄褐色		φ1~2mmの長石・石英を含む/法	ハタ・ナデ		

採出 番号	図記 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	径高	底径				
SK61	第50図-10	弥生土層	関	2.2	7.5YR7/8 7.5YR6/6	褐色 褐色	φ1mmの長石・石英・ 母を含む/法	ナデ	(ナ) 底		
	第50図-11	弥生土層	関	1.4	5YR6/8 5YR6/8	褐色 褐色	φ1mmの長石・石英・ 母を含む/法	ナデ	(ナ) 底		

採出 番号	図版 番号	層位	種類	産種	径長 cm (貫光部)			重量 (g)	石種	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
SK64	第55図-27		石製品	割片	5.0	1.6	0.5	4.2	ササキイ	

採坑 番号	図説 番号	単位	種類	岩種	法量 cm (換元値)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK07	第50図-12		弥生土層	炭				10YR5/4 浅黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭を含む/炭	ハケ、ナデ	

採坑 番号	図説 番号	単位	種類	岩種	法量 cm (換元値)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK120	第50図-13		弥生土層	炭		8.1	7.2	10B6/9 赤褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~4mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ナデ	

採坑 番号	図説 番号	単位	種類	岩種	法量 cm (換元値)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	断面	底径				
SK125	第51図-1	2	弥生土層	炭		20.0	8.0	10YR5/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ後ミダキ、マメツ	底径φ6.4g
		2	弥生土層	炭	(20.6)	9.6		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭を含む/炭	ハケ、マメツ、ナデ、ミダキ	
		2	弥生土層	炭		15.8		7.5YR7/6 明黄褐色 7.5YR7/6 明黄褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ	底径φ4.2g
		2	弥生土層	炭	15.5	9.0		7.5YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ、黒炭	
		14①	2	弥生土層	炭	(25.6)	29.9	7.2YR6/4 黄褐色 10YR6/4 に近い黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ、ナデ、厚丸	
		2	弥生土層	炭	(24.4)	13.0		7.2YR7/2 明褐色 7.5YR7/2 明褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ、黒炭	
		2	弥生土層	炭	(20.8)	16.6		2.5YR5/6 明赤褐色 2.5YR5/6 明赤褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、角閃石を含む/炭	ナデ、ハケ、マメツ	
		2	弥生土層	炭	(15.6)	10.6		7.5YR7/2 に近い褐色 7.5YR7/2 に近い褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ、黒炭	
		2	弥生土層	炭	(19.6)	5.7		10YR7/2 に近い黄褐色 10YR7/2 に近い黄褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	黒炭、ミダキ、ナデ、ハケ	
		2	弥生土層	炭		9.2		2.5Y5/1 黄灰色 2.5Y6/1 黄灰色	φ1~4mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ハケ、ナデ	
SK126	第52図-12	2	弥生土層	炭	(22.0)	11.2		10YR6/4 明黄褐色 10YR7/6 明黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ、黒炭	
		2	弥生土層	炭	(24.2)	15.6		10YR7/2 に近い黄褐色 7.5YR7/2 に近い黄褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ナデ、ハケ、ナデ後ナデ	底径φ15g
		2	弥生土層	炭	16.1	9.0		7.2YR7/6 黄褐色 7.5YR7/6 黄褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭を含む/炭	マメツ、ナデ、黒炭	
		2	弥生土層	炭		9.2	5.4	10YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ナデ、ミダキ	
		2	弥生土層	炭	6.0	6.2		7.5YR6/2 灰褐色 7.5YR7/2 に近い褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ナデ、ミダキ	
		2	弥生土層	炭	6.8	10.0		7.5YR6/6 明黄褐色 7.5YR7/1 灰褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	マメツ、ナデ	
		2	弥生土層	炭		10.5	7.8	10YR7/6 明褐色 10YR7/6 明褐色	φ1mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ミダキ、ナデ、マメツ	
		2	弥生土層	炭		5.3	6.6	2.5YR7/6 褐色 7.5YR7/2 明褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ナデ	
		2	弥生土層	炭		9.4	5.1	10YR6/3 浅黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	φ1~4mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	黒炭、ハケ、ナデ、マメツ	
		2	弥生土層	炭		15.0	6.1	5YR7/2 明褐色 7.5YR6/2 灰白色	φ1~3mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	指圧前後ナデ、マメツ	
SK127	第53図-1	2	弥生土層	炭		13.5	6.7	5YR7/2 明褐色 7.5YR6/2 灰白色	φ1mmの炭粒、石炭を含む/炭	工具ナデ後ナデ、工具ナデ、ナデ、ハケ、マメツ	
		2	弥生土層	炭		10.0	7.4	10YR7/2 に近い黄褐色 10YR7/2 に近い黄褐色	φ1mmの炭粒、石炭を含む/炭	ハケ、マメツ	
		2	弥生土層	炭		6.3	6.0	10YR6/2 浅黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	φ1mmの炭粒、石炭、炭粒を含む/炭	ミダキ、工具組、ハケ後ミダキ、ナデ	
		2	弥生土層	炭		8.8	7.6	7.5YR6/6 浅黄褐色 2.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ後内面ナデ、ナデ、黒炭	
		2	弥生土層	炭		10.8	5.4	2.5YR7/6 褐色 2.5YR7/1 赤褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ、ナデ	
		2	弥生土層	炭		10.6	6.6	7.5YR6/6 黄褐色 7.5YR6/1 黄褐色	φ1~6mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ、ナデ	
SK130	第53図-1	14①	2	弥生土層	炭	(26.6)	13.7	10YR6/3 黄褐色 10YR5/4 に近い黄褐色	φ1~3mmの炭粒、石炭、炭粒、角閃石を含む/炭	ハケ後前後ナデ、ハケ、ミダキ、ミダキ、赤色顔料	
		5	弥生土層	炭		6.5		7.5YR7/6 黄褐色 7.5YR6/6 浅黄褐色	φ1~4mmの炭粒、石炭を含む/炭	マメツ、ナデ	

第5305-3	2	粘土土層	層	(32.3)	14.5	7.5YR6/4 浅黄褐色 7.5YR6/4 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英、 緑、角閃石を含む/頁	ハナ、ナダ、黒川底	
第5305-4	2	粘土土層	層		4.8 6.3	5YR6/8 褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁	ナダ	
第5305-5	2	粘土土層	層		7.1 7.6	2.5YR6/8 褐色 7.5YR5/2 灰褐色	φ1~5mmの黄石、石英を含む/頁	ハナ、ナダ	
第5305-6	4	粘土土層	層		4.8 5.6	7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/8 黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁	ナダ、黒川底	

採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	断面	底径				
SK335	第5305-7	1	粘土土層	層		12.6		5YR5/4 に近い赤褐色 7.5YR6/3 に近い褐色	φ1~4mmの長石、石英、 緑、角閃石を含む/頁	ハナ、ナダ、黒川底	
	第5305-8	1	粘土土層	層		4.6 8.0		5YR6/4 に近い褐色 7.5YR6/4 浅黄褐色	φ1~4mmの長石、石英、 緑を含む/頁	ハナ、ナダ	
採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			重量 (g)	石種	備考	
					最大径	最大幅	最大厚				
第5305-30		1	鉄製品	不明製品	3.7	2.7	0.3	15.8	—		

採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	断面	底径				
SK344	第5305-9	1	粘土土層	層	(22.0)	11.1		7.5YR5/3 に近い褐色 7.5YR7/4 に近い褐色	φ1~6mmの長石、石英、 母を含む/頁	ハナ、ナダ	
	採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			重量 (g)	石種	備考
						最大径	最大幅	最大厚			
第5305-10		1		粘土土層		2.8	2.6	10.9	7.5YR5/9 明褐色 7.5YR5/9 明褐色	黒川底	重量 11g
第5305-28				石製品	磁石	5.3	2.1	1.85	33	砂岩	
第5305-29		2	石製品	磁石	10.5	8.0	5.9	52.15		磁砂岩	

採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	断面	底径				
SK345	第5305-11	2	土師器	陶	(14.0)	4.1		2.5YR6/8 褐色 2.5YR6/8 褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/頁		
	第5305-12	2	土師器	甕	(16.6)	17.3		5YR6/8 褐色 5YR6/8 褐色	φ1~5mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁		

採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	断面	底径				
ST36	第5405-1	4-5	粘土土層	層		(12.0)		5YR4/4 に近い赤褐色 7.5YR6/9 褐色	φ1mmの長石、角閃石を少し含む/頁		
	第5405-2 (15-2)	4-5	粘土土層	層	(19.5)	25.4	6.7	2.5YR5/6 明赤褐色 5YR4/2 灰褐色	φ1~5mmの長石、石英を含む/頁	ナダ	
第5405-3		4-5	粘土土層	層	(27.0)	16.8		7.5YR5/2 灰褐色 7.5YR6/2 褐色	φ1~7mmの長石、石英、 緑を含む/頁	ナダ、ハナ、黒川、うすい黒川、 赤土	
第5405-4		4-5	粘土土層	層		4.2 4.3		10YR2/3 に近い黄褐色 10YR6/2 灰褐色	φ1~5mmの長石、石英を含む/頁	ナダ	
第5405-5		4-5	粘土土層	層		14.5 6.6		5YR6/6 褐色 7.5YR5/2 灰褐色	φ1~4mmの長石、石英、 角閃石を含む/頁	ナダ、ハナ	

採掘 番号	図版 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (変光部)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	断面	底径				
ST37	第5405-6	東西 3	粘土土層	層		7.4		7.5YR7/4 に近い褐色 10YR2/4 に近い黄褐色	φ1~8mmの長石、石英を含む/頁	ナダ、ハナ	
	第5405-7	東西 3	粘土土層	層		7.8		7.5YR6/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~3mmの長石を含む/頁	ナダ	
第5405-8		東西 3	粘土土層	層		6.4		7.5YR7/6 褐色 7.5YR6/6 浅黄褐色	φ1~5mmの長石、石英、 緑、角閃石を含む/頁	ナダ	
第5405-9		東西 3	粘土土層	層		3.6		10YR2/2 黒褐色 10YR2/2 黒褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/頁	ナダ、黒川	
第5405-10		東西 3	粘土土層	層		8.8 6.3		2.5YR6/8 褐色 7.5YR6/3 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/頁	ナダ、ハナ、ウズメ	
第5405-11		東西 3	粘土土層	層		6.0 7.6		7.5YR6/8 褐色 7.5YR6/4 に近い褐色	φ1~3mmの長石、石英を含む/頁	ナダ、ハナ	
第5405-12		東西 3	粘土土層	層		12.4 7.3		7.5YR7/8 黄褐色 7.5YR5/3 に近い褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む/頁	ナダ、ハナ	

	採出 番号	図面 番号	種類	岩種	法量 cm (実尺)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	高さ	底径				
ST75	第62図-1	16-①	粘土土層	変	45.1	57	9.5	7.5YR5/4 にぶい褐色 10YR2.2/3 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ、ハケ、蒸子	全形 前・ 上壁
	第62図-2	16-②	粘土土層	変	(45.0)	56.3	(3.3)	10YR5/4 にぶい黄褐色 10YR6.6/4 明黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ、ハケ、蒸子	全形 前・ 下壁

採出 番号	図面 番号	部位	種類	岩種	法量 cm (実尺)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	高さ	底径				
ST180	第62図-3	17-②	粘土土層	変	37.2	50.4	12.2	10YR7/8 黄褐色 10YR7/8 黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ、ハケ、蒸子によるナヅ、工 具による調整、蒸子	全形 前

採出 番号	図面 番号	部位	種類	岩種	法量 cm (実尺)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	高さ	底径				
ST185	第62図-4	18-①	粘土土層	変	(24.2)		5.6	7.5YR6/4 浅黄褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~4mmの長石、石英を含む/法	マメコ	

採出 番号	図面 番号	部位	種類	岩種	法量 cm (実尺)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口徑	高さ	底径				
SP	第63図-1		粘土土層	変	(7.0)	4.3		5YR6/6 褐色 10YR2/2 にぶい黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ	
	第63図-2		粘土土層	変		15.3		10R6/9 赤褐色 10YR2/2 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ	
	第63図-3		粘土土層	変	(15.4)	2.9		7.5YR7/4 にぶい褐色 7.5YR8/3 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英を含む/法	ナヅ、ハケ	
	第63図-4	18-⑤	粘土土層	変	7.7	6.3	4.1	10YR6/3 浅黄褐色 10YR6/3 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ、マメコ、ナヅ	
	第63図-5	18-⑤	粘土土層	変	8.9	6.5	6.2	10YR6/4 浅黄褐色 8/2/ 褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ、マメコ	
	第63図-6		粘土土層	変		3.7	7.7	7.5YR6/3 浅黄褐色 7.5YR7/4 にぶい褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ	
	第63図-7		粘土土層	変	4.3	5.8		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ	
	第63図-8		粘土土層	変	6.2	6.8		10YR6/3 浅黄褐色 8/2/ 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ	
	採出 番号	図面 番号	種類	岩種	法量 cm (実尺)			重量 (g)	石種	備考	
	第63図-9		石製品	磨製石斧	8.5	4.0	3.0		109	緑灰石	
	第63図-10		石製品	砥石	(4.9)	(4.0)	(3.0)	(86)		片岩	
	第63図-11		石製品	磨製石斧	11.6	5.6	3.25		340	緑砂岩	
	第63図-12		石製品	石鏃	(1.35)	(1.2)	0.2	(0.3)		黒曜石 紀高産	

採出 番号	図面 番号	種類	岩種	法量 cm (実尺)			重量 (g)	石種	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
SX82	第64図-22	石製品	磨製片方石斧	7.7	5.6	2.0	152.6	頁岩	
	第64図-23	石製品	石鏃	1.3	1.3	0.25	0.3	安山岩	
	第64図-24	石製品	砥石	1.5	2.6	1.1	6.4	火成石	
	第64図-25	石製品	砥石	4.0	3.4	2.0	45.5	火成石	
	第64図-26	石製品	石鏃	9.5	7.2	3.3	396.5	緑灰石	砂面を磨ぐ
	第64図-27	石製品	砥石	16.7	10.8	6.3	1,794	安山岩	
	第64図-31	上	磨製品	鏃	(11.3)	2.1	60.2	—	

採出 番号	図面 番号	種類	岩種	法量 cm (実尺)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
				口徑	高さ	底径				
SX16	第65図-1	粘土土層	変	(22.8)	2.6		7.5YR6/4 浅黄褐色 10YR6/4 浅黄褐色	φ1~2mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ	
	第65図-2	粘土土層	変		7.3		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/3 にぶい褐色	φ1mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ	
	第65図-3	粘土土層	高坪	16.6	7.1		7.5YR7/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~4mmの長石、石英、 珪を含む/法	マメコ	
	第65図-4	粘土土層	磨付層		9.0		7.5YR3/3 暗褐色 7.5YR5/2 灰褐色	φ1~5mmの長石、石英、 珪を含む/法	ナヅ、ハケ、工具によるナヅ、 調整	
	第65図-5	粘土土層	変		5.3	8.0	5YR8/4 淡褐色 7.5YR8/3 浅黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ、ハケ	
	第65図-6	粘土土層	変		4.2	9.2	7.5YR7/4 にぶい褐色 7.5YR8/4 浅黄褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ、ハケ	
	第65図-7	粘土土層	変		3.5	(7.8)	5YR6/6 褐色 7.5YR7/6 褐色	φ1~3mmの長石、石英、 珪、角閃石を含む/法	ナヅ、ハケ、調整	

採出 番号	採取 番号	層位	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
	第6段-16	1	石製品	石包丁	3.6	7.8	7.5	24	赤色灰岩	
	第6段-17	1	石製品	砥石	4.5	2.55	1.25	27	緑色砂岩	
	第6段-18	1	石製品	粗粒片岩 石杵	6.3	3.5	1.1	18	頁岩	

採出 番号	採取 番号	種類	器種	質量 cm (貫光顕)			色調		胎土・焼成	成形・調整技法	備考
				口径	器高	底径	外: 内:				
553	第6段-4	陶器	煤鉢		4.0		7.5YR5/3 5YR6/3	じい・褐色 じい・褐色		ナデ・スリメ	

	採出 番号	採取 番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			色調	胎土/構成	成形・調整技法	備考
					口径	器高	底径				
355	第6段-9		岩生土器	甕	5.9	5.6	5YR7/8 7.5YR6/3	褐色 褐色褐色	φ1〜2mmの長石・石英・ 緑・角閃石を含む・流	マメコ	
					8.2	(6.0)	7.5YR7/6 7.5YR6/6	褐色 褐色			
	第6段-13		岩生土器	甕					φ1〜2mmの長石・石英を含む・流	ナデ	
	採出 番号	採取 番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考	
					最大長	最大幅	最大厚				
	第6段-19		石製品	砥石	7.2	7.6	2.2	156	片岩	黒斑	
	第6段-20		石製品	砥石	3.7	3.7	1.2	13	砂岩		

採出 番号	採取 番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
563	第6段-21	石製品	砥石	9.9	12.2	4.2	650	砂岩	粒々が細かい

採出 番号	図版	番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
SX78	第65段-26	3	石製品	銅片	2.8	1.5	5.0	1.8	サナキト	トシムナ
		3	石製品	銅片	3.9	2.1	6.0	6.1	メノサ	

採出 番号	採取 番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
5116	第6段-32	鉄製品	鉄鏝	3.1	0.9		2.8	—	
	第6段-33	鉄製品	鉄鏝	2.4	1.0		5.2	—	

採出 番号	採取 番号	種類	器種	質量 cm (貫光顕)			内径 cm	色調	胎土/焼成	成形・調整技法	備考
				口径	器高	底径					
5X122	第6段-10	岩生土器	甕		10.2		7.5YR6/8 7.5YR4/1	黄褐色 黄褐色	φ1〜2mmの長石・石英・ 緑・角閃石を含む・流	ナデ・ハヤ	
	第6段-11	岩生土器	甕	(23.4)	9.0		5YR5/6 5YR6/6	暗赤褐色 褐色	φ1〜2mmの長石・石英・ 緑を含む・流	ナデ・ハヤ・緑ナデ・黒斑	
	第6段-12	岩生土器	甕		12.6	2.6	7.5YR6/6 7.5YR6/8	黄褐色 黄褐色	φ1〜2mmの長石・石英・ 緑を含む・流	ハヤ・黒斑	
	第6段-14	陶器	すり鉢		3.65		7.5YR4/7 7.5YR4/3	褐色 褐色	砂粒を含む	ナデ	
	第6段-15	陶器	甕		3.3		5YR3/3 5YR3/3	暗赤褐色 暗赤褐色		あて黒斑	
採出 番号	採取 番号	種類	器種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考		
				最大長	最大幅	最大厚					
第6段-30	打製石	石包丁	(4.8)	(8.9)	(0.65)	(30)	緑泥岩				

採出 番号	採取 番号	種類	岩種	質量 cm (貫光顕)			重量 (g)	石種	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
5137	第6段-34	鉄製品	鎌・	5.6	1.6	0.6	17.0	—	

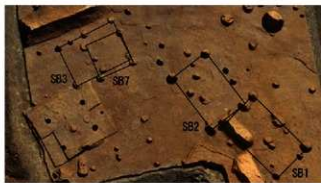
図 版



①令和元年度調査区全景



②令和2年度調査区全景



① SB1～3・7 完掘状況（空中写真）



⑤ SB8 完掘状況（東から）



② SB4 完掘状況（空中写真）



⑥ SB9 完掘状況（北から）



③ SB5 完掘状況（空中写真）



⑦ SB10 完掘状況（南から）



④ SB6、SI10・45・50・65・70 完掘状況
（空中写真）



⑧ SB10P1 堆積状況（東から）



① SB10P2 堆積状況（東から）



⑤ SI10 地割状況（西から）



② SB11 完掘状況（東から）



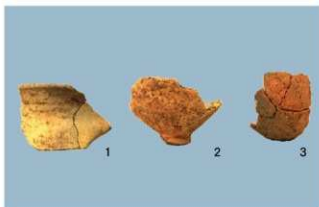
⑥ SI15 完掘状況（南から）



③ SI10 完掘状況（南から）



⑦ SI20 完掘状況（北から）



④ SI10 出土遺物



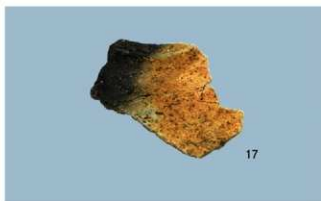
⑧ SI20 出土遺物



① SI25 完掘状況（東から）



⑤ SI45 遺物・炭化物出土状況（東から）



② SI25 出土遺物



⑥ SI50 完掘状況（西から）



③ SI35 完掘状況（西から）



⑦ SI65 完掘状況（南西から）



④ SI45 完掘状況（東から）



⑧ SI65 土坑跡完掘状況（北から）



① SI70 完掘状況（北から）



⑤ SI100 完掘状況（東から）



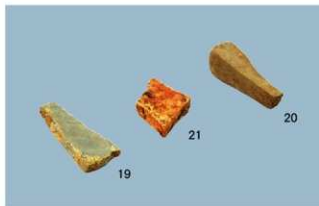
② SI70 出土状況（北から）



⑥ SI115 完掘状況（南から）



③ SI70 出土遺物



⑦ SI115 出土遺物



④ SI180・95 完掘状況（東から）



⑧ SI140 完掘状況（東から）



① SI150 完掘状況（西から）



⑤ SI170・SK200 完掘状況（西から）



② SI150 出土状況（北東から）



⑥ SD13 完掘状況（空中写真）



③ SI150 出土遺物



⑦ SD13 完掘状況（南東から）



④ SI160 完掘状況（東から）



⑧ SD13 堆積状況（東から）



① SD13 堆積状況（南から）



⑤ SD87 堆積状況（北から）



② SD13 堆積状況（東から）



⑥ SD87・89・91・92・99・110 完掘状況（空中写真）



③ SD13 出土遺物



⑦ SD90 完掘状況（空中写真・合成）



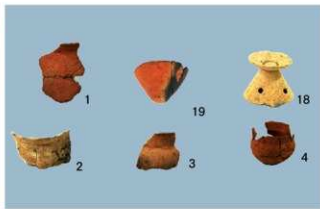
④ SD87 完掘状況（北から）



⑧ SD90（東西）完掘状況（東から）



① SD90（東西）堆積状況（東から）



⑤ SD90 出土遺物



② SD90（東西）堆積状況（西から）



⑥ SD92・99・110 完掘状況（北から）



③ SD90（南北）完掘状況（南から）



⑦ SD99・110 完掘状況（東から）



④ SD90（南北）堆積状況（北から）



⑧ SD110 堆積状況（東から）



① SK1 完掘状況（北から）



⑤ SK6 出土遺物②



② SK5 完掘状況（西から）



⑥ SK7 完掘状況（東から）



③ SK6 完掘状況（北から）



⑦ SK7 出土遺物①



④ SK6 出土遺物①



⑧ SK7 出土遺物②



① SK7 出土遺物③



⑤ SK22 出土遺物



② SK11 完掘状況（西から）



⑥ SK28 完掘状況（南から）



③ SK21 完掘状況（西から）



⑦ SK29 完掘状況（北から）



④ SK22 完掘状況（西から）



⑧ SK30 完掘状況（北から）



① SK31 完掘状況（南から）



⑤ SK38 完掘状況（南から）



② SK32 完掘状況（南から）



⑥ SK39 遺物出土状況（南から）



③ SK33 完掘状況（東から）



⑦ SK39 出土遺物



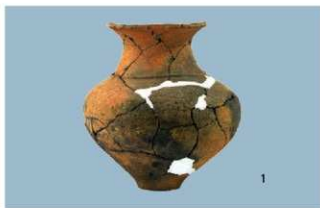
④ SK34 完掘状況（南から）



⑧ SK41 遺物出土状況（東から）



① SK41 出土遺物



⑤ SK43 出土遺物①



② SK42 完掘状況（西から）



⑥ SK43 出土遺物②



③ SK42 出土遺物



⑦ SK44 完掘状況（西から）



④ SK43 完掘状況（西から）



⑧ SK47 完掘状況（東から）



① SK51 完掘状況（西から）



⑤ SK64 完掘状況（南から）



② SK52 完掘状況（西から）



⑥ SK64 堆積状況（南から）



③ SK60 完掘状況（西から）



⑦ SK120 遺物出土状況（西から）



④ SK61 完掘状況（西から）



⑧ SK125 堆積状況（北から）



① SK125 出土遺物



⑤ SK144 完掘状況（西から）



② SK130 完掘状況（北から）



⑥ SK145 完掘状況（北から）



③ SK130 出土遺物



⑦ SK145 完掘状況接写（北から）



④ SK135 完掘状況（北から）



⑧ ST36 堆積状況（東から）



① ST36 完掘状況（東から）



⑤ ST37 完掘状況（南から）



② ST36 出土遺物



⑥ ST37 主体部完掘状況（南から）



③ ST37 堆積状況（南から）



⑦ ST75 検出状況（南から）



④ ST37 堆積状況（東から）



⑧ ST75 出土状況（南から）



① ST75 出土遺物 上甕



⑤ ST155 完掘状況（西から）



② ST75 出土遺物 下甕



⑥ ST155 完掘状況接写（西から）



③ ST155・S123 堆積状況（北から）



⑦ ST175・180・185・195 検出状況（東から）



④ ST155 主体部堆積状況（東から）



⑧ ST175 検出状況（東から）



① ST175 堆積状況（東から）



⑤ ST180 石蓋検出状況（西から）



② ST175 赤色顔料検出状況（西から）



⑥ ST180 石蓋除去状況（西から）



③ ST175 完掘状況（東から）



⑦ ST180 出土遺物



④ ST180 堆積状況（北から）



⑧ ST185 出土状況（南から）



① ST185 出土遺物



⑤ SP650 出土遺物



② SP550 堆積状況（北から）



⑥ SX124 完掘状況（東から）



③ SP550 完掘状況（北から）



⑦ 令和元年度調査風景



④ SP650 出土状況（東から）

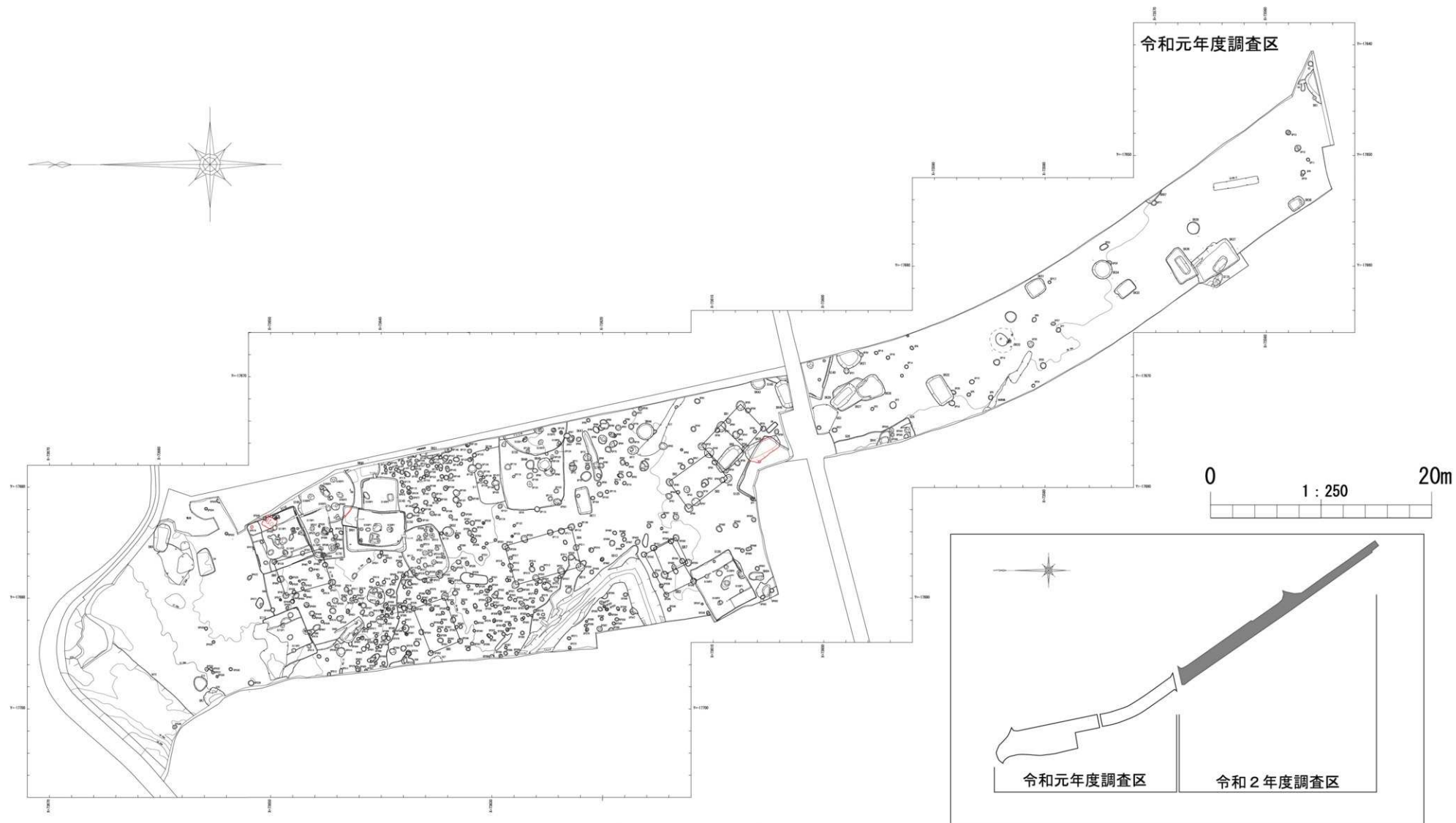


⑧ 令和2年度調査風景

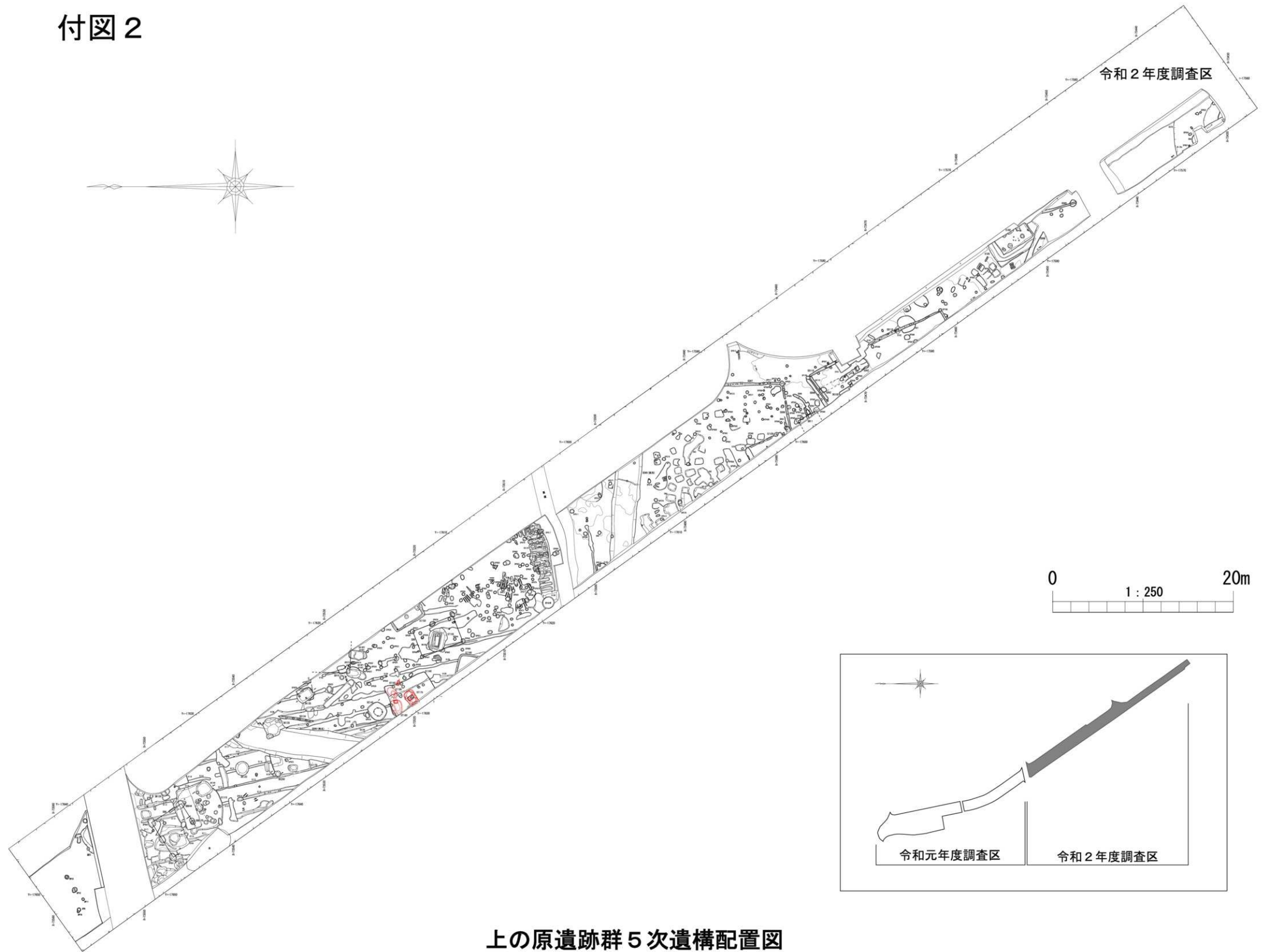
報告書抄録

ふりがな	うえのはらいせきぐん5じ							
書名	上の原遺跡群5次							
副書名	市道金川小学校3号線新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	田川市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第19集							
編著書名	江上正高・志賀智史・株式会社古環境研究所							
編集機関	田川市教育委員会							
所在地	福岡県田川市大字伊田 2550 番地 1							
発行年月日	令和 4（2022）年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
うまのせういせきぐん 上の原遺跡群	福岡県田川市 大字轄地内（市 道金川小学校 3 号線）	40206	54	33° 39' 46.93"	130° 48' 35.45"	20191118 ～ 20200331 ・ 20201105 ～ 20210226	2,960㎡	道路
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上の原遺跡群	散布地、 集落跡、 その他の墳墓	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世・近代	掘立柱建物跡、竪 穴建物跡、土坑跡、 墓跡、柱穴跡 掘立柱建物跡、竪 穴建物跡、方形区 画溝跡、布掘溝跡 溝跡、土坑跡 溝跡、牛馬歩行跡	弥生土器、石製品、 甕棺 古式土師器、石製品、 鉄製品 土師器、黒色土器、瓦 土師器、輸入陶磁器 近世陶磁器		弥生時代中期後半の墓 域を確認した。 古墳時代前期後半頃の 方形区画溝跡と布掘溝 跡を確認した。		
要約	上の原遺跡群は、田川市の東部、英彦山から続く丘陵の先端に位置し、標高約 36 ～ 39m の台地に立地する。 今次は、弥生時代の集落跡と、当遺跡群で初めて墓域を把握することができた。古墳時代は方形区画溝跡 2 辺を把握し、布掘溝跡を備えることが明らかとなった。また、方形区画溝跡外にも布掘溝跡で区画する空間を確認することができた。古代は遺構の展開が限られるが、本遺跡群南側に位置する倉ヶ原遺跡との関係を認識できることが明らかとなった。 当遺跡群はこれまで 5 次の調査を実施し、弥生時代から近代にわたる遺構の展開がみられた。台地全域にわたる遺構の展開を確認でき、台地上での土地利用の変遷を考えるうえでも重要な成果といえる。							

付図 1



付図 2



上の原遺跡群 5 次遺構配置図

上の原遺跡群 5 次

市道金川小学校 3 号線道路新設に伴う発掘調査報告

田川市文化財調査報告書第 19 集

令和 4 年 3 月 31 日

発 行 田川市教育委員会

〒 825 - 0002 福岡県田川市大字伊田 2550 番地 1

印 刷 丸五印刷株式会社

〒 825 - 0001 福岡県田川市大字伊加利 2204 - 26